

高齢者福祉・介護に関するアンケート 調査結果報告書

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の見方	2
II	一般高齢者アンケート調査結果	3
1	調査対象者自身について	3
1-1	調査票の記入者	3
1-2	調査対象者の性別	3
1-3	調査対象者の年齢	4
1-4	調査対象者の現在の就労状況	5
1-5	調査対象者の居住地区	6
1-6	調査対象者の要介護度	7
2	調査対象者の家族や生活状況について	8
2-1	家族構成	8
2-2	介護・介助の必要性	9
2-2①	介護・介助が必要になった主な原因	10
2-2②	介護者・介助者について	11
2-3	経済的状況について	12
3	からだを動かすことについて	13
3-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか	13
3-2	何もつかまらずに椅子から立ち上がれるか	13
3-3	15分ぐらい続けて歩けるか	14
3-4	過去1年間の転んだ経験	14
3-4①	転んだ場所	15
3-5	転倒の不安は大きい	16
3-6	ひとりで外出するか	16
3-7	週に1回以上外出しているか	17
3-8	昨年と比べて外出の回数が減っているか	17
3-9	外出を控えているか	18
3-9①	外出を控えている理由	19
3-10	外出する際の移動手段	20
3-11	コミュニティバスの利用目的	21
3-12	タクシーの待ち時間	22

4	健康について	23
4-1	健康状態	23
4-2	幸福度	23
4-3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか	24
4-4	この1か月間、物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがあるか	24
4-5	やせと肥満の状況	25
4-6	半年前に比べて固いものが食べにくい	25
4-7	歯磨きを毎日しているか	26
4-8	歯と入れ歯の利用状況	26
4-9	だれかと食事をともにする機会	27
4-10	喫煙状況	27
4-11	治療中、後遺症のある病気の状況	28
4-12	かかりつけ医師	29
4-12①	かかりつけ医師の診療科	29
4-12②	かかりつけ医師の通院先	30
4-13	かかりつけ歯科医師	30
4-13①	かかりつけ歯科医師の通院先	31
4-14	通院頻度	31
4-15	かかりつけ薬局	32
4-15①	かかりつけ薬局・薬剤師の場所	32
5	毎日の生活について	33
5-1	物忘れは多いか	33
5-2	自分で買い物をしているか	33
5-3	自分で食事の用意をしているか	34
5-4	自分で請求書の支払いをしているか	34
5-5	自分で預貯金の出し入れをしているか	35
5-6	趣味はあるか	35
5-7	生きがいはあるか	36
5-8	生活の困りごと	37
6	認知症について	38
6-1	認知症のイメージ	38
6-2	自分自身または家族に認知症の症状があるか	39
6-2①	認知症の症状がある人	39
6-3	自分自身が認知症になったときの不安なこと	40
6-4	家族が認知症になったときの不安なこと	41
6-5	認知症の相談窓口の認知度	42
6-6	利用したい認知症施策	43
6-7	認知症の人の生活の維持について	44
6-8	充実してほしい認知症施策	45

7	交流について	46
7-1	心配ごとやぐちを聞いてくれる人	46
7-2	心配ごとやぐちを聞いてあげる人	47
7-3	看護や世話をしてくれる人	48
7-4	看護や世話をしてあげる人	49
7-5	家族や友人以外の相談相手	50
7-6	友人・知人と会う頻度	51
7-7	1か月間で友人・知人と会った人数	51
8	地域での活動について	52
8-1	参加している活動の頻度	52
8-2	活動に参加者として参加したいか	53
8-3	活動に運営者として参加したいか	53
9	高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）等について	54
9-1	高齢者あんしん相談センターの認知度	54
9-2	高齢者あんしん相談センターの利用経験	54
9-3	成年後見制度の認知度	55
9-4	成年後見制度の利用意向	55
10	高齢者施策について	56
10-1	元気で生活するために行っていること	56
10-2	高齢者支援事業の認知度・利用度と利用意向	58
10-3	市民健康館さらさくらの利用頻度	60
10-3①	市民健康館さらさくらの利用目的	61
10-4	期待する市民健康館の新たな機能	62
10-5	高齢者施策	63
Ⅲ	居宅サービス利用者調査結果	65
1	調査票記入者及び介護者	65
1-1	記入者	65
1-2	主な介護者	66
2	調査対象者	67
2-1	性別	67
2-2	年齢	67
2-3	家族構成	68
2-4	居住地区	68
2-5	要介護度	69
2-6	要介護認定を受けた理由	70
2-7	要介護状態になった主なきっかけ	71
2-8	要介護認定手続きで困ったこと	72
2-9	要介護度の変化	73

2-9① 要介護認定軽度化の理由	74
2-9② 要介護認定重度化の理由	75
2-10 要介護認定が重度化しないためにしていること	76
2-11 現在の生活	77
2-12 認知症状について	78
2-13 認知症に気づいた周囲の人	79
2-14 認知症に気づいた理由	80
2-15 充実してほしい認知症施策	82
3 介護保険料や介護サービスの利用料について	84
4 介護保険サービスの今後の利用意向	85
4-1 在宅生活に必要なサービス	85
4-2 デイサービスの利用希望時間	86
4-3 充実してほしいデイサービス内容	86
5 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）等について	87
5-1 高齢者あんしん相談センターの認知度	87
5-2 高齢者あんしん相談センターの利用経験	87
5-2① 高齢者あんしん相談センターの印象	88
5-3 力を入れてほしい高齢者あんしん相談センターの事業内容	89
5-4 成年後見制度の認知度	90
5-5 成年後見制度の利用意向	90
6 希望する将来の過ごし方	91
6-1 希望する終末期の過ごし方	91
6-1① 終末期を自宅で過ごすことが困難な理由	92
7 高齢者施策について	93
7-1 元気で過ごすために取り組んでいること	93
7-2 期待する高齢者施策	95

I 調査概要

1 調査目的

本市では、健康で生きがいのある長寿社会の実現を目指して、高齢者福祉計画・介護保険事業計画、認知症施策推進計画を策定し、高齢者福祉や介護保険事業を推進しています。

令和9年度から始まる新たな計画を策定するにあたり、市民の生活実態や自立した生活を送るうえでの課題等を把握し、地域に適した施策を推進するため、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象

○一般高齢者調査

65歳以上、総合事業対象者、要支援認定者のいずれかに該当する方 2,000 名

○居宅サービス利用者調査

要介護認定を受けて、在宅で介護保険サービスをご利用されている方 500 名

3 調査期間

令和7年11月25日（火）～12月16日（火）

4 調査方法

郵送配布・郵送回収及びWEB 回答

5 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率	前回調査回収率
一般高齢者	2,000	1,468	73.4%	68.5%
居宅サービス利用者	500	294	58.8%	41.2%

6 調査結果の見方

- ・グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフを用いて表現しています。基数となる実数（各設問の回答者数）はnとして掲載し、各グラフの構成比（%）はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比（%）は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも 100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー（選択肢）などの表現は、一部省略してある場合があります。
- ・属性別の分析において、回答数（母数）が少ない属性についての比較分析は記載していません。また、全体の傾向やその他の属性と比較し、顕著な特徴がみられない属性についても比較分析は記載していません。

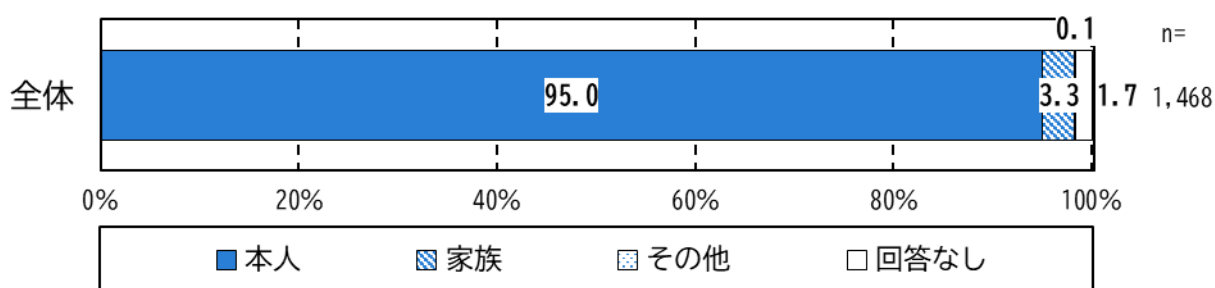
Ⅱ 一般高齢者アンケート調査結果

1 調査対象者自身について

1-1 調査票の記入者

調査票の記入者は、「本人」が 95.0%

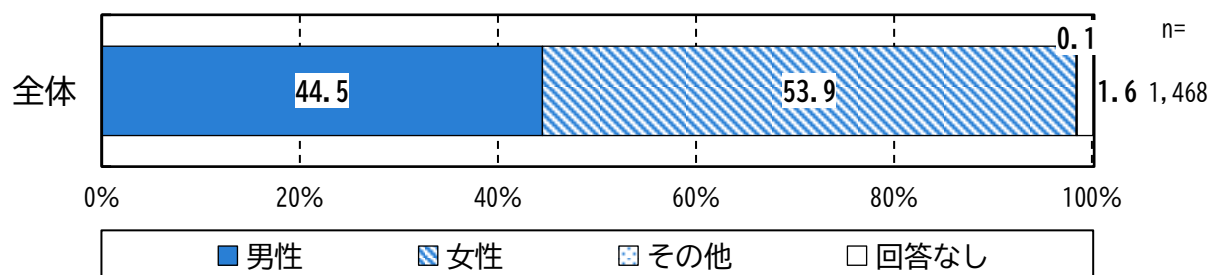
調査票の記入者は、「本人」が 95.0%と最も高くなっています。「家族」は 3.3%とわず
かです。



1-2 調査対象者の性別

調査対象者の性別は男性 44.5%、女性 53.9%、その他 0.1%

調査対象者の性別は、「男性」44.5%、「女性」53.9%、「その他」0.1%と女性の割合がや
や高くなっています。

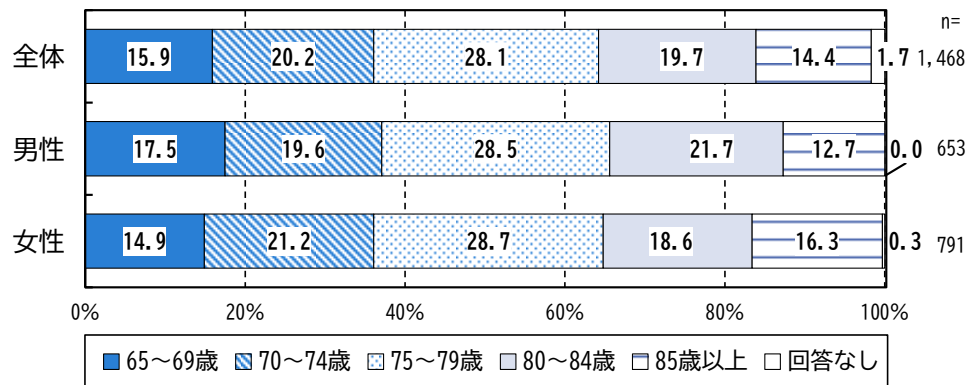


1-3 調査対象者の年齢

調査対象者の年齢は 75 歳以上の後期高齢者が 62%

調査対象者の年齢は「75～79 歳」が 28.1%と最も高くなっています。65～74 歳の前期高齢者が 36.1%、75 歳以上の後期高齢者が 62.2%となっています。

男女別にみても大きな差はありません。



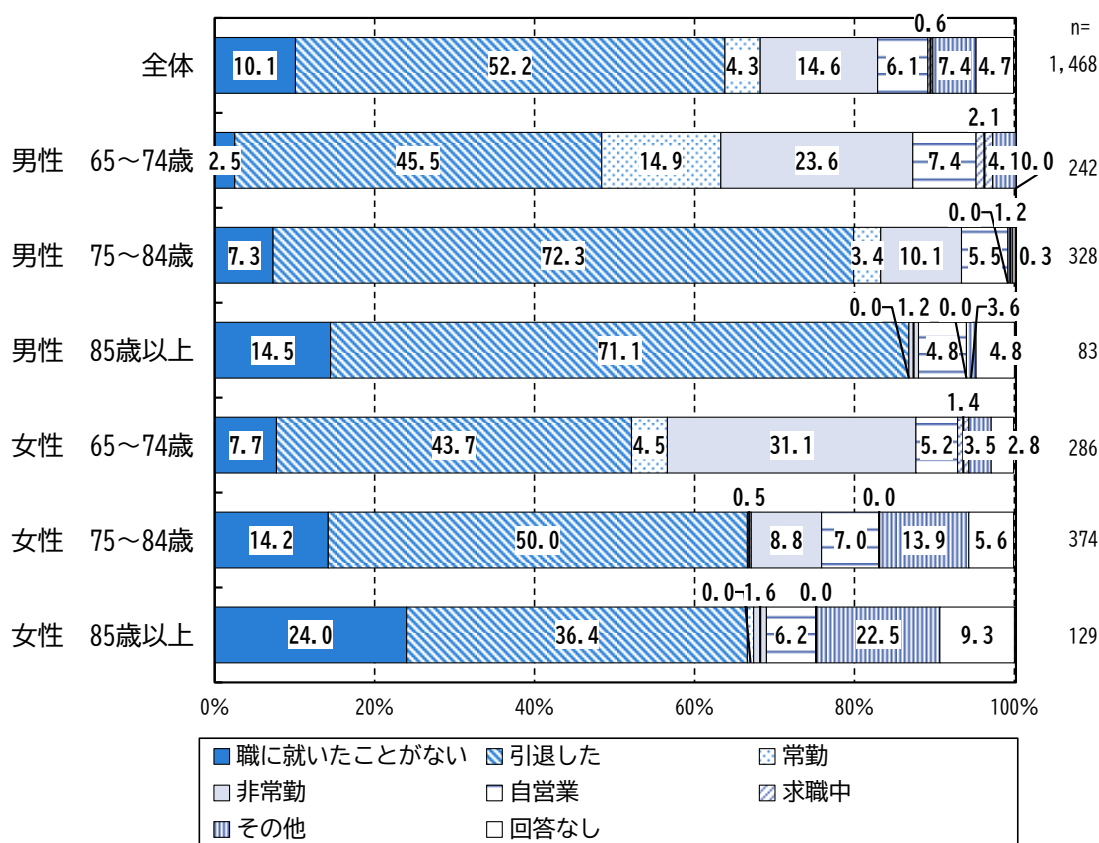
1-4 調査対象者の現在の就労状況

現在の就労状況は、「引退した」が52%、「就労している」人は25%

現在の就労状況は「引退した」が52.2%と半数を占めて最も高くなっています。「職に就いたことがない」10.1%を合わせると62.3%が“就労していない”と回答しています。

一方で、「常勤」「非常勤」「自営業」の“就労している”は25.0%です。

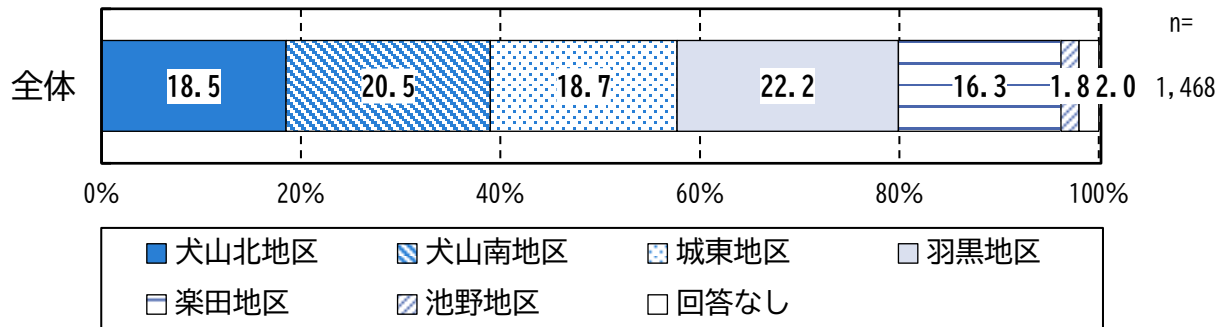
性別・年齢別にみると男性・65～74歳は45.9%、「女性・65～74歳」は40.8%が“就労している”状況です。“就労していない”は半数程度です。75歳以上になると男女とも急激に“就労していない”が高くなっています。



1-5 調査対象者の居住地区

居住地区は、羽黒地区が22.2%と最も高い。

居住地区は、「羽黒」が22.2%と最も高く、「犬山北」、「犬山南」、「城東」はそれぞれ20%程度を占め、「池野」は1.8%と他の地区に比べてやや低くなっています。

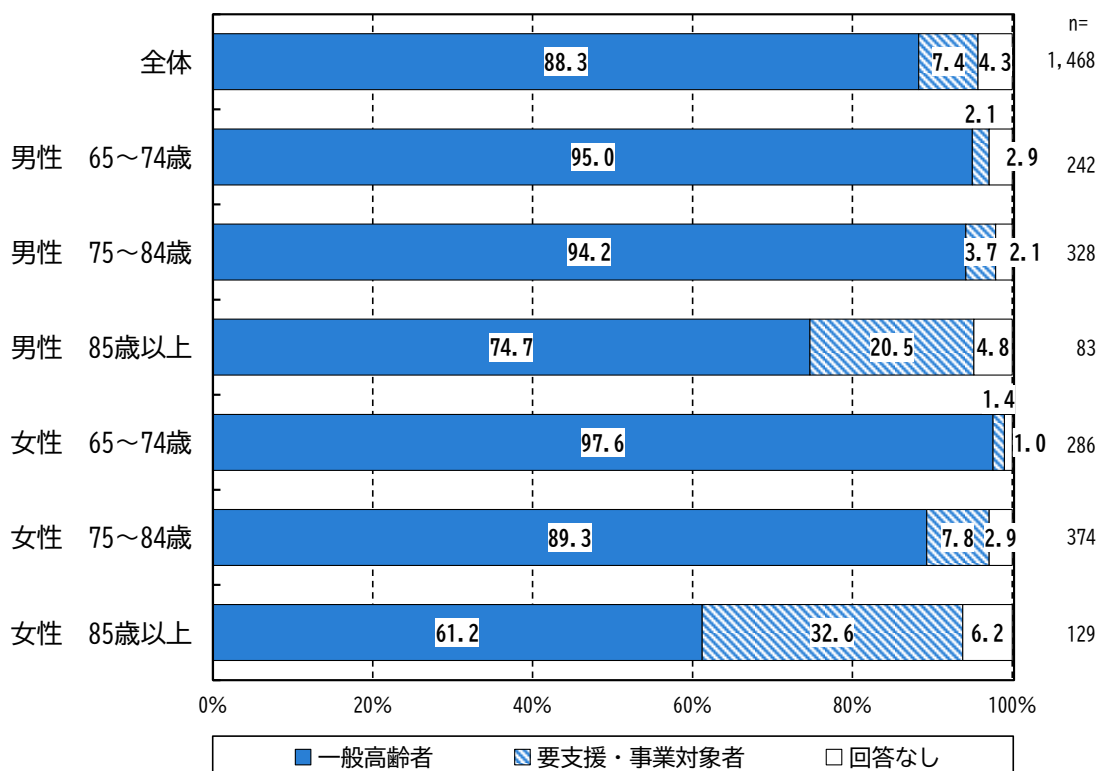
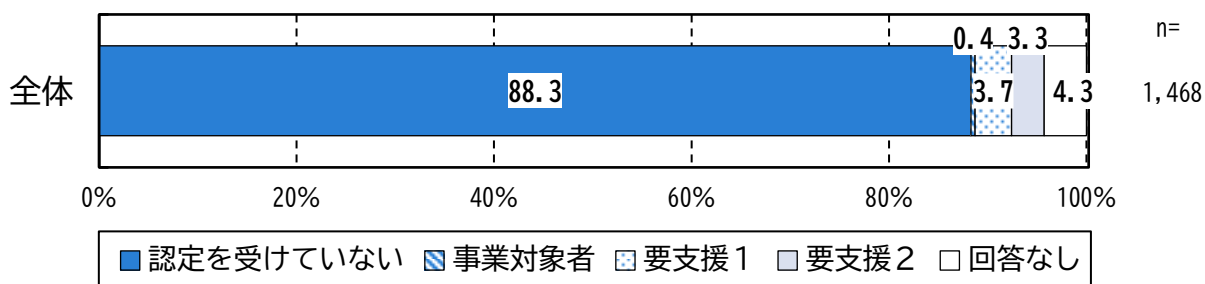


1-6 調査対象者の要介護度

事業対象者・要支援1・2の該当者は7.4%

要介護認定の状況は、「事業対象者」が0.4%、「要支援1」が3.7%、「要支援2」が3.3%で合わせると7.4%となっています。「認定を受けていない」が88.3%と最も高くなっています。

性別・年齢3区分別に、認定を受けていない「一般高齢者」と、事業対象者、要支援1・2の認定を受けている「要支援・事業対象者」の2区分をみると、男女ともに年齢が上がるにしたがって「要支援・事業対象者」の比率が高くなっており、85歳以上になると男性は20.5%、女性は32.6%とかなり高くなっています。

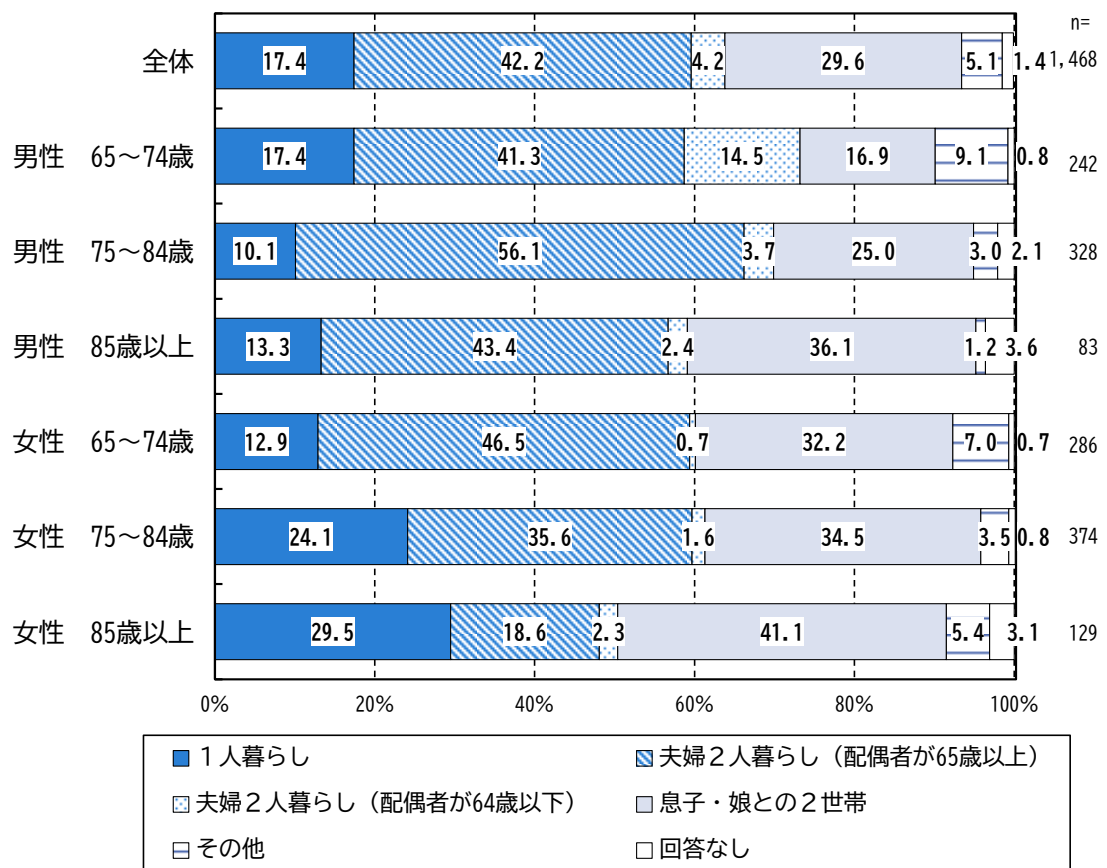


2 調査対象者の家族や生活状況について

2-1 家族構成

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者が65歳以上）」が42.2%と最も高い。

家族構成は「夫婦2人暮らし（配偶者が65歳以上）」の高齢夫婦世帯が42.2%と最も高くなっています。



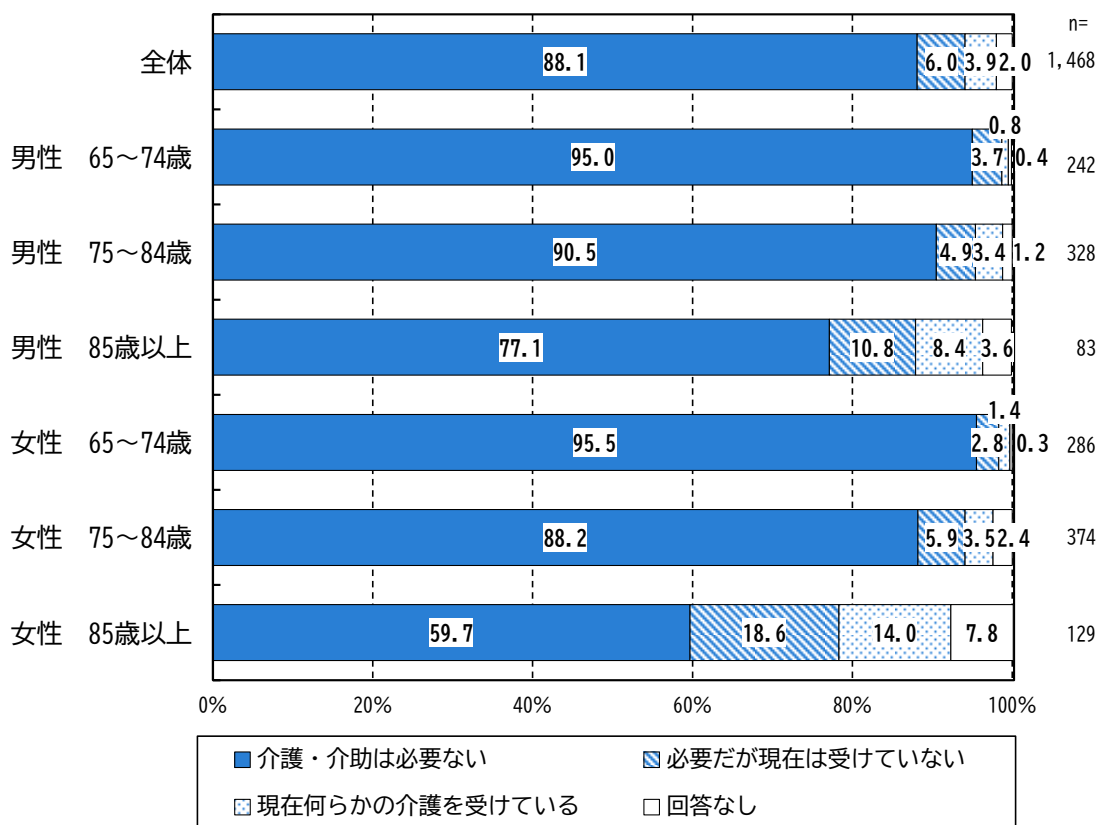
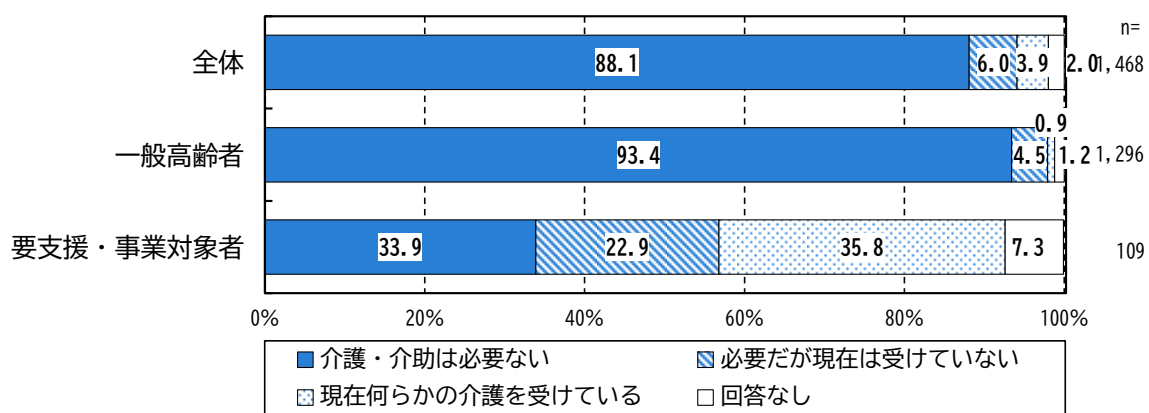
2-2 介護・介助の必要性

「介護を受けている」は3.9%、「必要だが、受けていない」は6.0%

介護・介助の必要性は、「必要だが現在は受けていない」が6.0%、「現在何らかの介護を受けている」が3.9%で、合わせて9.9%が“介護・介助が必要”な状況にあると回答しています。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者は58.7%の半数以上が“介護・介助が必要”と回答しています。

性別・年齢3区分別にみると、男女ともに年齢が上がるにしたがって“介護・介助が必要”の割合が高くなり、85歳以上では急激に高くなります。特に女性・85歳以上は、32.6%と高くなっています。

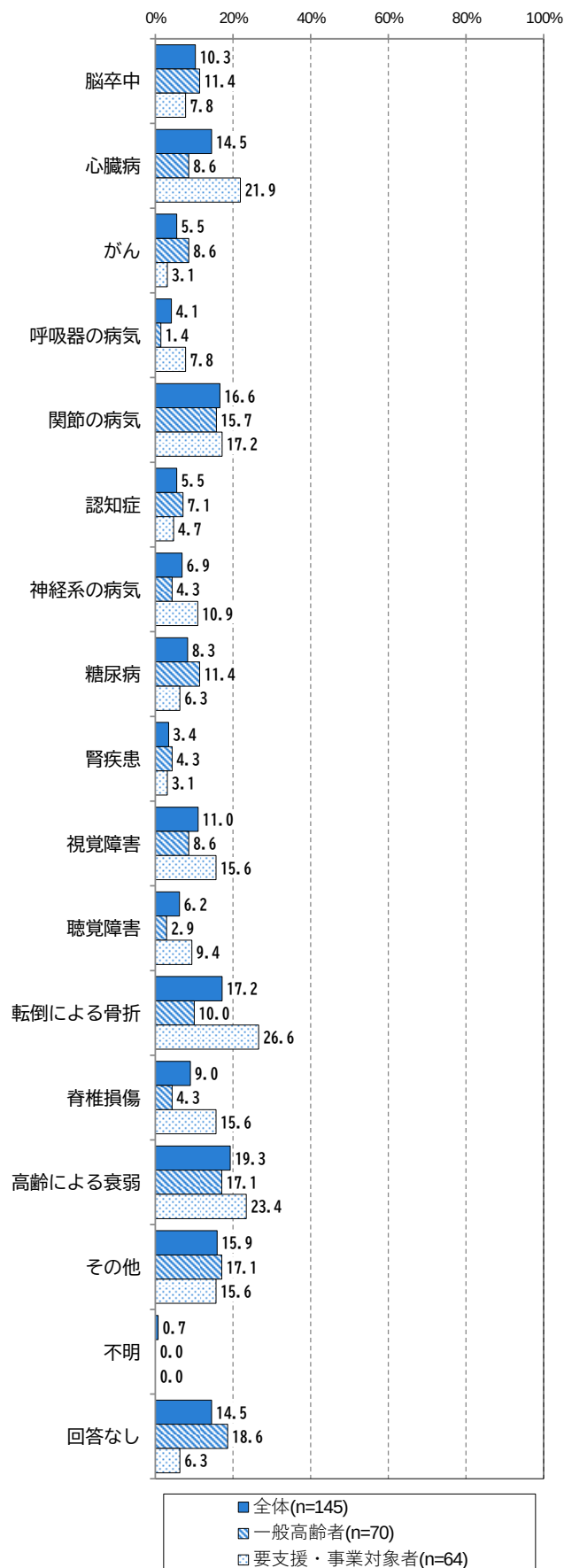


2-2① 介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった原因は、衰弱、転倒による骨折、関節の病気

介護・介助が必要と回答した 145 人を対象に、必要になった主な原因を尋ねたところ、「高齢による衰弱」が 19.3%と最も高く、「転倒による骨折」が 17.2%、「関節の病気」が 16.6%と続いています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「高齢による衰弱」が最も高く、「関節の病気」が続いています。要支援・事業対象者は「転倒による骨折」が 26.6%と最も高く、「高齢による衰弱」が 23.4%、「心臓病」が 21.9%と 20%を超えて高く、一般高齢者との差も大きい状況です。

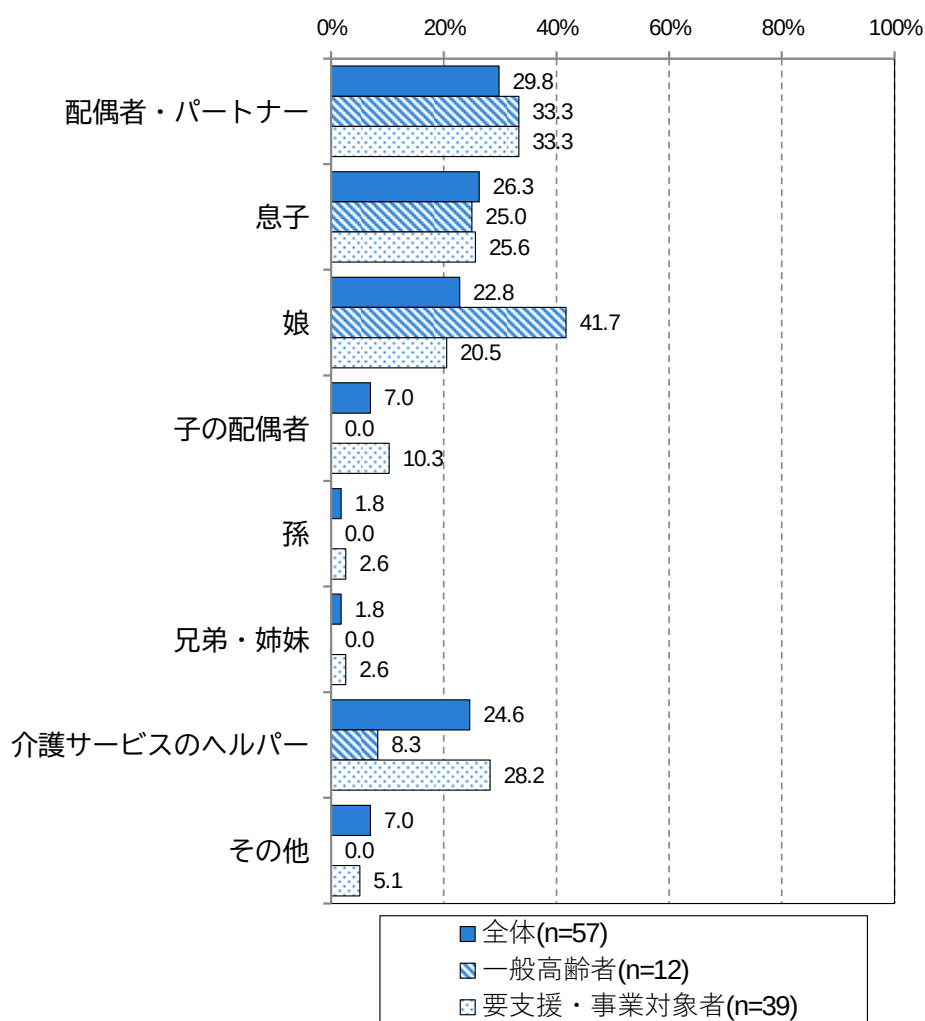


2-2② 介護者・介助者について

介護者・介助者は、配偶者・パートナー、こども、ヘルパー

介護が必要と回答した 57 人に、介護者・介助者を尋ねたところ、「配偶者・パートナー」が 29.8%と最も高く、「息子」が 26.3%、「介護サービスのヘルパー」が 24.6%、「娘」が 22.8%と続いています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「娘」が 41.7%と最も高くなっています。要支援・事業対象者は「配偶者・パートナー」が最も高く、「介護サービスのヘルパー」が続いています。



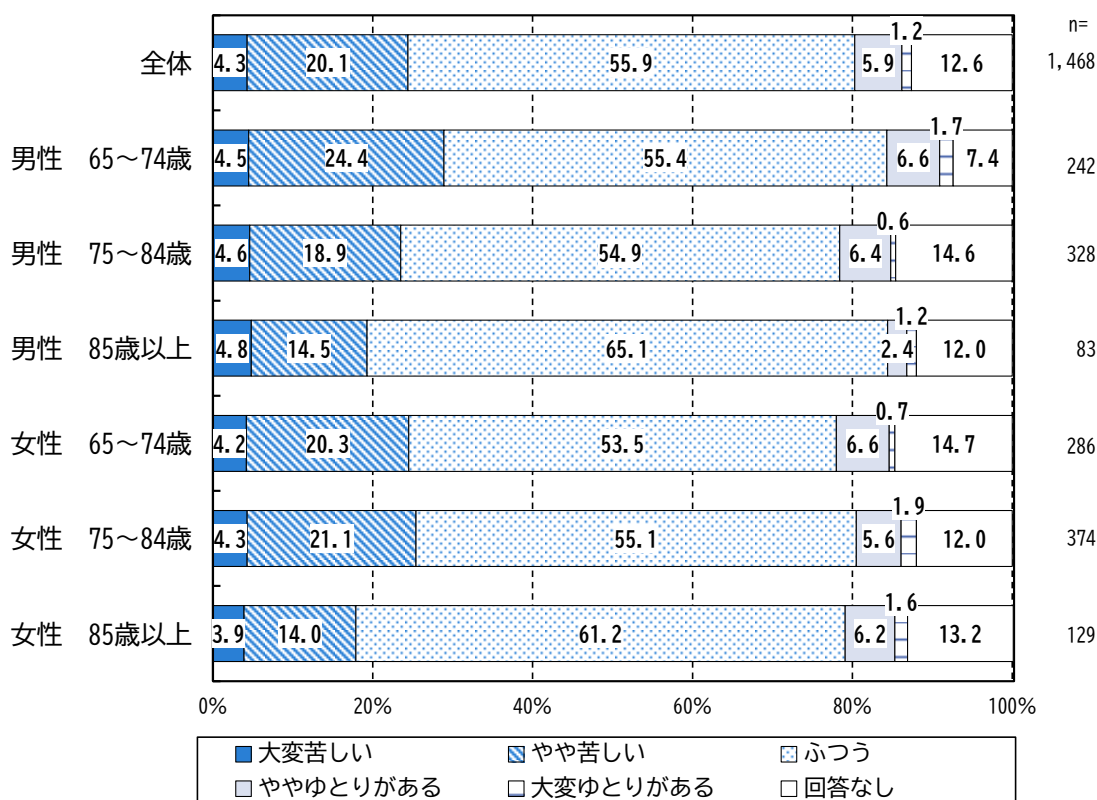
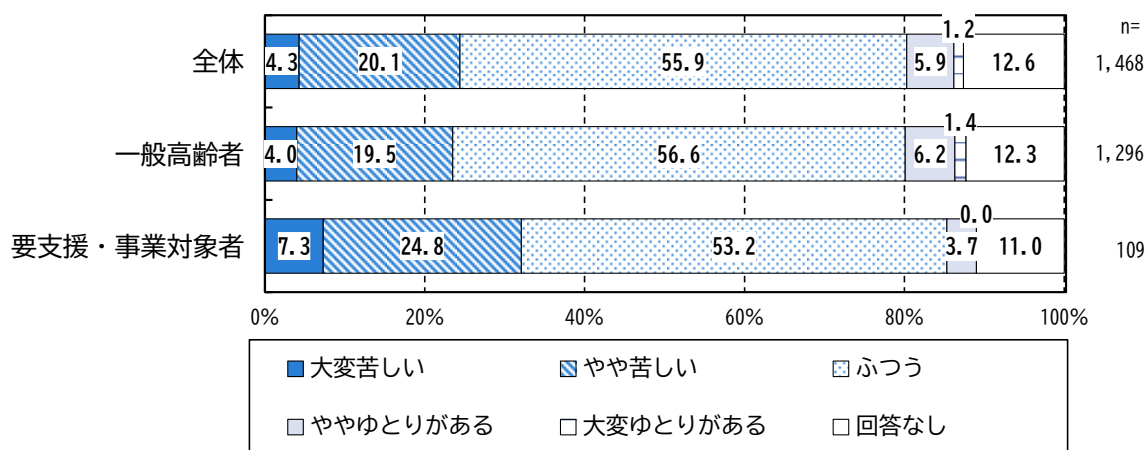
2-3 経済的状况について

24.4%が経済的に“苦しい”

経済的状况については、「大変苦しい」が4.3%、「やや苦しい」が20.1%で、合わせると24.4%が“苦しい”と回答しています。

要介護状態別では、要支援・事業対象者は“苦しい”が32.1%と、一般高齢者に比べてやや高くなっています。

性別・年齢3区分別では、男性は年齢が低いほど“苦しい”と回答している比率が高くなっています。女性は84歳以下では“苦しい”が25%前後を占めていますが、85歳以上になると下がる傾向にあります。

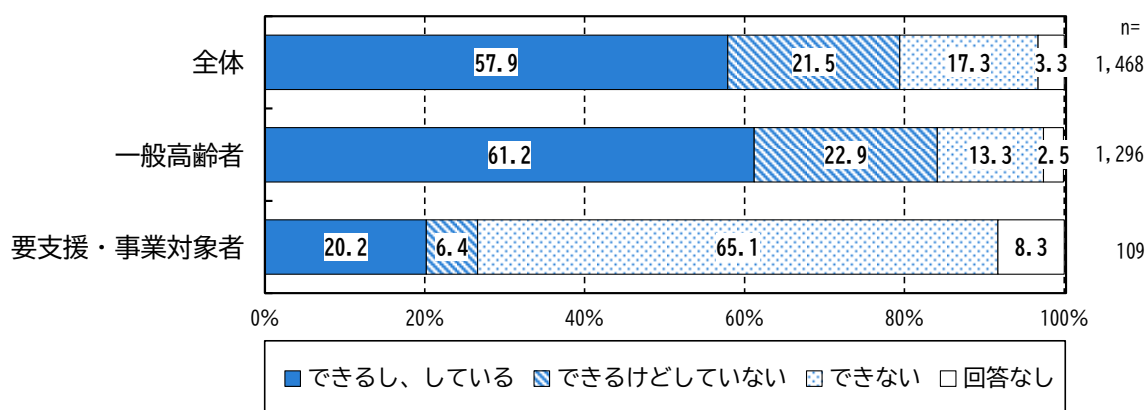


3 からだを動かすことについて

3-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか

階段を手すりなどをつたわずに昇れるのは 57.9%

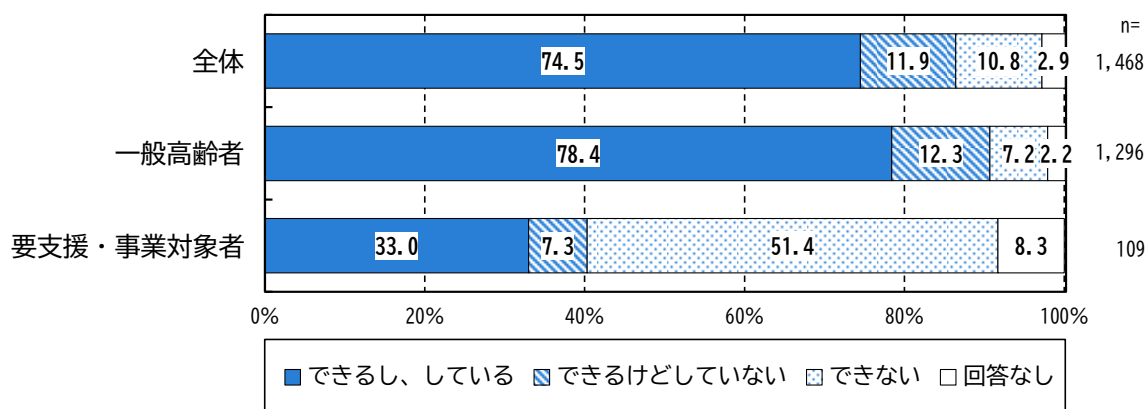
階段を手すりなどをつたわずに昇れるか尋ねたところ、「できるし、している」は一般高齢者では 61.2%で、要支援・事業対象者では 20.2%に留まっています。要支援・事業対象者は「できない」が 65.1%と最も高くなっています。



3-2 何もつかまらずに椅子から立ち上がれるか

何もつかまらずに椅子から立ち上がれるのは 74.5%

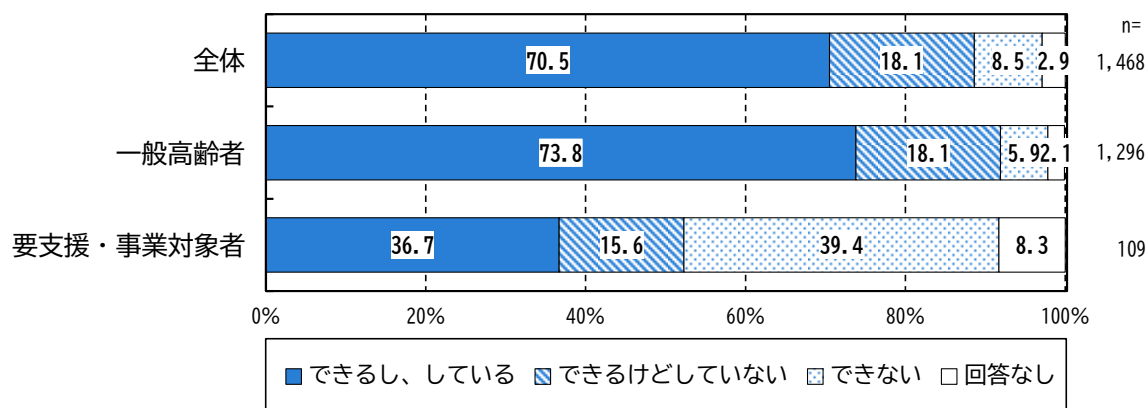
何もつかまらずに椅子から立ち上がれるか尋ねたところ、「できるし、している」は一般高齢者では 78.4%で、要支援・事業対象者では 33.0%に留まっています。要支援・事業対象者は「できない」が 51.4%と最も高くなっています。



3-3 15分ぐらい続けて歩けるか

15分ぐらい続けて歩けるのは70.5%

15分ぐらい続けて歩けるか尋ねたところ、「できるし、している」は一般高齢者では73.8%で、要支援・事業対象者では36.7%に留まっています。要支援・事業対象者は「できない」が39.4%と最も高くなっています。

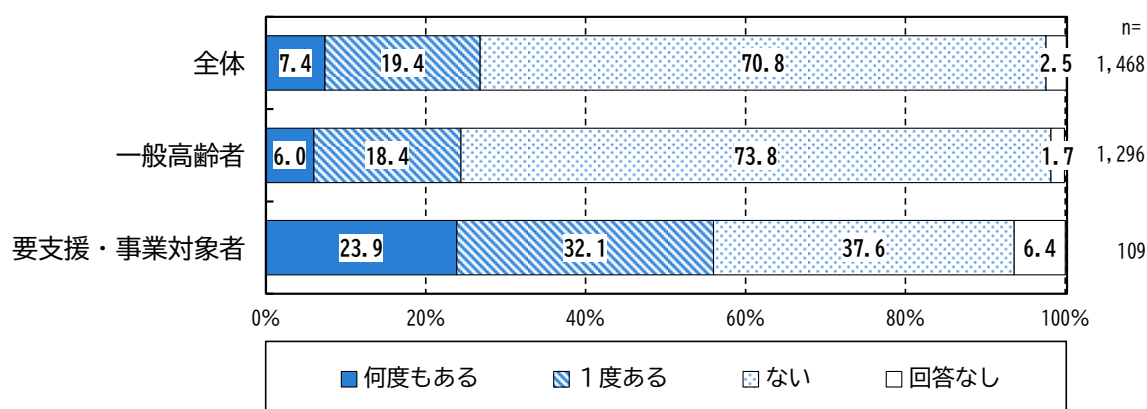


3-4 過去1年間の転んだ経験

1年間に転んだ経験のある人は26.8%

過去1年間に転んだ経験が「何度もある」が7.4%、「1度ある」が19.4%で、合わせると26.8%が“転んだ経験がある”と回答しています。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者は“転んだ経験がある”が56.0%と半数を超えており、「何度もある」が23.9%を占めています。一般高齢者でも“転んだ経験がある”は24.4%で4人に1人程度となっています。

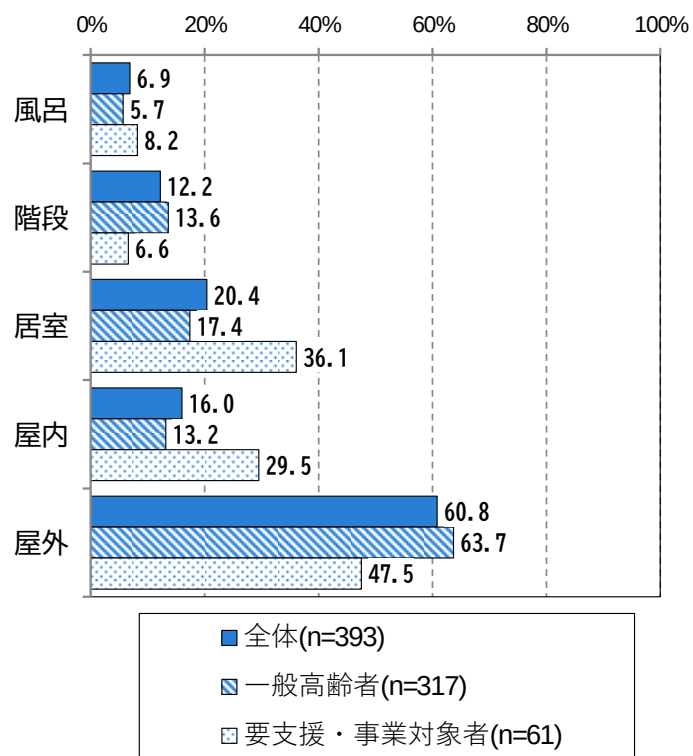


3-4① 転んだ場所

転んだ場所は「屋外」が 60.8%

“転んだ経験がある”と回答した 393 人に、転んだ場所を尋ねたところ「屋外」が 60.8%と最も高くなっています。「居室」が 20.4%、「屋内」16.0%が続いています。

要介護の状況別では、一般高齢者、要支援・事業対象者共に「屋外」が最も高くなっていますが、一般高齢者の比率が高くなっています。一方、「居室」「屋内」は要支援・事業対象者がかなり高くなっています。

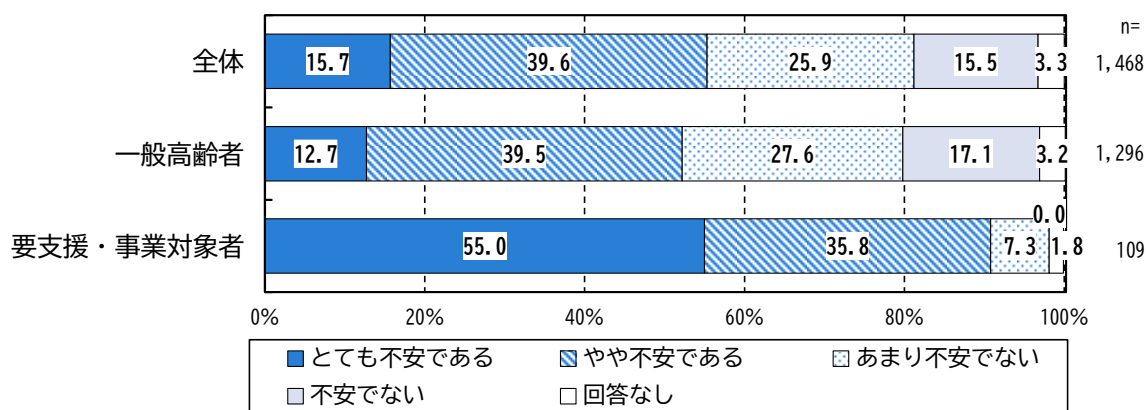


3-5 転倒の不安は大きい

転倒に対する不安ありは 55.3%と半数以上

転倒に関して、「とても不安である」が 15.7%、「やや不安である」が 39.6%で合わせると 55.3%が”不安である”と回答しています。

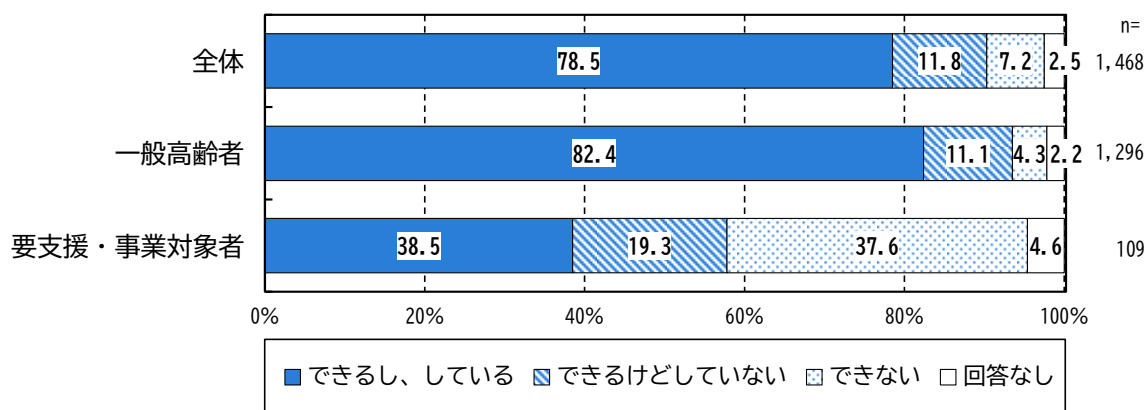
要介護の状況別では、“不安である”は一般高齢者は 52.2%と半数を超え、要支援・事業対象者は 90.8%とかなり高くなっています。



3-6 ひとりで外出するか

ひとりで外出している人は 78.5%

ひとりで外出するかを尋ねたところ、「できるし、している」は一般高齢者では 82.4%で、要支援・事業対象者では 38.5%に留まっています。要支援・事業対象者は「できない」が 37.6%と一般高齢者に比べてかなり高くなっています。

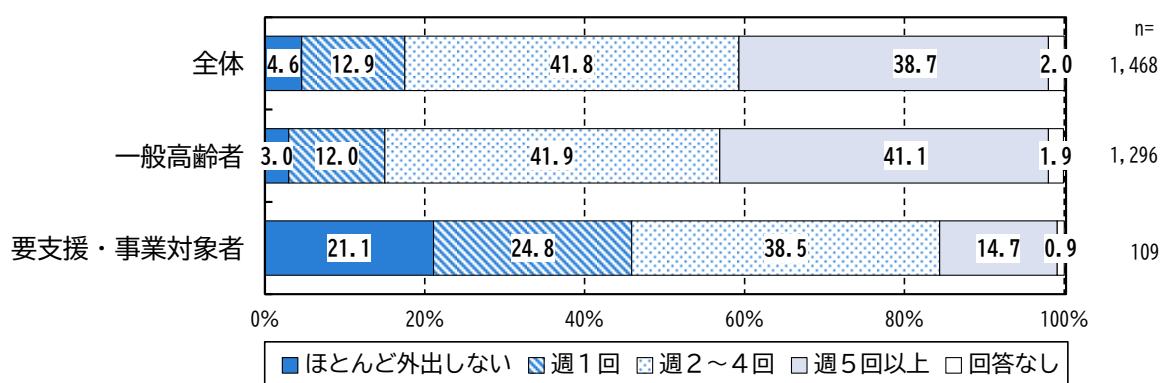


3-7 週に1回以上外出しているか

週1回以上外出している人が93.4%

週1回以上外出しているかどうか尋ねたところ、「週1回」が12.9%、「週2～4回」が41.8%と最も高く、「週5回以上」が38.7%と続いており、合わせると“週1回以上外出している”人の割合は93.4%となっています。一方で4.6%は「ほとんど外出しない」と回答しています。

要介護の状況別では、“週1回以上外出している”は、一般高齢者では95.0%に対して、要支援・事業対象者は55.6%に留まっています。要支援・事業対象者は「週1回」が24.8%、「ほとんど外出しない」も21.1%と一般高齢者に比べてかなり高くなっています。

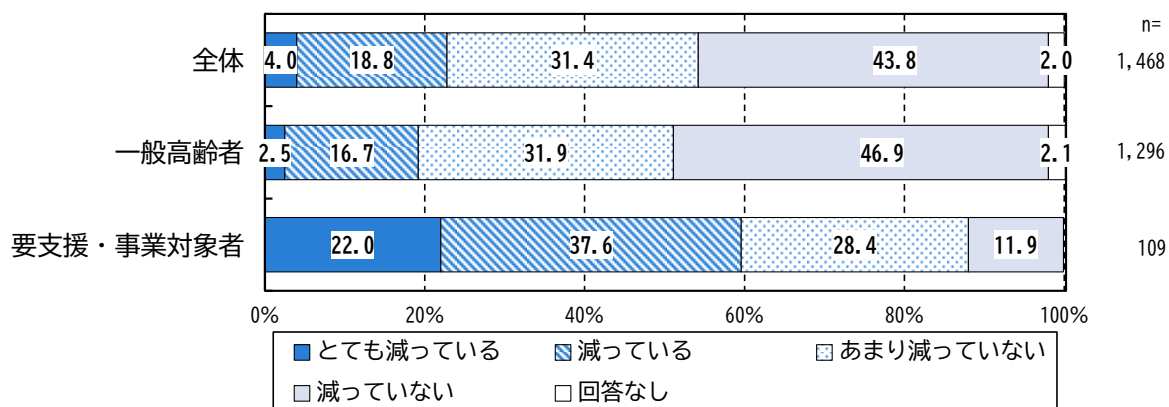


3-8 昨年と比べて外出の回数が減っているか

外出の回数が“減っている”が22.8%

昨年と比べた外出の回数は、「とても減っている」が4.0%、「減っている」が18.8%で、合わせると22.8%が“減っている”と回答しています。

要介護の状況別では、“減っている”は一般高齢者では19.2%に対して、要支援・事業対象者は59.6%とかなり高くなっており、「とても減っている」が22.0%を占めています。

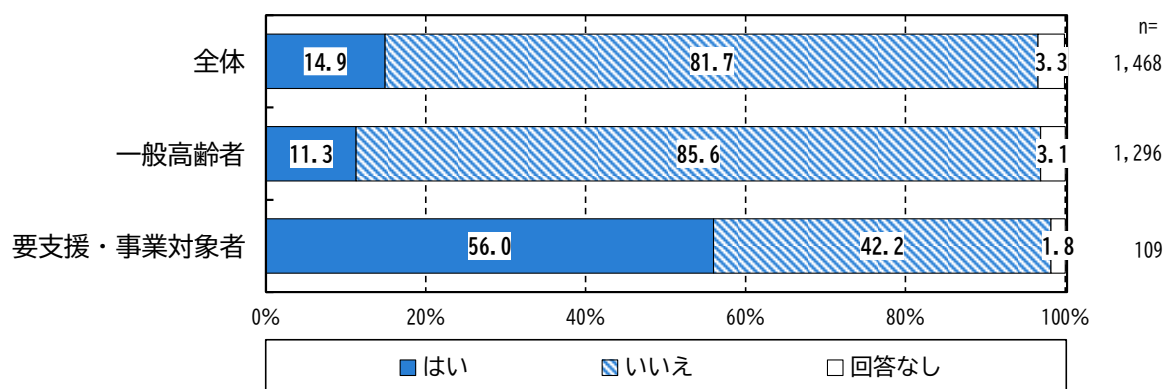


3-9 外出を控えているか

外出を控えている人は14.9%

外出を控えているかと尋ねたところ、「はい」が14.9%となっています。

要介護の状況別では、「はい」が一般高齢者は11.3%に対して、要支援・事業対象者は56.0%と半数を超えてかなり高くなっています。

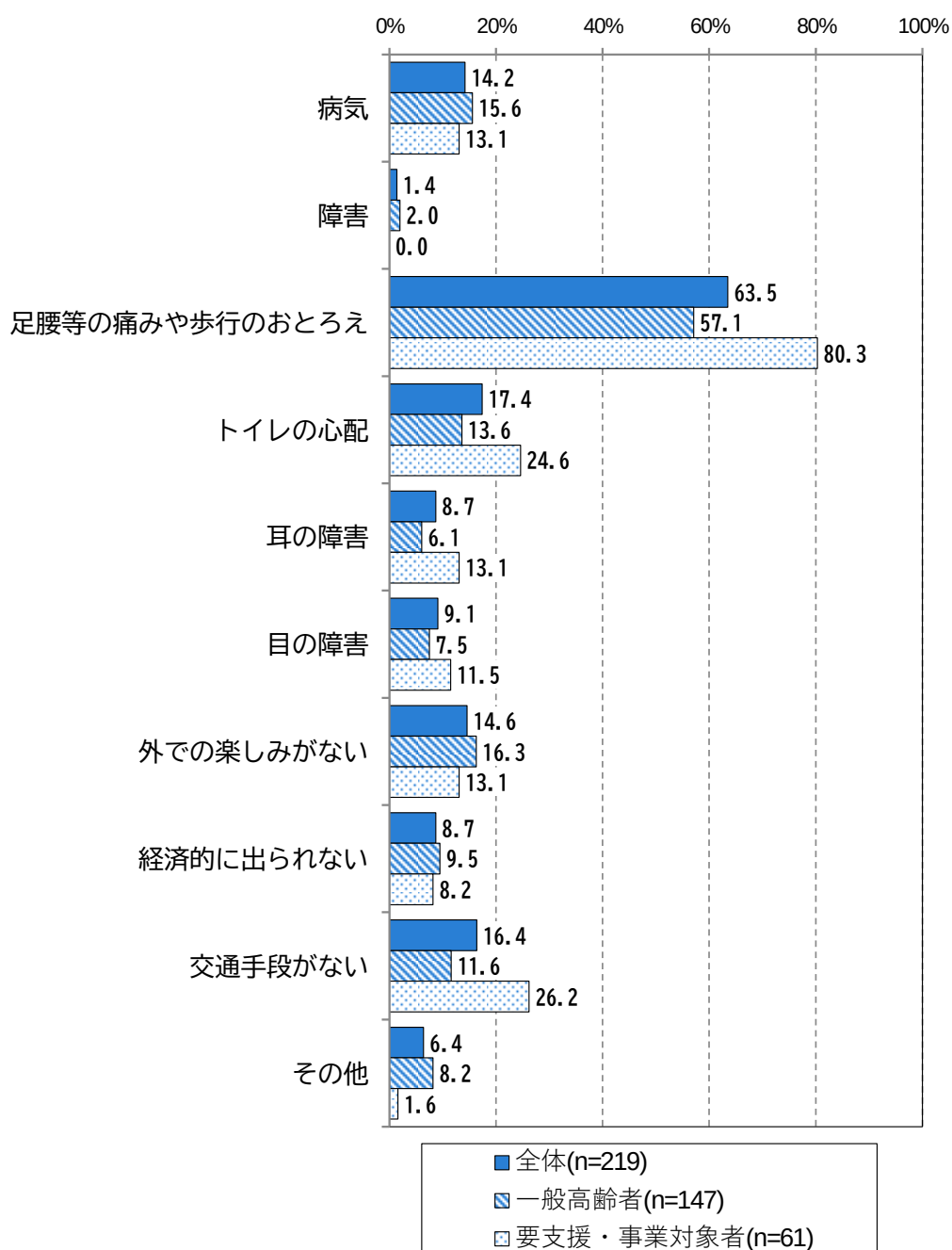


3-9① 外出を控えている理由

足腰等の痛みや歩行のおとろえにより外出を控えている人が 63.5%

外出を控えていると回答した 219 人に対して、その理由を尋ねたところ、「足腰等の痛みや歩行のおとろえ」が 63.5%と最も高く、その他に「トイレの心配」17.4%、「交通手段がない」16.4%、「外での楽しみがない」14.6%、「病気」14.2%と続いています。

要介護の状況別では、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに「足腰等の痛みや歩行のおとろえ」が最も高くなっていますが、特に要支援・事業対象者は 80.3%とかなり高くなっています。他にも「トイレの心配」「交通手段がない」は 20%を超えて、一般高齢者よりもかなり高くなっています。

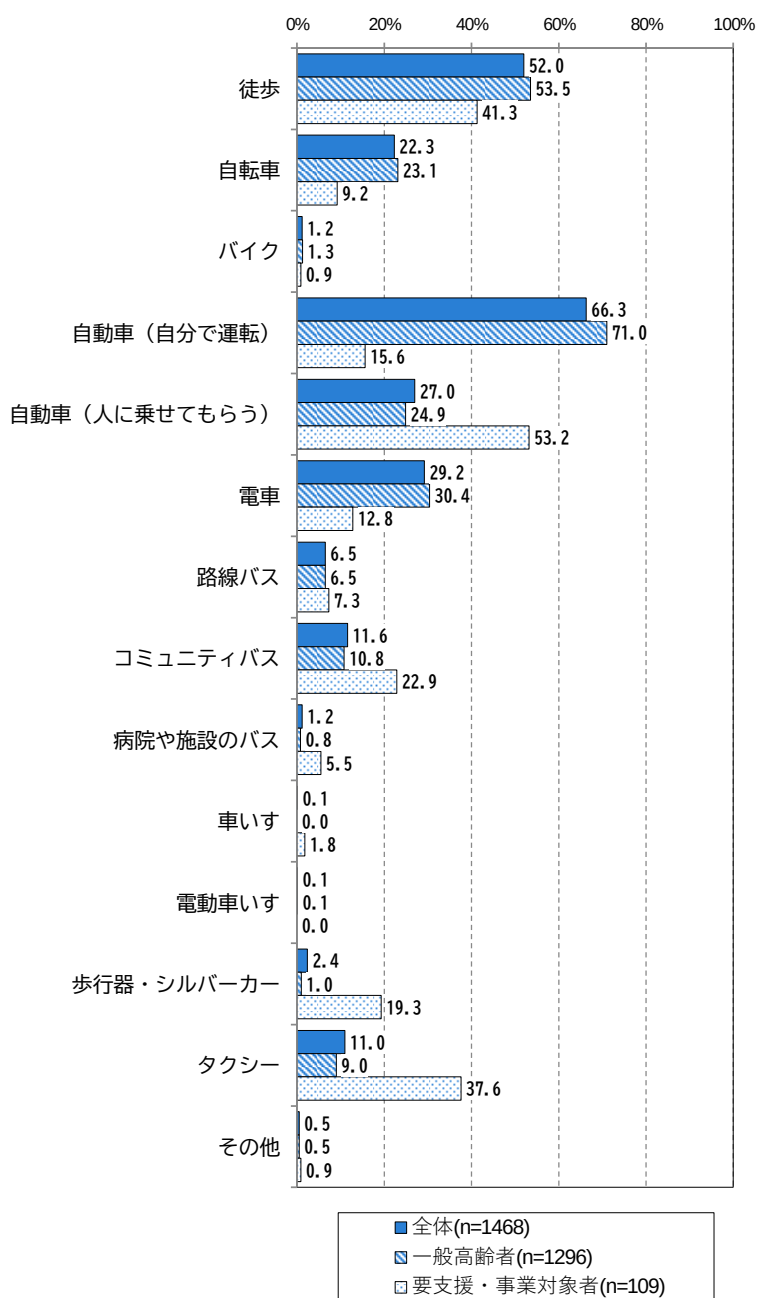


3-10 外出する際の移動手段

移動手段は自動車と徒歩が半数以上

外出する際の移動手段は「自動車（自分で運転）」が 66.3%と最も高く、「徒歩」52.0%と続いています。公共交通機関で最も高いのは「電車」が 29.2%で、「コミュニティバス」は 11.6%となっています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」が 71.0%と最も高く、「徒歩」53.5%が続いています。一方、要支援・事業対象者は「自動車（人に乗せてもらう）」が 53.2%と最も高く、「徒歩」41.3%が続いています。「コミュニティバス」は 22.9%、「歩行器・シルバーカー」が 19.3%と一般高齢者に比べてかなり高くなっています。

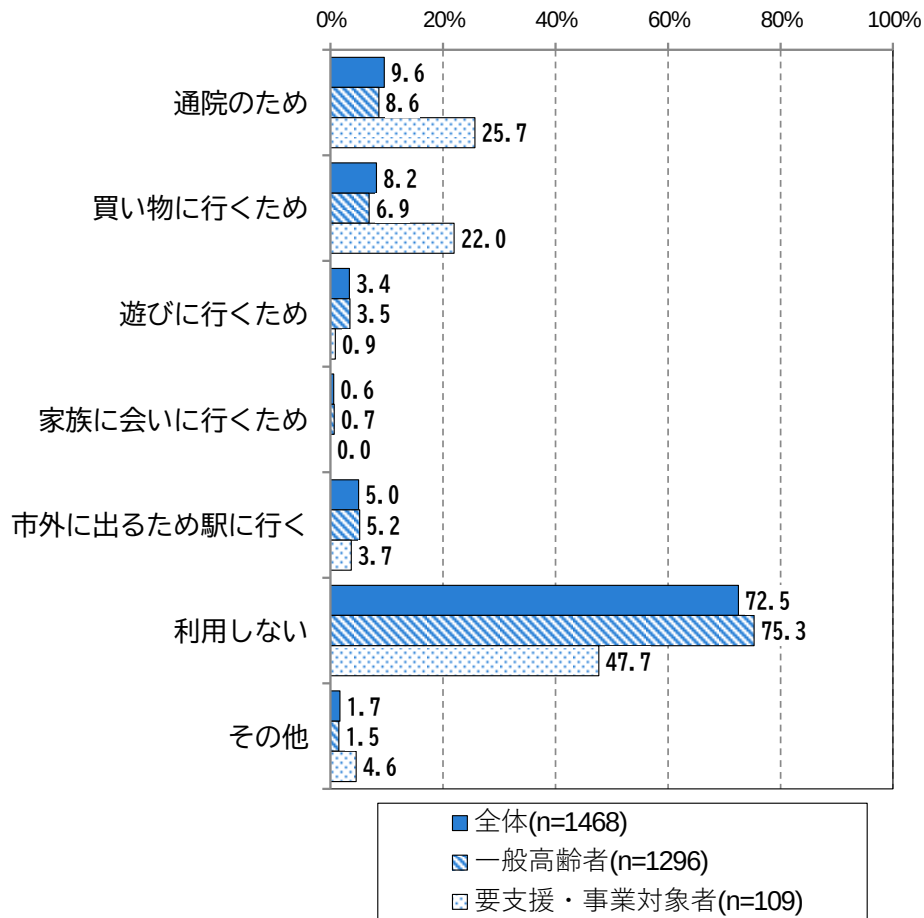


3-11 コミュニティバスの利用目的

コミュニティバスの利用目的は、通院、買い物

コミュニティバスの利用目的は、「通院のため」が9.6%、「買い物に行くため」が8.2%と続いています。「利用しない」が72.5%と最も高くなっています。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者が「通院のため」が25.7%、「買い物に行くため」が22.0%と一般高齢者に比べてかなり高くなっています。「利用しない」は一般高齢者では75.3%に対して、要支援・事業対象者は47.7%とかなり低くなっています。

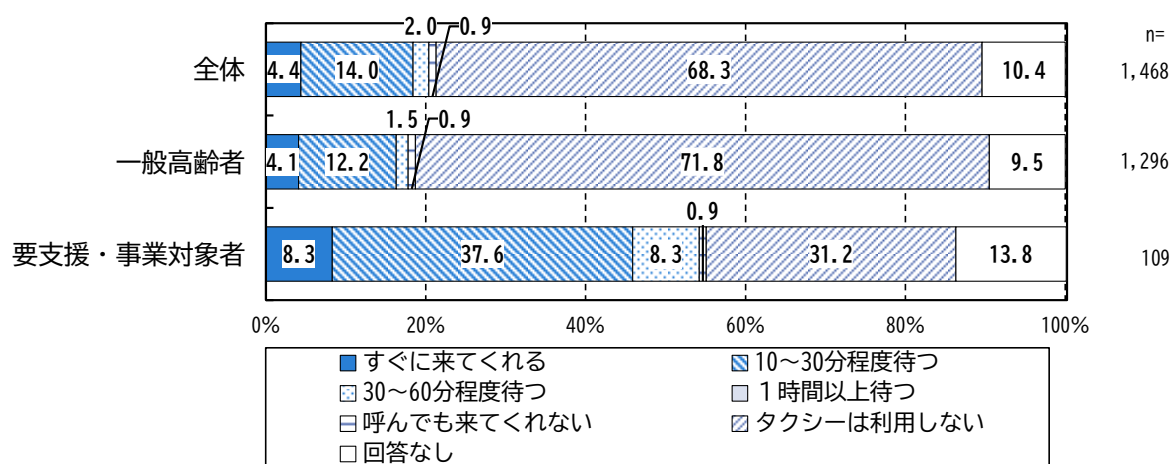


3-12 タクシーの待ち時間

タクシーの待ち時間は10～30分程度

タクシーの待ち時間は、「10～30分程度待つ」が14.0%と高く、「すぐに来てくれる」が4.0%と続いています。一方、「呼んでも来てくれない」が0.9%とわずかですがあります。また、「タクシーは利用しない」が68.3%と最も高くなっています。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者は半数程度がタクシー利用で、そのうち「10～30分程度待つ」が37.6%と最も高くなっています。「30～60分程度待つ」が8.3%、「呼んでも来てくれない」が0.9%あります。



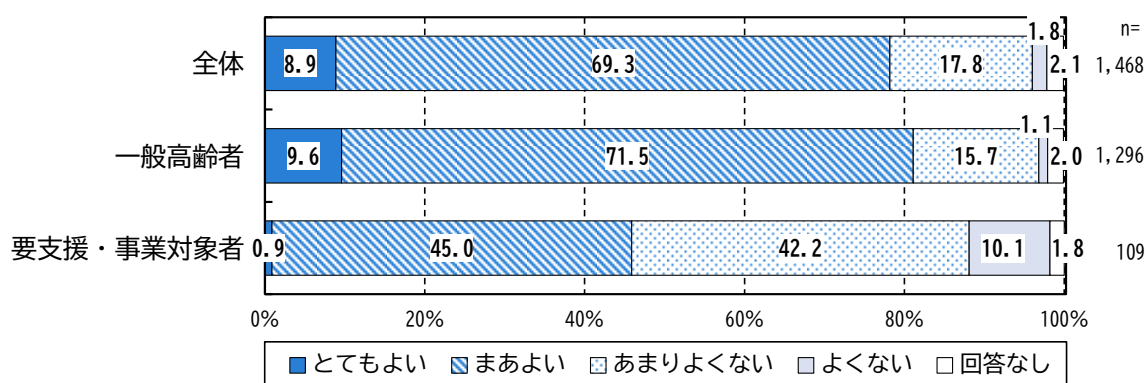
4 健康について

4-1 健康状態

健康状態が“よい”は78.2%

健康状態が「とてもよい」が8.9%、「まあよい」が69.3%で、合わせると“よい”が78.2%です。一方、「あまりよくない」が17.8%、「よくない」が1.8%で、合わせると19.6%が“よくない”と回答しています。

要介護の状況別では、“よい”は、一般高齢者が81.6%に対して、要支援・事業対象者は45.9%とかなり差があり、要支援・事業対象者は“よくない”が半数を超えています。

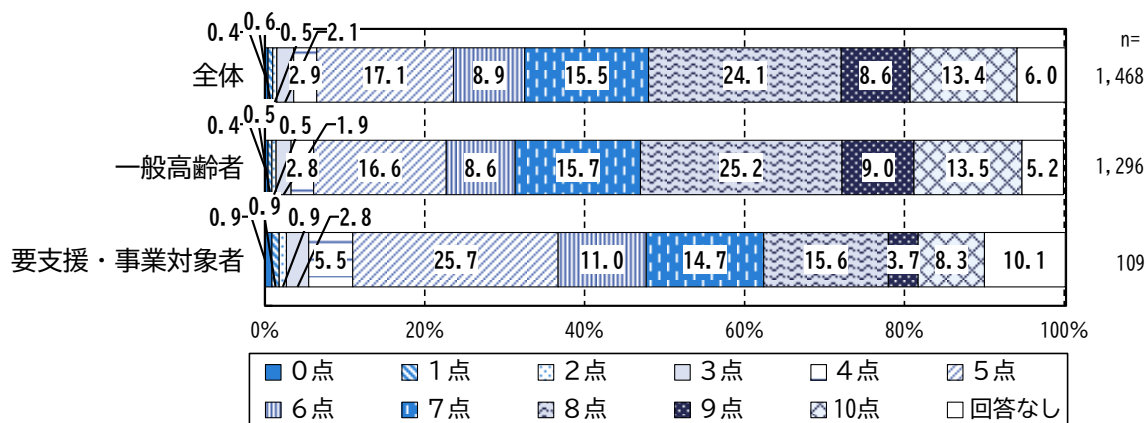


4-2 幸福度

幸福度の平均は7.1点

どの程度幸せかを点数で回答してもらったところ、平均は7.1点です。

要介護の状況別では、一般高齢者は7.2点、要支援・事業対象者は6.3点とやや低くなっています。

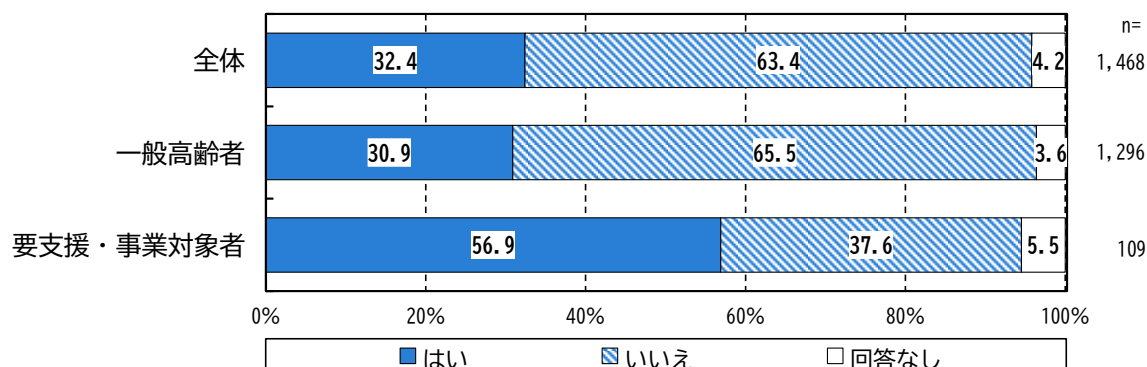


4-3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか

この1か月で気分が沈んだ人は32.4%と3人に1人の割合

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるかを尋ねたところ、32.4%が「はい（＝気分が沈んだ）」と回答しています。およそ3人に1人の割合です。

要介護の状況別では、一般高齢者の30.9%が「はい（＝気分が沈んだ）」と回答しており、要支援・事業対象者は56.9%と半数を超えてかなり高くなっています。

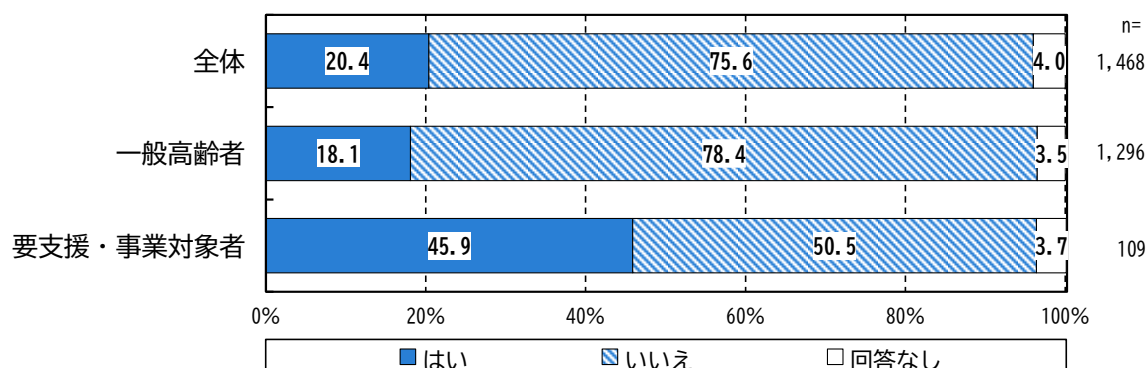


4-4 この1か月間、物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがあるか

この1か月で心から楽しめない感じを持った人は20.4%と、5人に1人

この1か月間、物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがあるかを尋ねたところ、20.4%が「はい（＝楽しめない）」と回答しています。およそ5人に1人の割合です。

要介護の状況別では、一般高齢者の18.1%が「はい（＝楽しめない）」と回答しており、要支援・事業対象者は45.9%と半数近くを占めています。

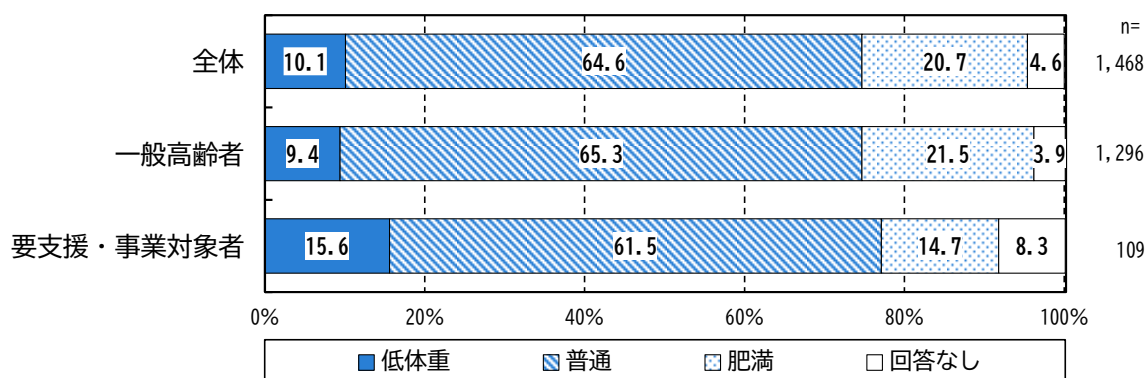


4-5 やせと肥満の状況

やせは 10.1%、肥満は 20.7%

身長と体重から「低体重」と「肥満」の状況を算出したところ、「低体重」は 10.1%、「肥満」は 20.7%です。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者は、肥満よりも低体重の比率が高く、低体重は一般高齢者に比べてやや高くなっています。

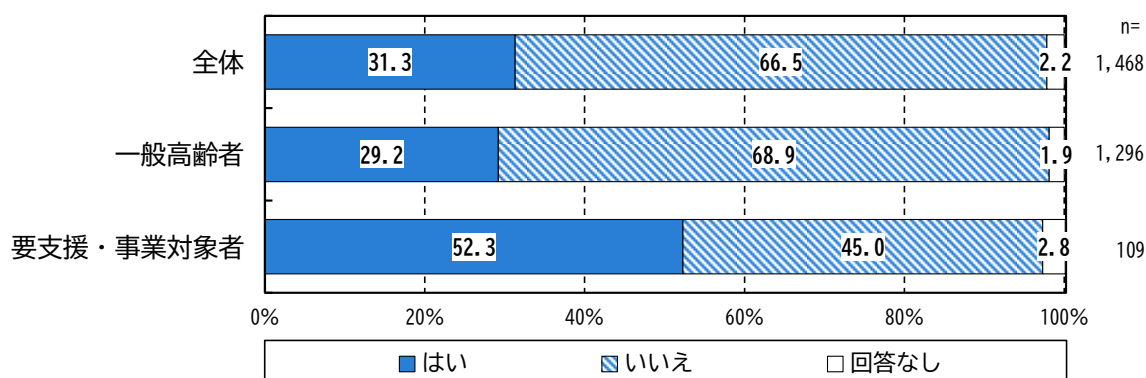


4-6 半年前に比べて固いものが食べにくい

半年前に比べて固いものが食べにくい人は 31.3%

半年前に比べて固いものが食べにくいかどうかを尋ねたところ、「はい (=食べにくい)」は 31.3%が回答しています。およそ 3 人の 1 人の割合です。

要介護の状況別では、一般高齢者の 29.2%が「はい (=食べにくい)」と回答しているのに対して、要支援・事業対象者は 52.3%と半数を超えており、半年前に比べて食べにくくなっていると回答しています。

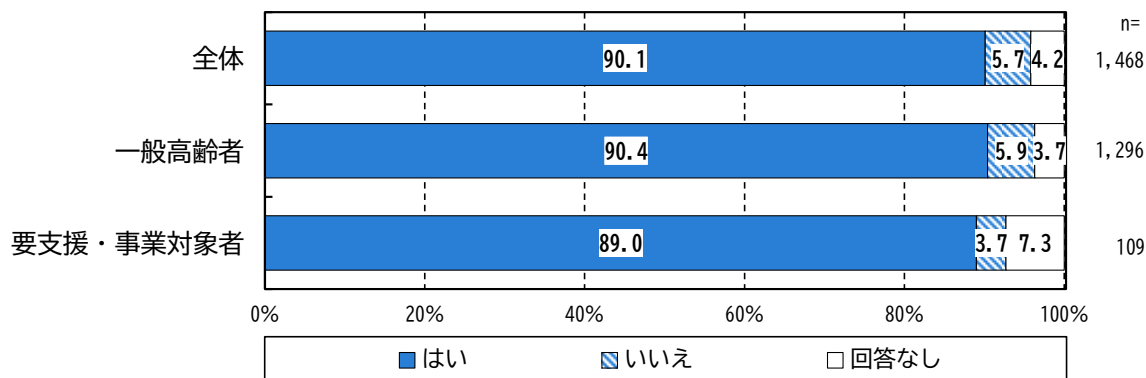


4-7 歯磨きを毎日しているか

90.1%が毎日歯磨き

歯磨きを毎日しているかを尋ねたところ、「はい(=毎日歯磨きをしている)」が90.1%、「いいえ(=毎日歯磨きをしていない)」が5.7%です。

要介護の状況別でも大きな違いはありません。

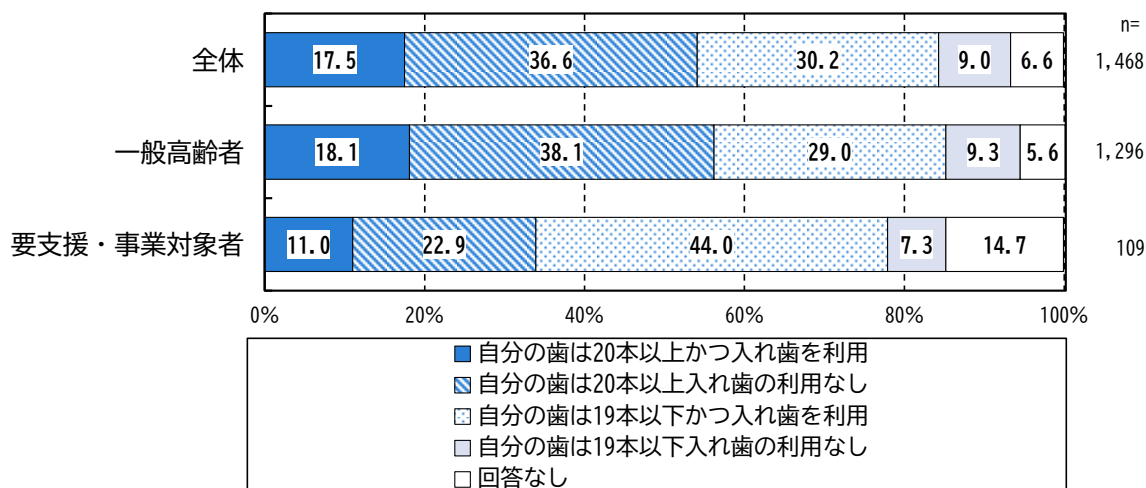


4-8 歯と入れ歯の利用状況

自分の歯が20本以上ある人は54.1%、入れ歯の利用者は47.7%

「自分の歯が20本以上あり、入れ歯を利用していない」は36.6%と最も高くなっています。「自分の歯が20本以上ある」は54.1%となっています。一方「自分の歯が19本以下で、入れ歯を利用している」は30.2%となっています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「自分の歯が20本以上あり、入れ歯を利用していない」が38.1%と最も高く、「自分の歯が20本以上ある」は56.2%となっています。要支援・事業対象者は「自分の歯が19本以下で、入れ歯を利用している」が44.0%と最も高く、「自分の歯が20本以上ある」33.9%と一般高齢者に比べてかなり低くなっています。

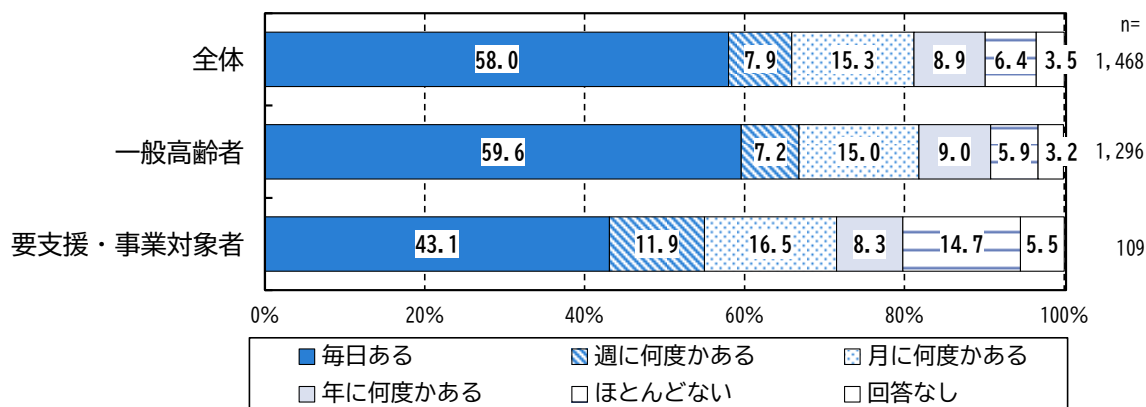


4-9 だれかと食事をとにもする機会

日常的にだれかと食事をとにもしているのは 65.9%

だれかと食事をとにもする機会が「毎日ある」が 58.0%と最も高く、「週に何度かある」7.9%を合わせると“日常的にだれかと食事をとにもしている”のは 65.9%です。一方、「年に何度かある」「ほとんどない」を合わせると 15.3%は“だれかと食事をとにもする機会がほとんどない”と回答しています。

要介護の状況別では、「毎日ある」が最も高いものの、一般高齢者は 59.6%に対して要支援・事業対象者は 43.1%とかなり低くなっています。“だれかと食事をとにもする機会がほとんどない”は要支援・事業対象者では 23.0%と、およそ 4 人に 1 人の割合です。

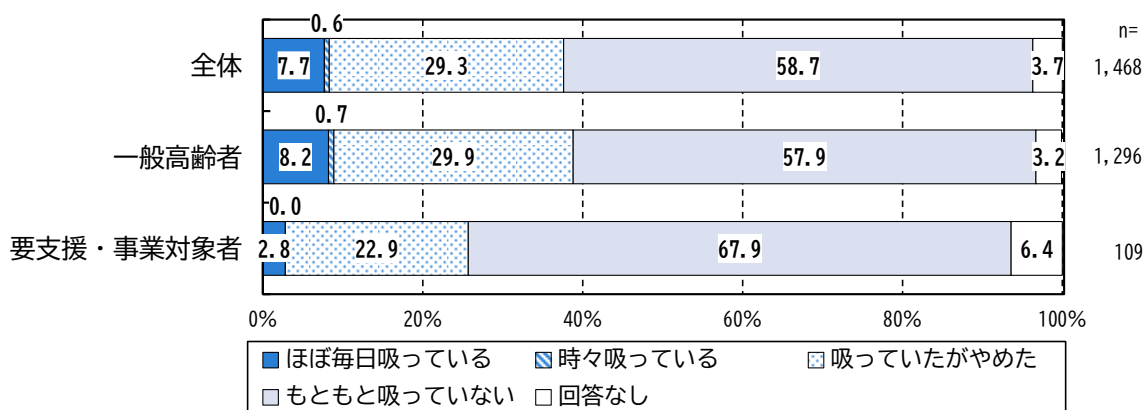


4-10 喫煙状況

喫煙者は 8.3%

喫煙の状況は、「ほぼ毎日吸っている」が 7.7%、「時々吸っている」が 0.6%で、合わせると 8.3%が喫煙者です。「吸っていたがやめた」が 29.3%、「もともと吸っていない」が 58.7%と最も高くなっています。

要介護の状況別では、喫煙者は一般高齢者が 8.9%、要支援・事業対象者は 2.8%とやや低くなっています。

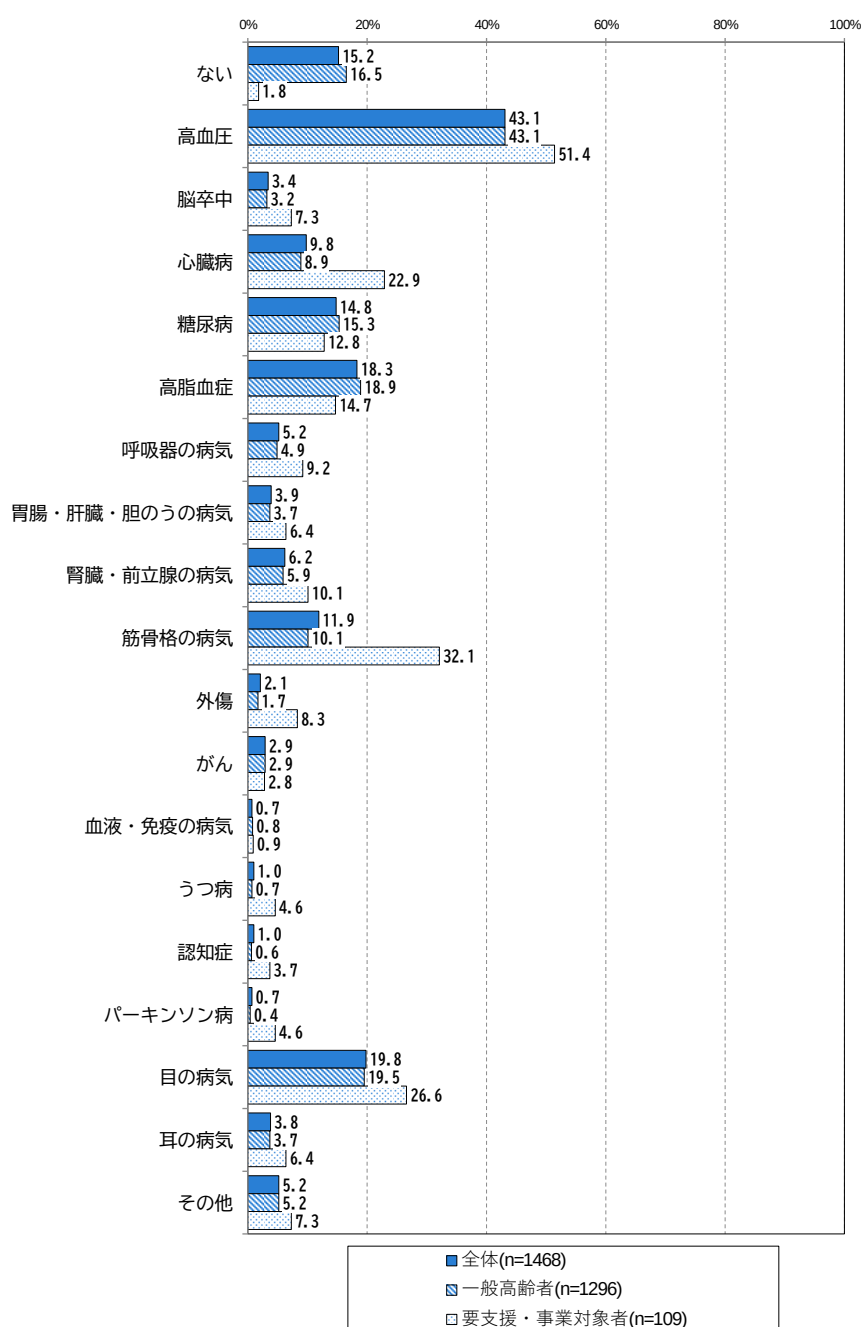


4-11 治療中、後遺症のある病気の状況

何らかの病気がある人は 84.8%

治療中、後遺症のある病気について尋ねたところ、「ない」と回答した 15.2%を除くと 84.8%が何らかの病気の状況です。「高血圧」が 43.1%と最も高く、「目の病気」が 19.8%、「高脂血症」が 18.3%と続いています。

要介護の状況別では、病気の状況にある人は、一般高齢者では 83.5%に対して、要支援・事業対象者は 98.2%とかなり高くなっています。病気は、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに「高血圧」が最も高く、要支援・事業対象者は 51.4%と半数以上を占めて特に高くなっています。要支援・事業対象者は、その他にも「筋骨格の病気」「目の病気」「心臓病」は一般高齢者に比べてかなり高くなっています。

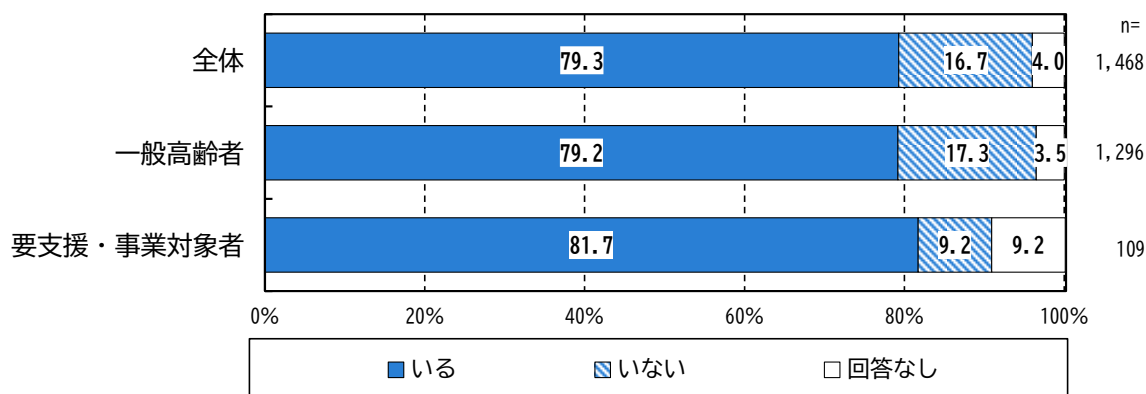


4-12 かかりつけ医師

かかりつけ医師がいる人は 79.3%

かかりつけ医師がいるかどうかを尋ねたところ、「いる」は 79.3%です。

要介護の状況別では、「いる」は一般高齢者、要支援・事業対象者共に 80%前後を占めてほとんど差はありません。一方で「いない」は要支援・事業対象者はやや低くなっています。

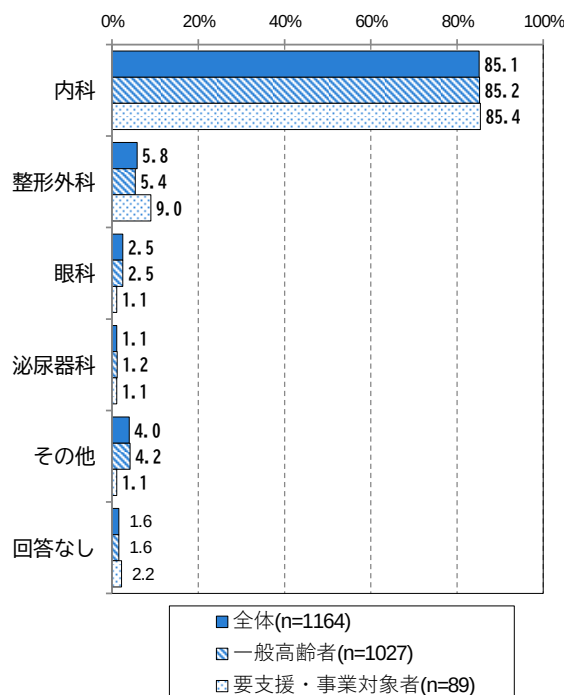


4-12① かかりつけ医師の診療科

かかりつけ医師の診療科は内科が 85.1%

かかりつけ医師の診療科は「内科」が 85.1%と最も高くなっています。

要介護の状況別でも、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに「内科」が最も高く、差はほとんどありません。

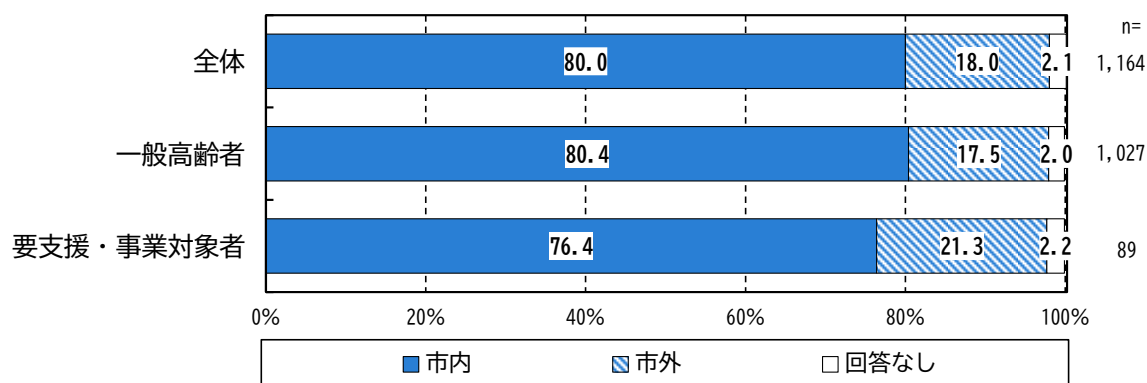


4-12② かかりつけ医師の通院先

市内のかかりつけ医師にかかっている人は 80.0%

かかりつけ医師がいると回答した 1,164 人に、かかりつけ医師が市内か、市外かを尋ねたところ、「市内」が 80.0%を占めています。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者は「市内」の比率がやや低くなっています。

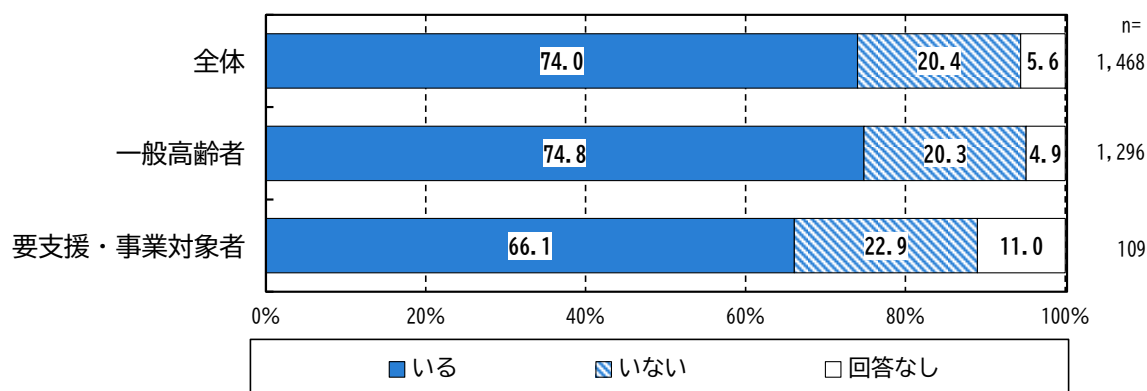


4-13 かかりつけ歯科医師

かかりつけ歯科医師がいる人は 74.0%

かかりつけ歯科医師がいるかどうかを尋ねたところ、「いる」は 74.0%です。

要介護の状況別では、「いる」は一般高齢者では 74.8%に対して、要支援・事業対象者は 66.1%とやや低くなっています。

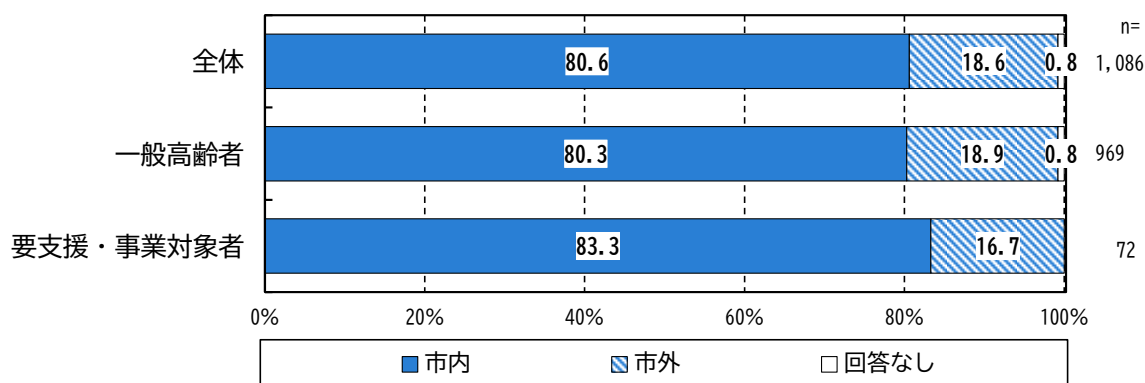


4-13① かかりつけ歯科医師の通院先

市内のかかりつけ歯科医師にかかっている人は 80.6%

かかりつけ歯科医師がいると回答した 1,086 人に、かかりつけ歯科医師が市内か、市外かを尋ねたところ、「市内」が 80.6%を占めています。

要介護の状況別では、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに「市内」の比率が最も高く、傾向に大きな違いはありません。

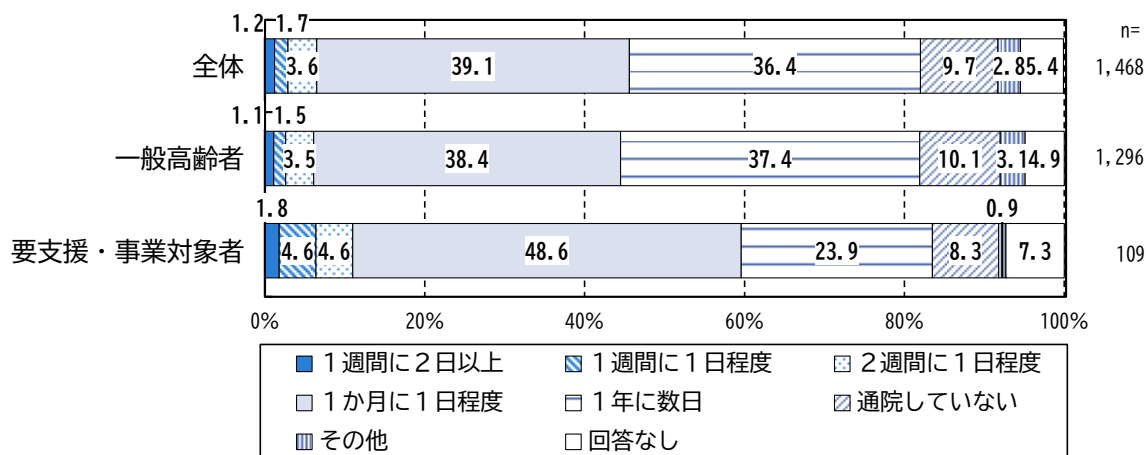


4-14 通院頻度

通院頻度が 1 か月に 1 日以上が 45.6%

どのくらいの頻度で通院しているか尋ねたところ、「1 週間に 2 日以上」が 1.2%、「1 週間に 1 日程度」が 1.7%、「2 週間に 1 日程度」が 3.6%、「1 か月に 1 日程度」が 39.1%と最も高く、合わせると「1 か月に 1 日以上」の定期的に通院している人は 45.6%を占めています。一方、「通院していない」は 9.7%です。

要介護の状況別では、「1 か月に 1 日以上」の定期的な通院は、一般高齢者が 44.5%で、要支援・事業対象者は 59.6%とかなり高くなっています。

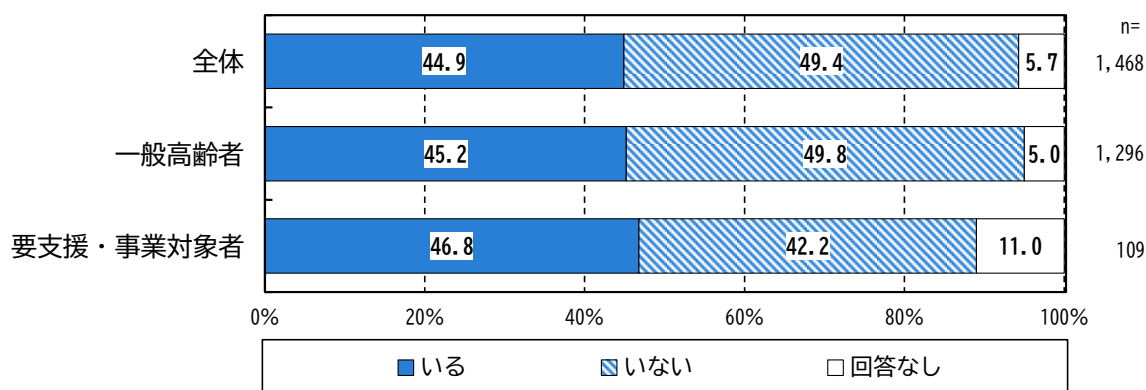


4-15 かかりつけ薬局

かかりつけ薬局・薬剤師がいる人は 84.4%

かかりつけ薬局・薬剤師がいるかどうかを尋ねたところ、「いる」は 44.9%です。

要介護の状況別では、「いる」は一般高齢者が 45.2%、要支援・事業対象者が 46.8%と最も高く、傾向に大きな違いはありません。

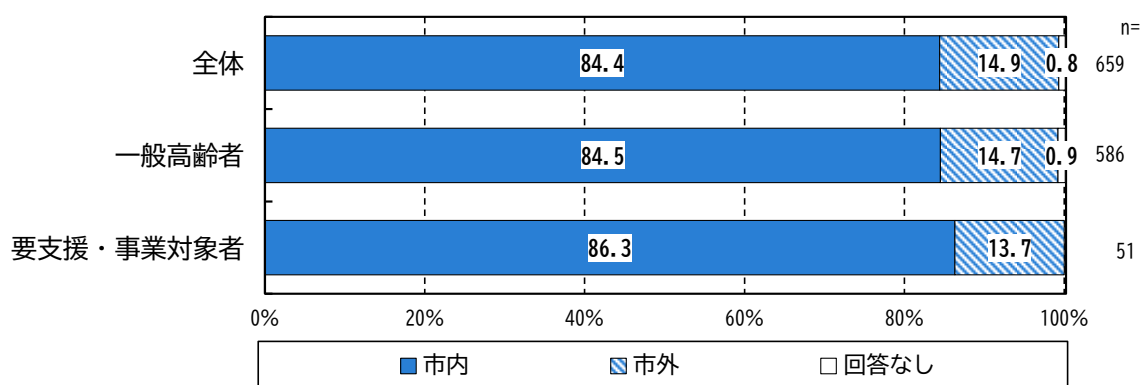


4-15① かかりつけ薬局・薬剤師の場所

市内のかかりつけ薬局・薬剤師を利用しているのは 84.4%

かかりつけ薬局・薬剤師が「いる」と回答した 659 人に、かかりつけ薬局・薬剤師が市内か、市外かを尋ねたところ、「市内」が 84.4%を占めています。

要介護の状況別では、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに「市内」の比率が最も高く、傾向に大きな違いはありません。



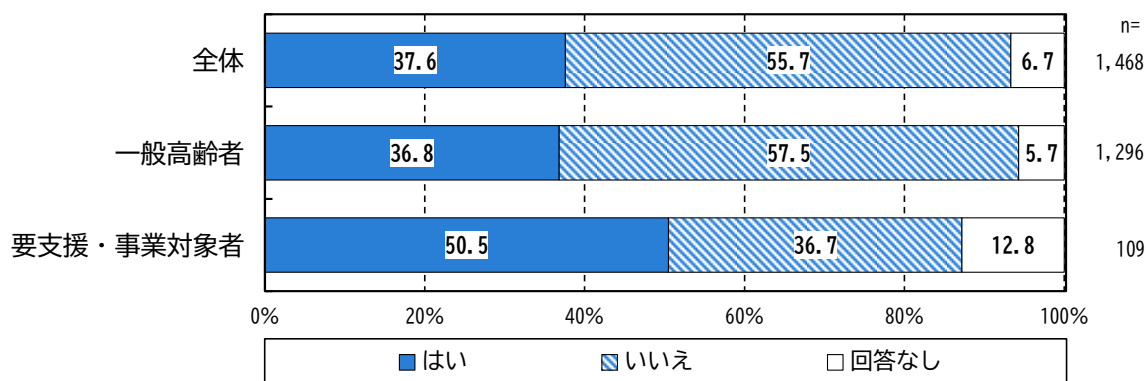
5 毎日の生活について

5-1 物忘れは多いか

物忘れが多いと感じている人は 37.6%

物忘れが多いと感じますかと尋ねたところ、「はい」が 37.6%、「いいえ」が 55.7%となっています。

要介護の状況別にみると、「はい」は一般高齢者が 36.8%で、要支援・事業対象者が 50.5%であり、要支援・事業対象者がかなり高くなっています。

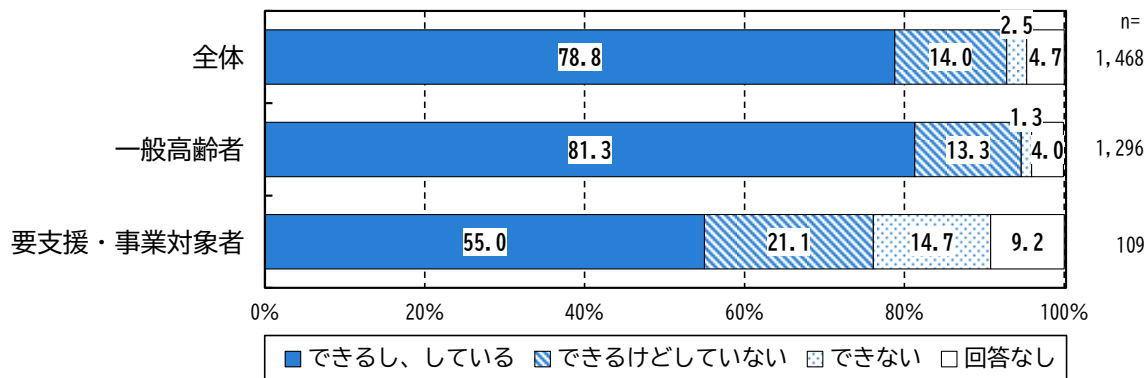


5-2 自分で買い物をしているか

自分で買い物をしている人は 78.8%

自分で食品や日用品の買い物をしているかを尋ねたところ、「できるし、している」が 78.8%と最も高くなっています。一方で「できない」は 2.5%です。

要介護の状況別では、「できるし、している」が一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっていますが、要支援・事業対象者は 55.0%に留まり、一般高齢者に比べてかなり低くなっています。また、「できない」は一般高齢者が 1.3%ですが、要支援・事業対象者は 14.7%とかなり高くなっています。

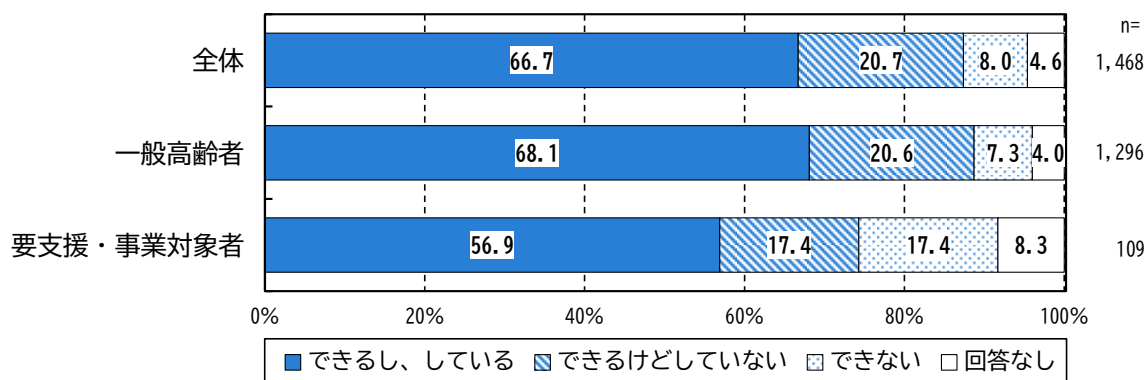


5-3 自分で食事の用意をしているか

自分で食事の用意をしている人は 66.7%

自分で食事の用意をしているかを尋ねたところ、「できるし、している」が 66.7%と最も高くなっています。一方、「できない」は 8.0%です。

要介護の状況別にみると、「できるし、している」が一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっていますが、要支援・事業対象者は 56.9%に留まり、一般高齢者に比べてかなり低くなっています。また、「できない」は一般高齢者が 7.3%ですが、要支援・事業対象者は 17.4%とかなり高くなっています。

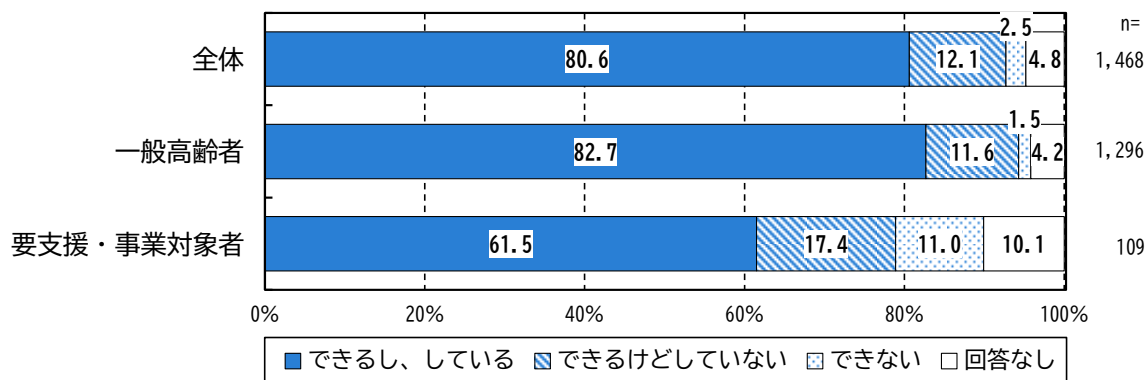


5-4 自分で請求書の支払いをしているか

自分で請求書の支払いをしている人は 80.6%

自分で請求書の支払いをしているかを尋ねたところ、「できるし、している」が 80.6%と最も高くなっています。一方、「できない」は 2.5%です。

要介護の状況別にみると、「できるし、している」が一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっていますが、要支援・事業対象者は 61.5%に留まり、一般高齢者に比べてかなり低くなっています。また、「できない」は一般高齢者が 1.5%ですが、要支援・事業対象者は 11.0%とかなり高くなっています。

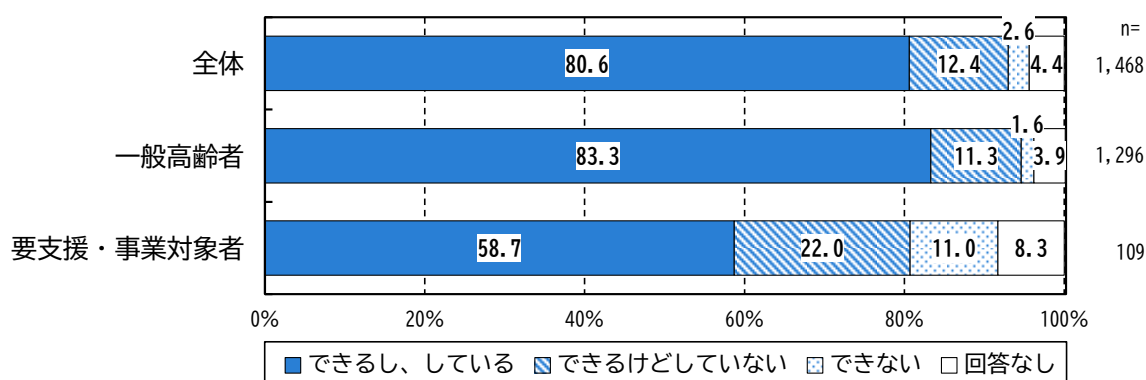


5-5 自分で預貯金の出し入れをしているか

預貯金の管理をしている人は 80.6%

自分で預貯金の管理をしているかを尋ねたところ、「できるし、している」が 80.6%と最も高くなっています。一方、「できない」は 2.6%です。

要介護の状況別にみると、「できるし、している」が一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっていますが、要支援・事業対象者は 58.7%に留まり、一般高齢者に比べてかなり低くなっています。また、「できない」は一般高齢者が 1.6%ですが、要支援・事業対象者は 11.0%とかなり高くなっています。



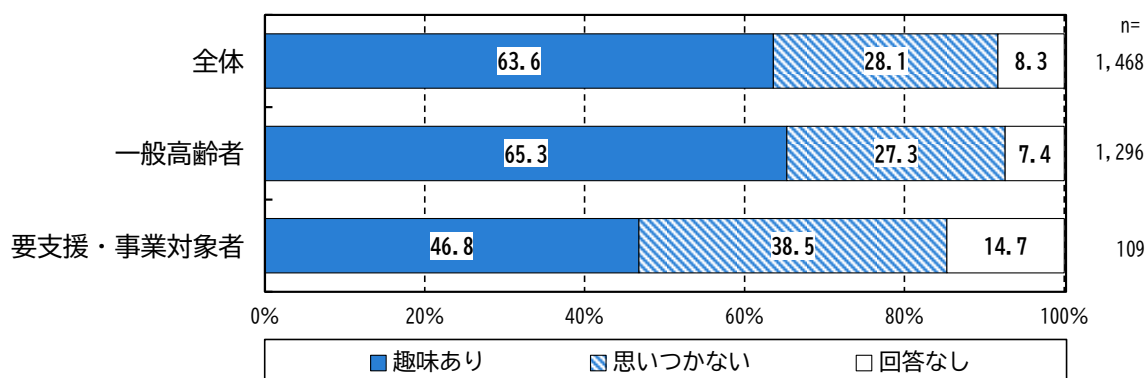
5-6 趣味はあるか

趣味がある人は 63.6%

趣味があるかどうかを尋ねたところ、「趣味あり」63.6%と最も高くなっています。

具体的には、読書や手芸、スポーツ、音楽鑑賞や楽器演奏、家庭菜園、旅行等があげられています。

要介護の状況別にみると、「趣味あり」は一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっていますが、要支援・事業対象者は 46.8%に留まり、一般高齢者に比べてかなり低くなっています。



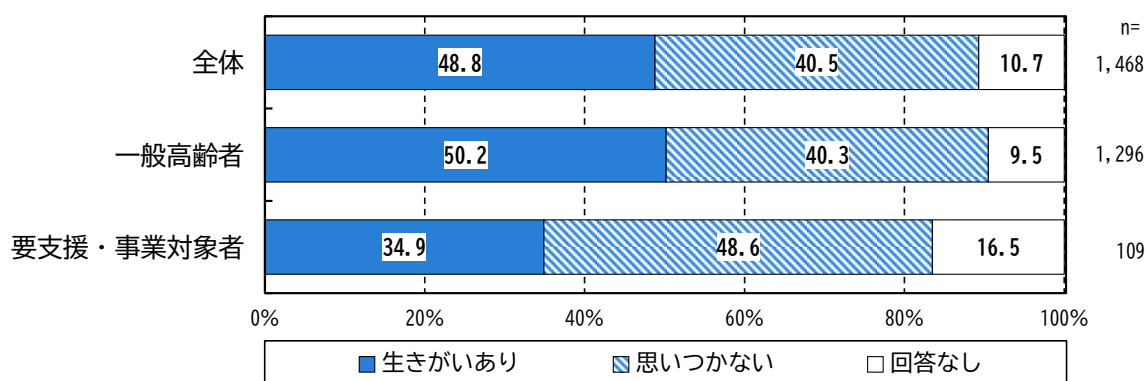
5-7 生きがいはあるか

生きがいがある人は 48.8%

生きがいがあるかどうかを尋ねたところ、「生きがいあり」は 48.8%とほぼ半数を占めています。

具体的には、健康、家族や友人との関係、仕事、趣味やスポーツなど様々なことがあげられています。

要介護の状況別にみると、「生きがいあり」は、一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっていますが、要支援・事業対象者は 34.9%に留まり、一般高齢者に比べてかなり低くなっています。

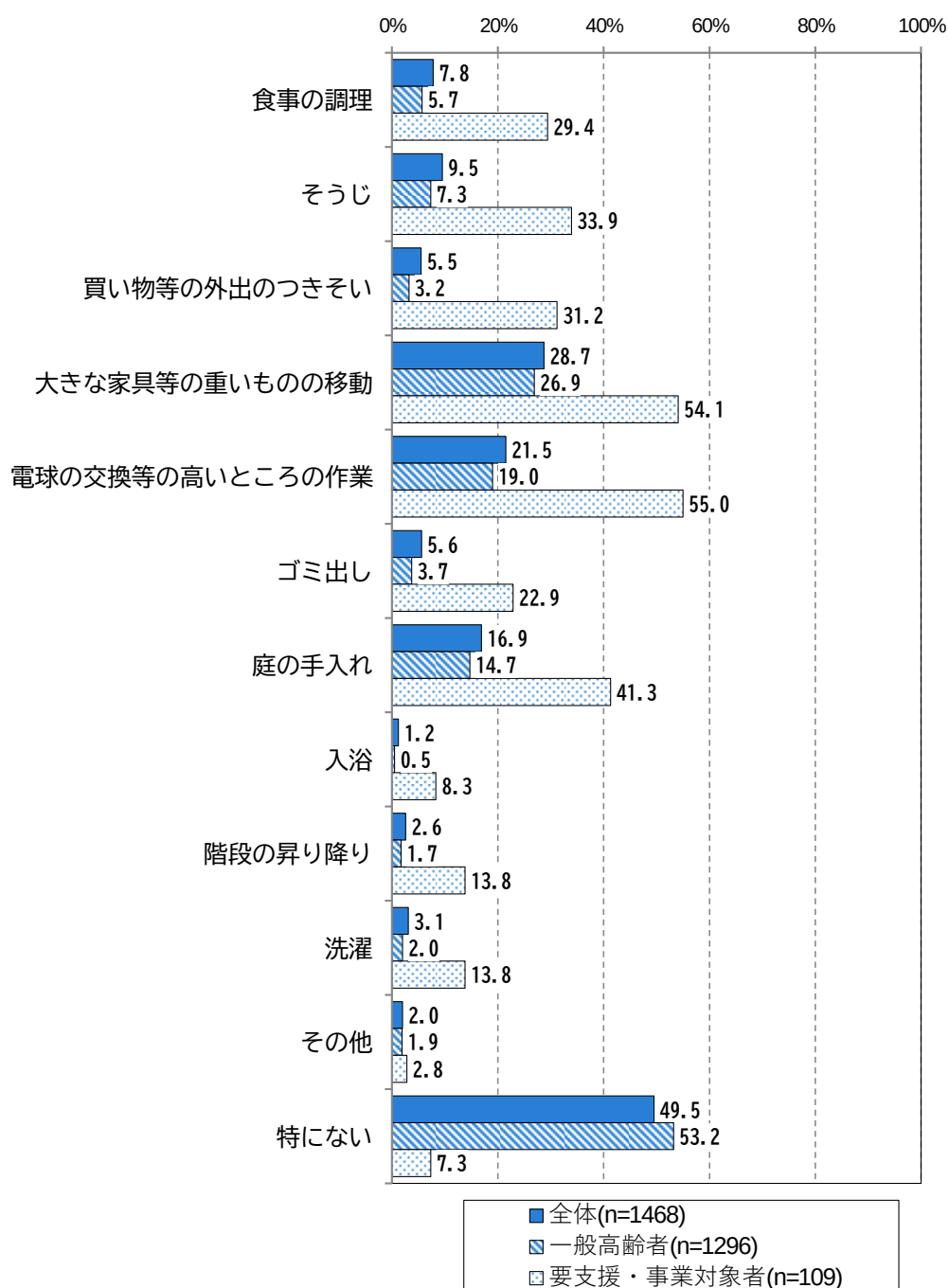


5-8 生活の困りごと

困りごとは、「大きいものの移動」や「高いところの作業」

生活の中で困りごとや手助けしてほしいことは、「大きな家具等の重いものの移動」が28.7%と高く、「電球の交換等の高いところの作業」が21.5%、「庭の手入れ」が16.9%と続いています。「特にない」が49.5%と最も高くなっています。

要介護の状況別では、ほとんどの項目で要支援・事業対象者の比率が一般高齢者に比べてかなり高くなっており、「大きな家具等の重いものの移動」「電球の交換等の高いところの作業」は50%を超え、「庭の手入れ」「そうじ」「買い物等の外出のつきそい」といった日常的な項目でも30%以上と支援を求めていることがわかります。



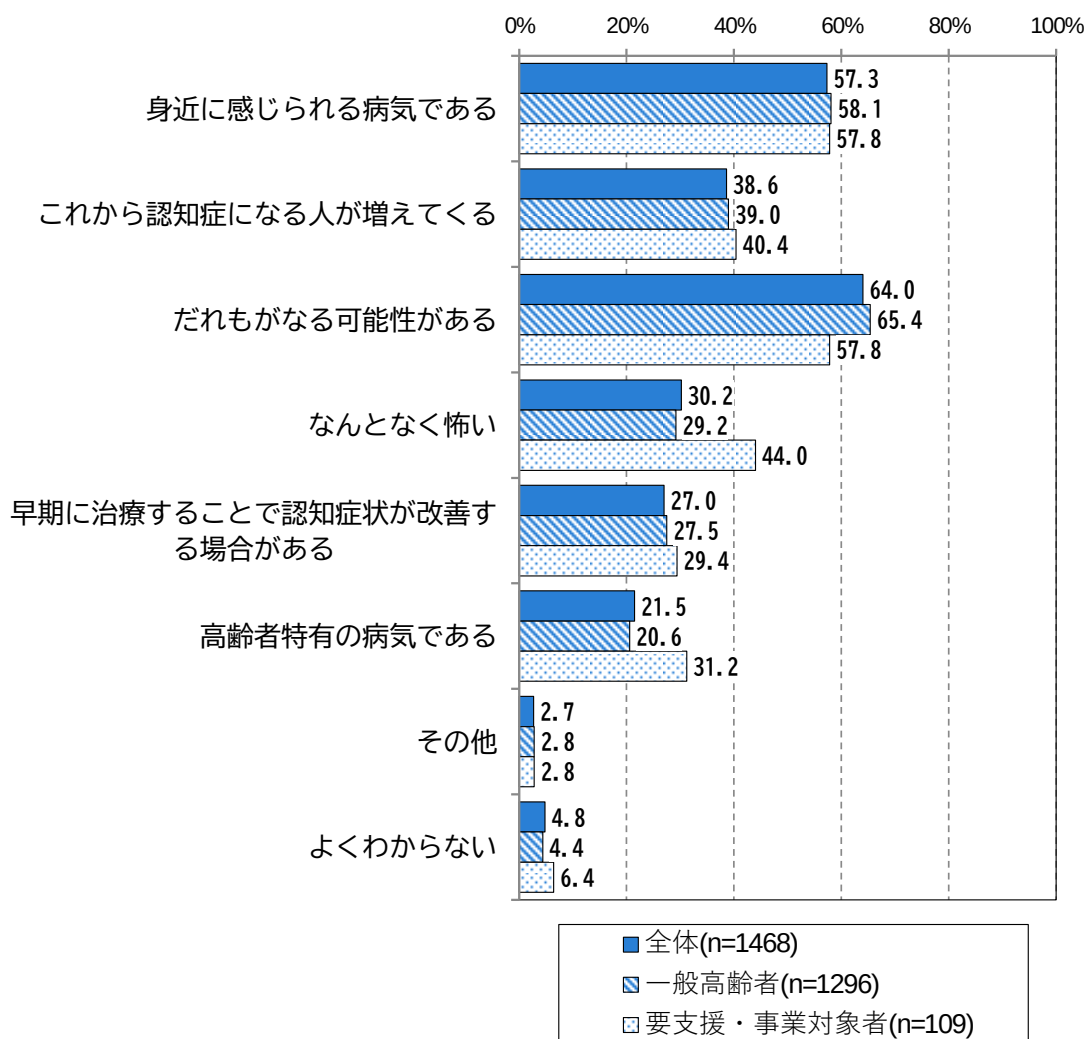
6 認知症について

6-1 認知症のイメージ

認知症のイメージは「だれもがなる可能性がある」「身近に感じられる」が高い

「認知症」のイメージを尋ねたところ、「だれもがなる可能性がある」が64.0%と最も高く、「身近に感じられる病気である」が57.3%と半数を超えて高くなっています。

要介護の状況別では、要支援・事業対象者は、「なんとなく怖い」が44.0%、「高齢者特有の病気である」が31.2%と一般高齢者に比べて10ポイント以上高くなっています。

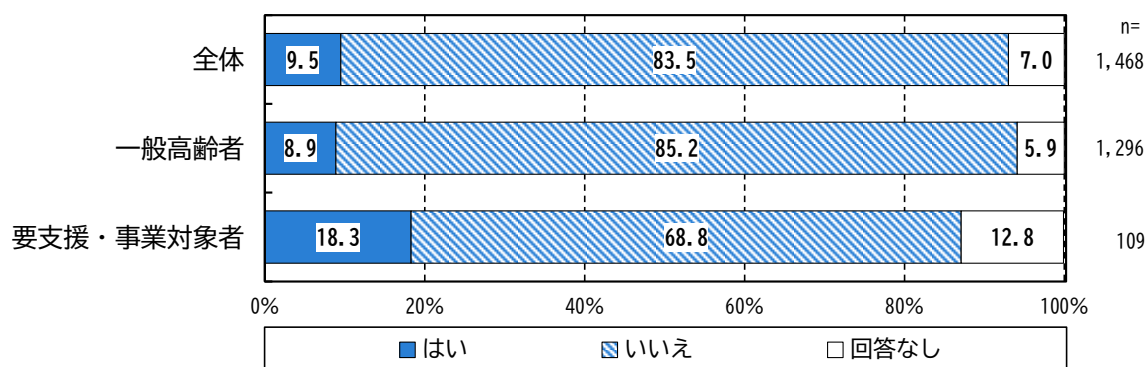


6-2 自分自身または家族に認知症の症状があるか

認知症の症状がある人は 9.5%

自分自身または家族に認知症の症状がある人がいますかと尋ねたところ、「はい」が 9.5%です。

要介護の状況別では、一般高齢者は 8.9%に留まっていますが、要支援・事業対象者は 18.3%とかなり高くなっています。

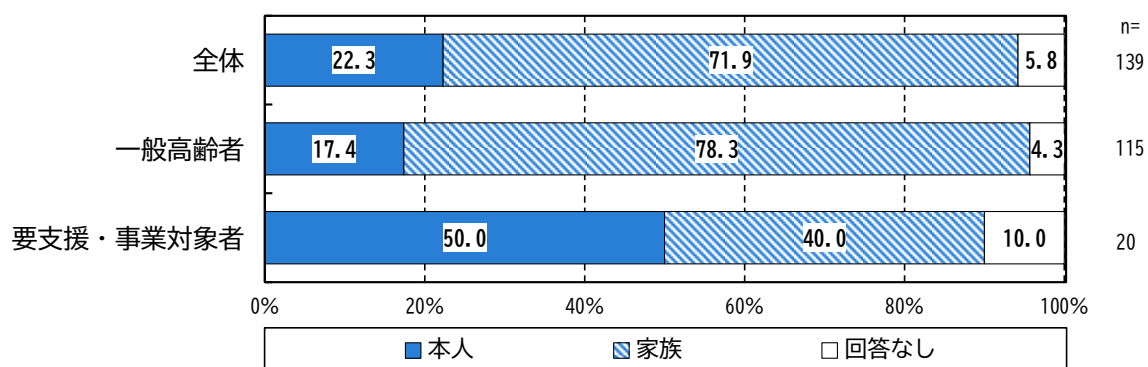


6-2① 認知症の症状がある人

認知症の症状がある人は、自分自身が 22.3%、家族が 71.9%

自分自身あるいは家族に認知症の症状がある人がいると回答した 139 人に対して、症状があるのはどなたかを尋ねたところ、「自分自身」が 22.3%、「家族」が 71.9%です。

要介護度の状況別では、一般高齢者は「自分自身」は 17.4%、「家族」が 78.3%に対して、要支援・事業対象者は「自分自身」が 50.0%、「家族」が 40.0%と自身の比率がかなり高くなっています。

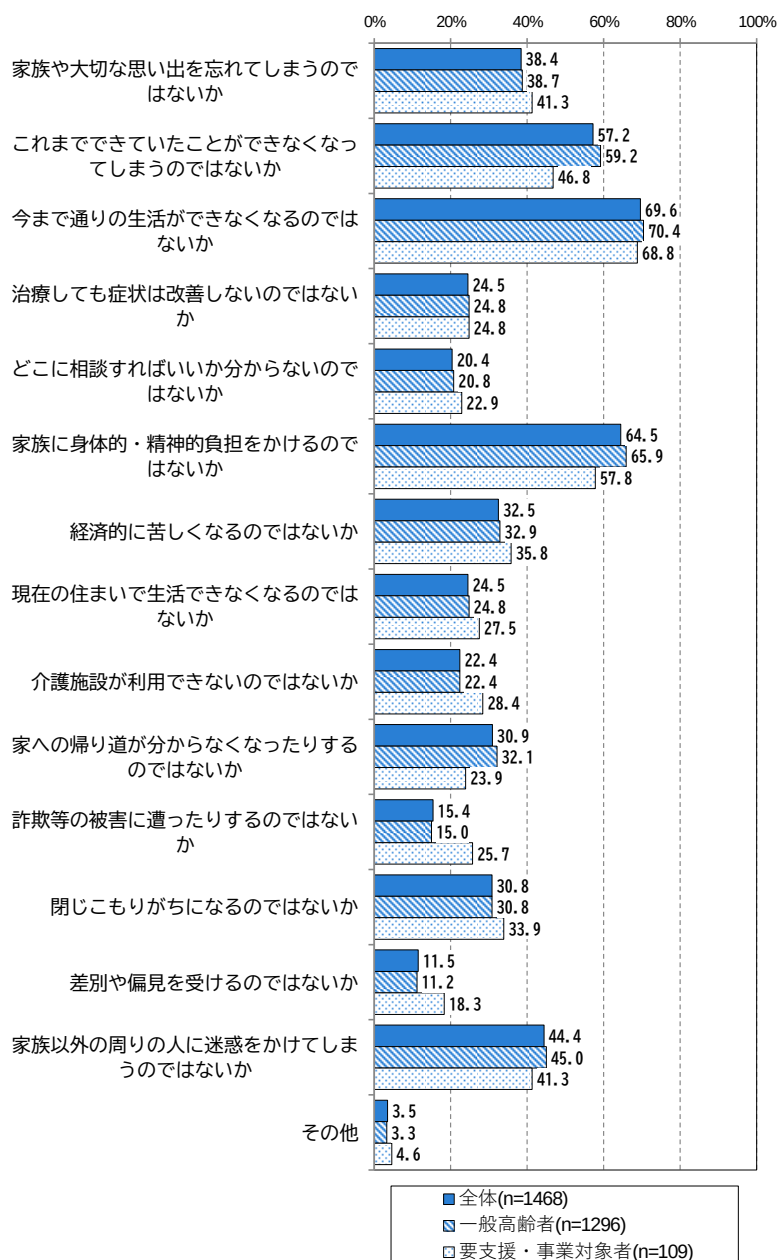


6-3 自分自身が認知症になったときの不安なこと

自分自身が認知症になったときの不安は、「今まで通りの生活ができないこと」「できていたことができなくなること」「家族に負担をかけること」

自分自身が認知症になったときの不安は、「今まで通りの生活ができないのではないか」が 69.6%と最も高く、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないかと」が 64.5%、「これまでできていたことができなくなってしまうのではないかと」が 57.2%と半数を超えて高くなっています。

要介護の状況別では、「これまでできていたことができなくなってしまうのではないかと」「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないかと」は一般高齢者が、「介護施設が利用できなくなるのではないかと」「詐欺等の被害に遭ったりするのではないかと」「差別や偏見を受けるのではないかと」は要支援・事業対象者がそれぞれ高くなっています。

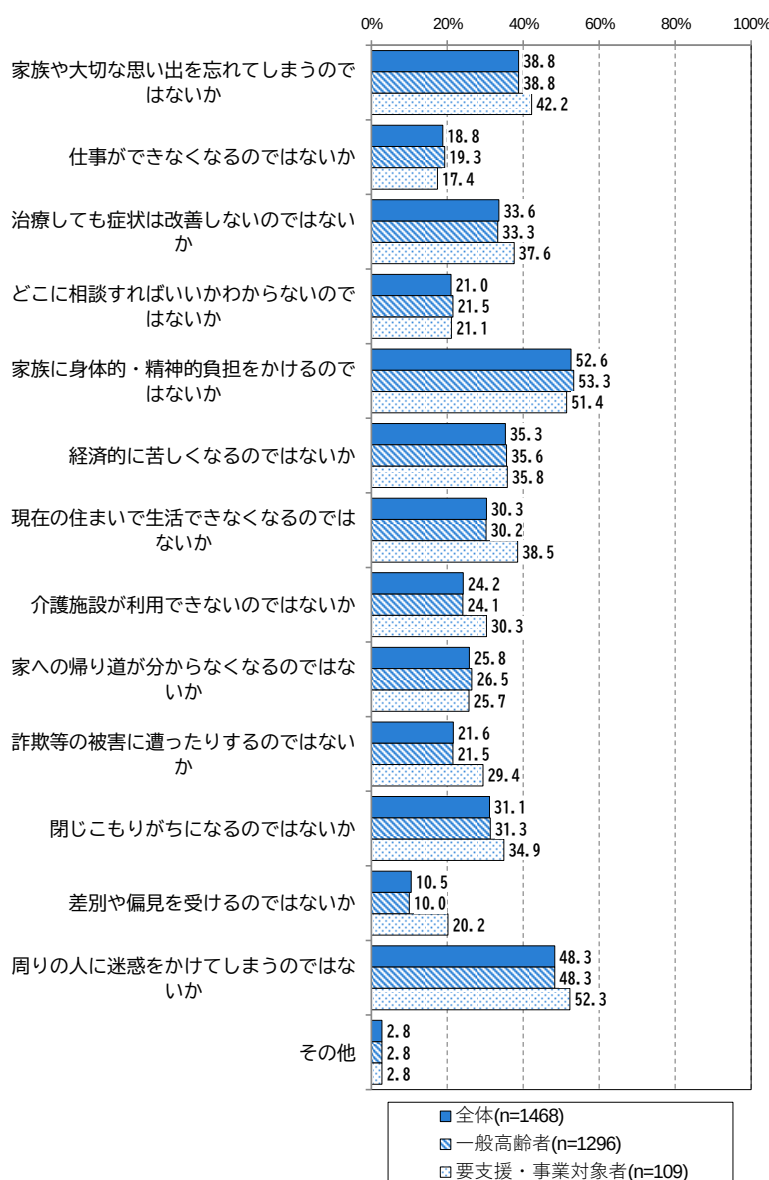


6-4 家族が認知症になったときの不安なこと

家族が認知症になったときの不安は、「家族に負担をかけること」「周囲の人に迷惑をかけること」といった、認知症患者の家族の状況よりも周囲への影響が心配されている

家族が認知症になったときの不安は、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないかと」が52.6%と最も高く、「周りの人に迷惑をかけてしまうのではないかと」が48.3%と続いています。「家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないかと」「治療しても症状は改善しないのではないかと」「閉じこもりがちになるのではないかと」「家への帰り道がわからなくなるのではないかと」といった認知症状のある家族についてはそれぞれ30%前後を占めています。

要介護の状況別では、「現在の住まいで生活できなくなるのではないかと」「介護施設が利用できなくなるのではないかと」「詐欺等の被害に遭ったりするのではないかと」「差別や偏見を受けるのではないかと」は要支援・事業対象者の回答が高くなっています。

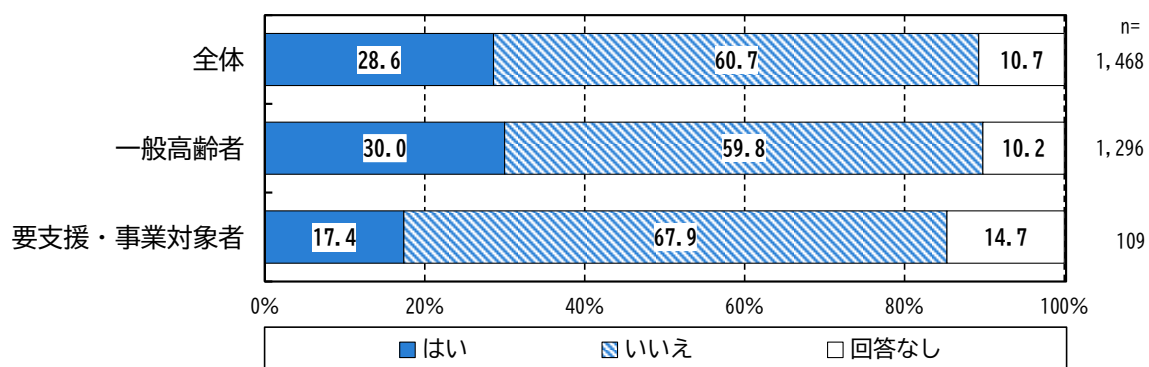


6-5 認知症の相談窓口の認知度

認知症の相談窓口を知っている人は28.6%

認知症の相談窓口を知っているか尋ねたところ、「はい」が28.6%、「いいえ」が60.7%です。

要介護の状況別では、「はい」は一般高齢者が30.0%に対して、要支援・事業対象者は17.4%とかなり低くなっています。

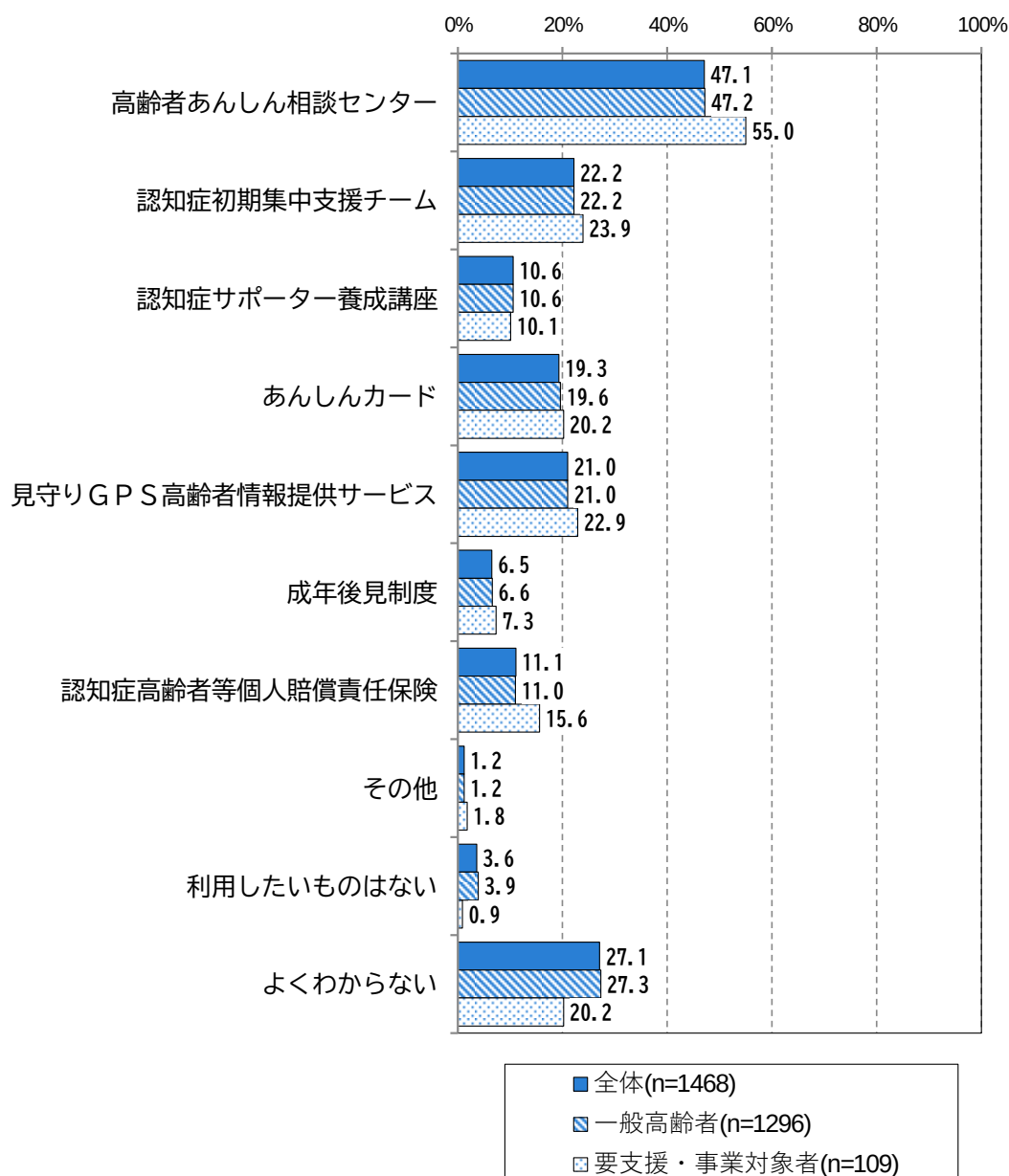


6-6 利用したい認知症施策

利用したい認知症施策は「高齢者あんしん相談センター」が47.1%

利用したい認知症施策は「高齢者あんしん相談センター」が47.1%と最も高く、「認知症初期集中支援チーム」が22.2%、「見守りGPS高齢者情報提供サービス」が21.0%、「あんしんカード」が19.3%と続いています。一方、「利用したいものはない」が3.6%、「よくわからない」が27.1%であり、認知症施策についての認知度や理解度を高めていくことが求められます。

要介護の状況別では、「高齢者あんしん相談センター」が一般高齢者、要支援・事業対象者共に最も高くなっており、特に要支援・事業対象者は55.0%と特に高くなっています。「利用したいものはない」「よくわからない」は一般高齢者の方が高くなっています。

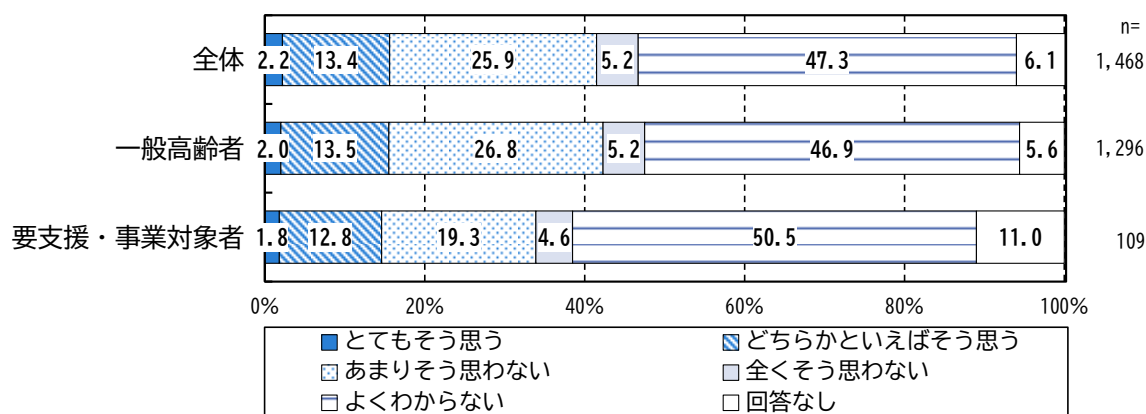


6-7 認知症の人の生活の維持について

認知症の人の生活維持は 15.6%が“できている”と回答

認知症の人の生活維持ができているかを尋ねたところ、「とてもそう思う」が 2.2%、「どちらかといえばそう思う」が 13.4%で、合わせると 15.6%が“できている”と回答しています。一方、「あまりそう思わない」が 25.9%、「全くそう思わない」が 5.2%で、合わせると 31.1%が“できていない”と回答しています。「わからない」が 47.3%と最も高くなっています。

要介護の状況別では、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに“できている”は 15%程度となっていますが、“できていない”は一般高齢者が 32.0%に対して、要支援・事業対象者は 23.9%とやや低くなっています。

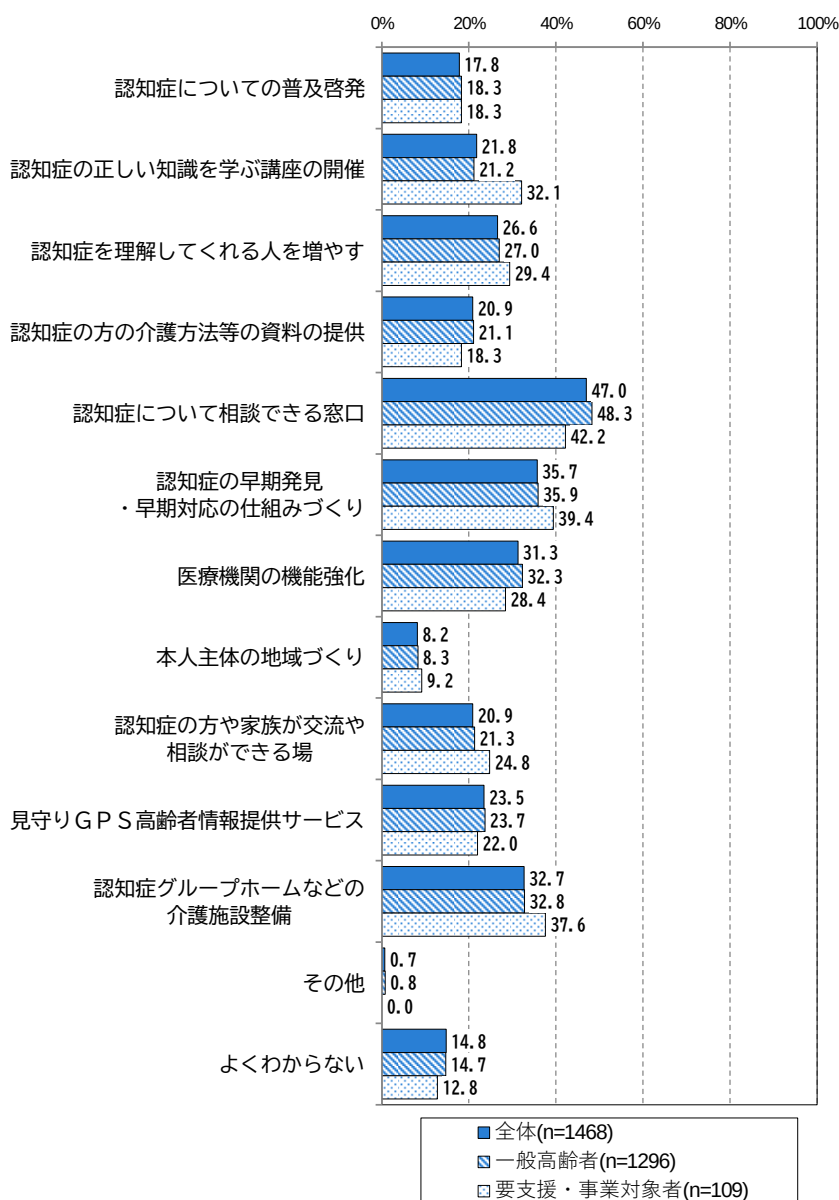


6-8 充実してほしい認知症施策

充実が求められている認知症施策は、相談窓口、早期発見・早期対応の仕組み、介護施設の充実、医療機関の機能強化

充実してほしい認知症施策は、「認知症について相談できる窓口」が 47.0%と最も高くなっています。次いで、「認知症の早期発見・早期対応の仕組みづくり」が 35.7%、「認知症グループホームなどの介護施設整備」が 32.7%、「医療機関の機能強化」が 31.3%と続いています。そのほかの項目には 20%以上の回答を得たものが多く、様々な施策が求められています。

要介護度別では、一般高齢者、要支援・事業対象者ともに「認知症について相談できる窓口」が最も高くなっており、特に一般高齢者は要支援・事業対象者に比べても高くなっています。要支援・事業対象者は、「認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催」が 32.1%と一般高齢者に比べて 10 ポイント以上高くなっています。



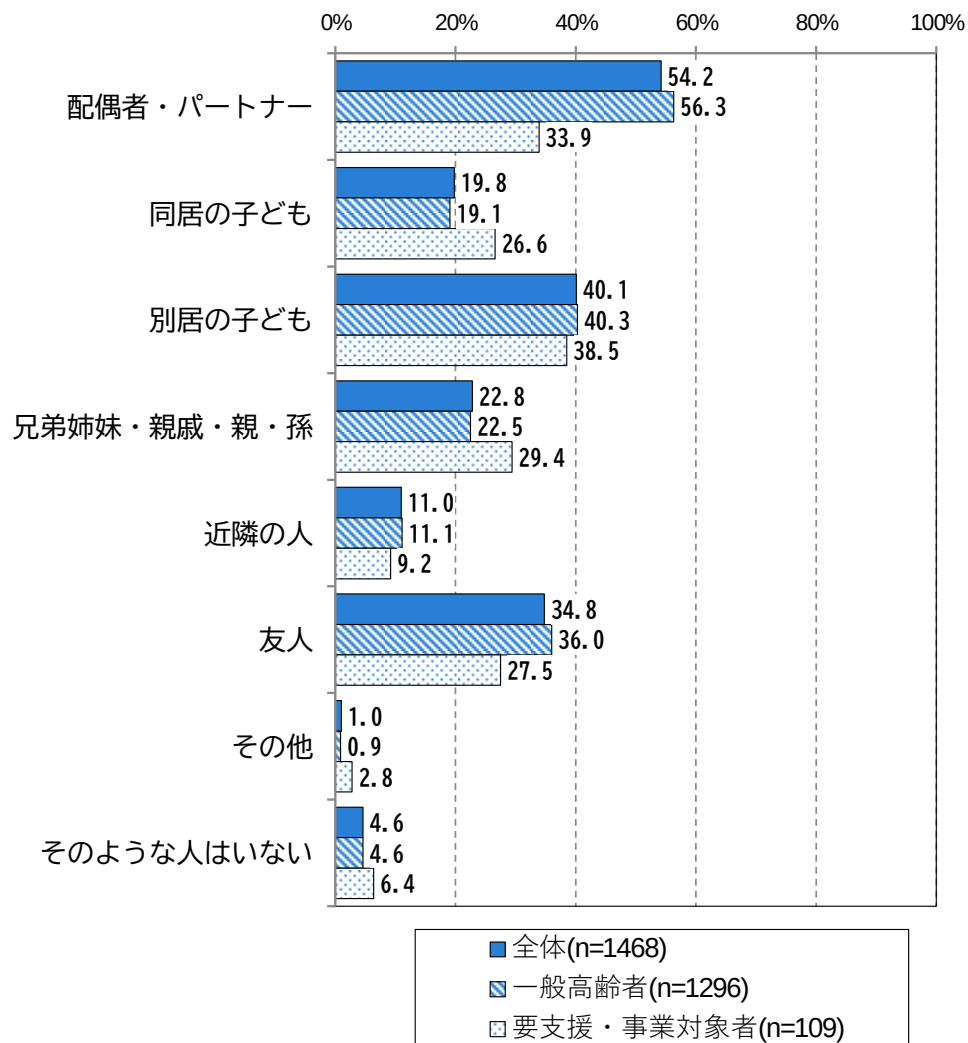
7 交流について

7-1 心配ごとやぐちを聞いてくれる人

心配ごとやぐちを聞いてくれる人は、配偶者・パートナーが半数以上

心配ごとやぐちを聞いてくれる人は、「配偶者・パートナー」が54.2%と半数を超えて最も高く、「別居の子ども」が40.1%、「友人」が34.8%と続いています。一方「そのような人はいない」は4.6%です。

要介護の状況別では、一般高齢者は「配偶者・パートナー」が56.3%と最も高く、「別居の子ども」が40.3%、「友人」が36.0%と続いています。要支援・事業対象者は、「別居の子ども」が38.5%と最も高く、「配偶者・パートナー」が33.9%に留まっています。これらに続いて「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が29.4%、「同居の子ども」が26.6%であり、家族や親戚の比率が高くなっています。

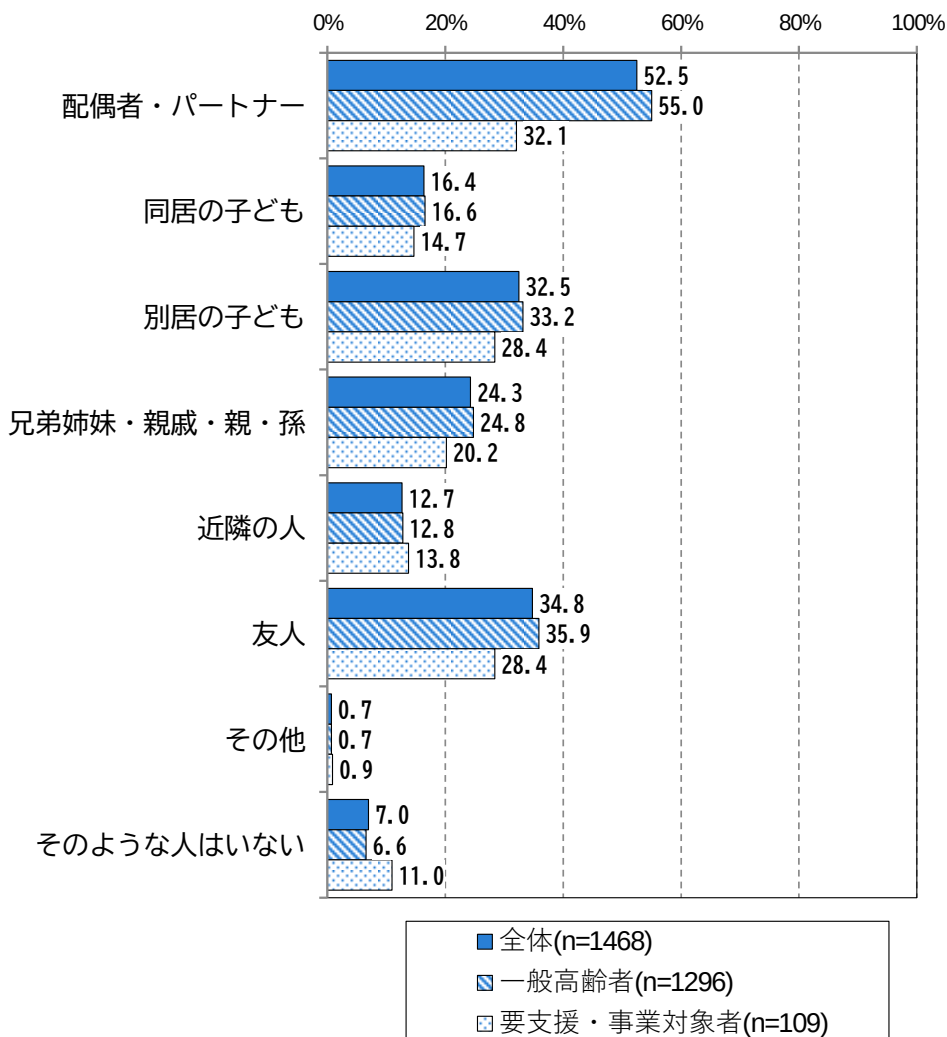


7-2 心配ごとやぐちを聞いてあげる人

心配ごとやぐちを聞いてあげる人も配偶者・パートナーが半数以上

心配ごとやぐちを聞いてあげる人は「配偶者・パートナー」が52.5%と最も高く、「友人」が34.8%、「別居の子ども」が32.5%と続いています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「配偶者・パートナー」が55.0%と最も高く、「友人」が35.9%、「別居の子ども」が33.2%と続いています。要支援・事業対象者も「配偶者・パートナー」が最も高くなっていますが、32.1%に留まっており、一般高齢者に比べてかなり低い状況です。「友人」と「別居の子ども」が28.4%と続いています。一方、「そのような人はいない」は一般高齢者で6.6%、要支援・事業対象者は11.0%となっています。

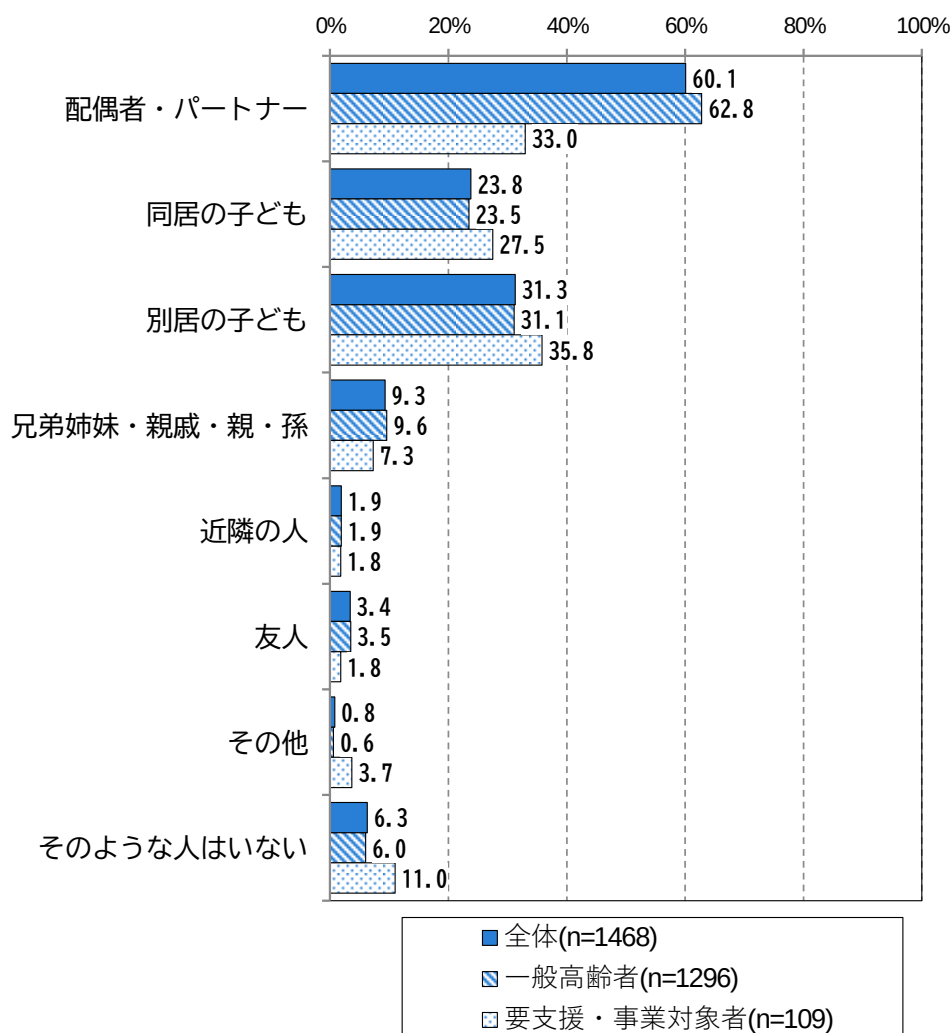


7-3 看護や世話をしてくれる人

看護や世話をしてくれる人は配偶者・パートナーが60.1%

看護や世話をしてくれる人は、「配偶者・パートナー」が60.1%と最も高く、「別居の子ども」が31.3%、「同居の子ども」が23.8%と続いています。「そのような人はいない」は6.3%です。

要介護の状況別では、一般高齢者は「配偶者・パートナー」が62.8%と最も高くなっています。要支援・事業対象者は「別居の子ども」が35.8%と最も高く、「配偶者・パートナー」が33.0%となっています。一方、「そのような人はいない」は一般高齢者で6.0%、要支援・事業対象者は11.0%となっています。

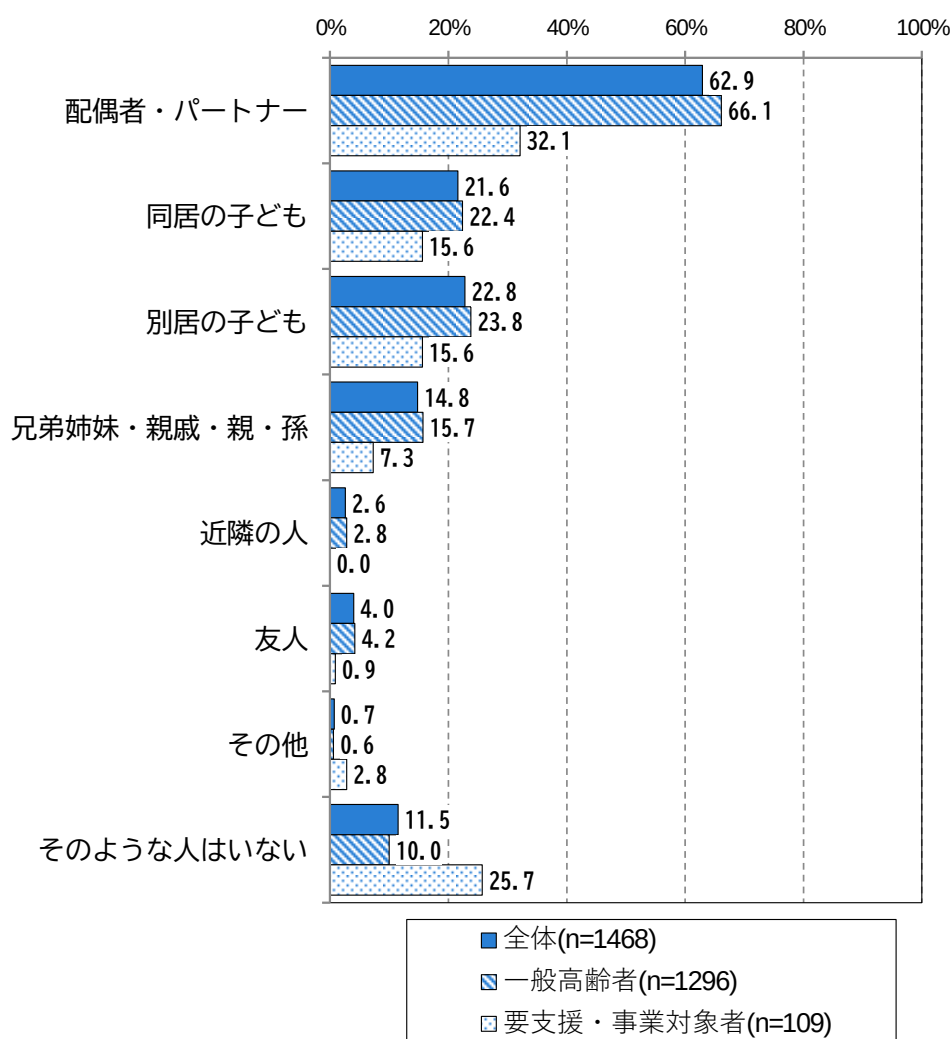


7-4 看護や世話をしてあげる人

看護や世話をしてあげる人も配偶者・パートナーが62.9%

看護や世話をしてあげる人は、「配偶者・パートナー」が62.9%と最も高く、「別居の子ども」が22.8%、「同居の子ども」が21.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が14.8%と続いています。「そのような人はいない」は11.5%となっています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「配偶者・パートナー」が66.1%と最も高く、「別居の子ども」「同居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」といった血縁が続いています。要支援・事業対象者は「配偶者・パートナー」が最も高くなっていますが32.1%に留まり、次いで「そのような人はいない」が25.7%と続いています。血縁関係の割合も一般高齢者に比べてやや低くなっています。

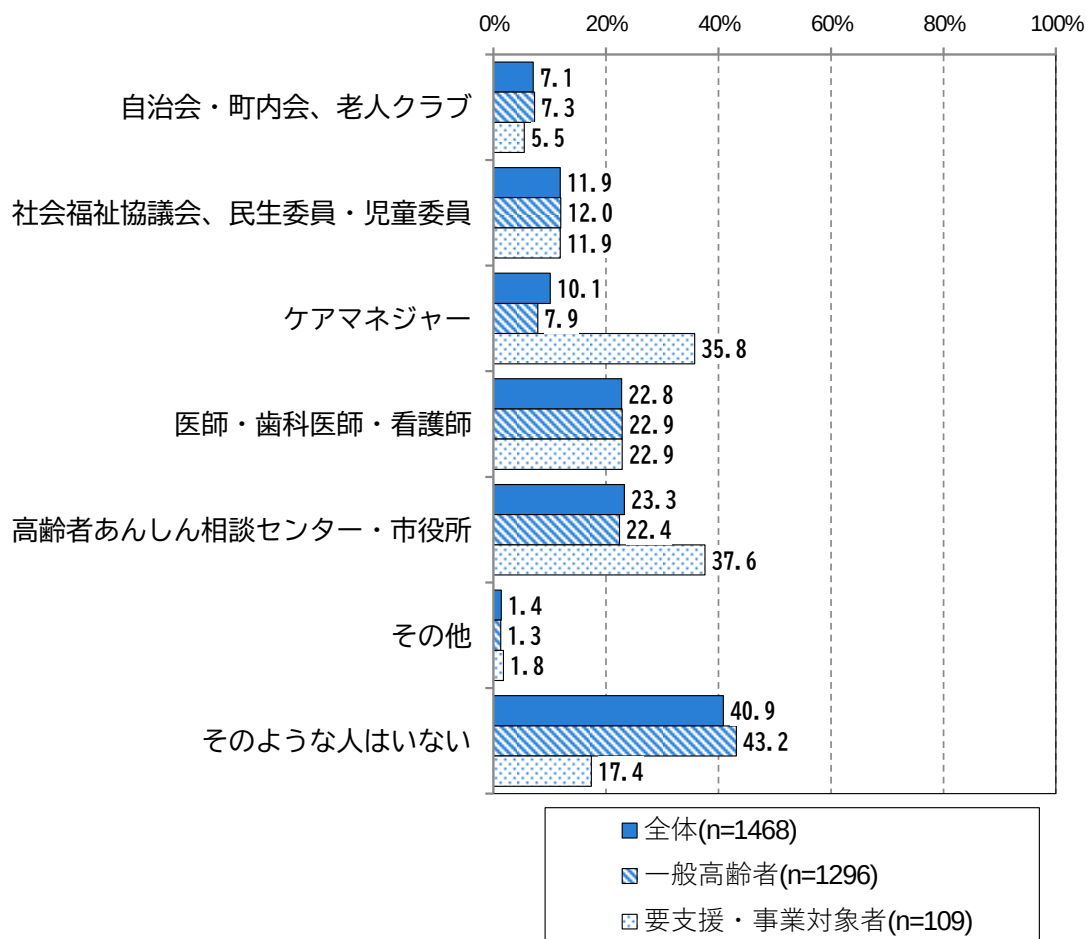


7-5 家族や友人以外の相談相手

家族や友人以外の相談相手は、高齢者あんしん相談センター・市役所や医師・歯科医師・看護師。その一方で、40.9%はそのような人はいないと回答

家族や友人以外の相談相手は、「高齢者あんしん相談センター・市役所」23.3%、「医師・歯科医師・看護師」が22.8%と高くなっています。一方、「そのような人はいない」が40.9%と最も高くなっています。

要介護の状況別では、一般高齢者は「そのような人はいない」が43.2%と最も高く、「医師・歯科医師・看護師」が22.9%、「高齢者あんしん相談センター・市役所」が22.4%と続いています。要支援・事業対象者は、「高齢者あんしん相談センター・市役所」が37.6%と最も高く、「ケアマネジャー」が35.8%、「医師・歯科医師・看護師」が22.9%と続いています。要支援の認定を受けている人、事業対象者であることから、福祉の専門的な機関とつながっていることがわかります。一方、「そのような人はいない」は17.4%と一般高齢者に比べてかなり低くなっています。

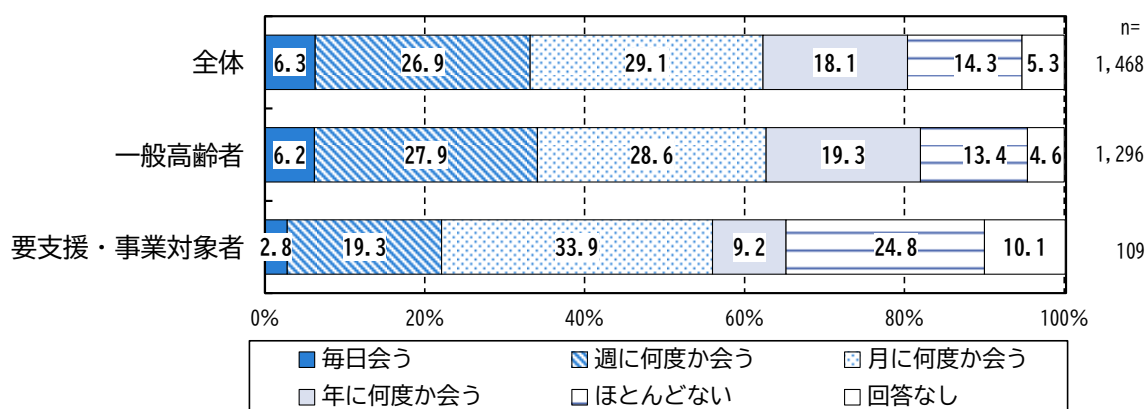


7-6 友人・知人と会う頻度

友人や知人と会う頻度は月に数回以上が 62.3%

友人や知人と会う頻度は「毎日会う」が 6.3%、「週に何度か会う」が 26.9%、「月に何度か会う」が 29.1%で、合わせると“月に数回以上会う”は 62.3%を占めています。一方「ほとんどない」は 14.3%です。

要介護の状況別では、“月に数回以上会う”は、一般高齢者は 62.7%ですが、要支援・事業対象者は 56.0%に留まっています。また、要支援・事業対象者の「ほとんどない」は 24.8%と 4 人に 1 人の割合で、一般高齢者に比べてかなり高くなっています。

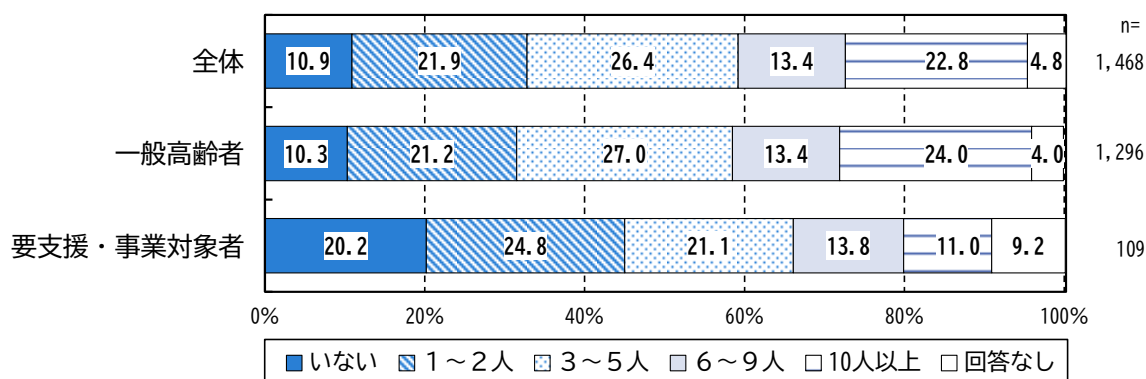


7-7 1か月間で友人・知人と会った人数

1か月間に会った友人の人数は、3人以上が 62.6%。いないが 10.9%

1か月間に会った友人・知人の人数は、「3～5人」が 26.4%と最も高く、「6～9人」が 13.4%、「10人以上」が 22.8%で、合わせると“3人以上”が 62.6%となっています。一方、「いない」が 10.9%です。

要介護の状況別では、“3人以上”は一般高齢者が 64.4%に対して要支援・事業対象者は 45.9%とかなり低くなっています。「いない」は要支援・事業対象者は 20.2%と一般高齢者 10.3%の 2 倍の状況です。



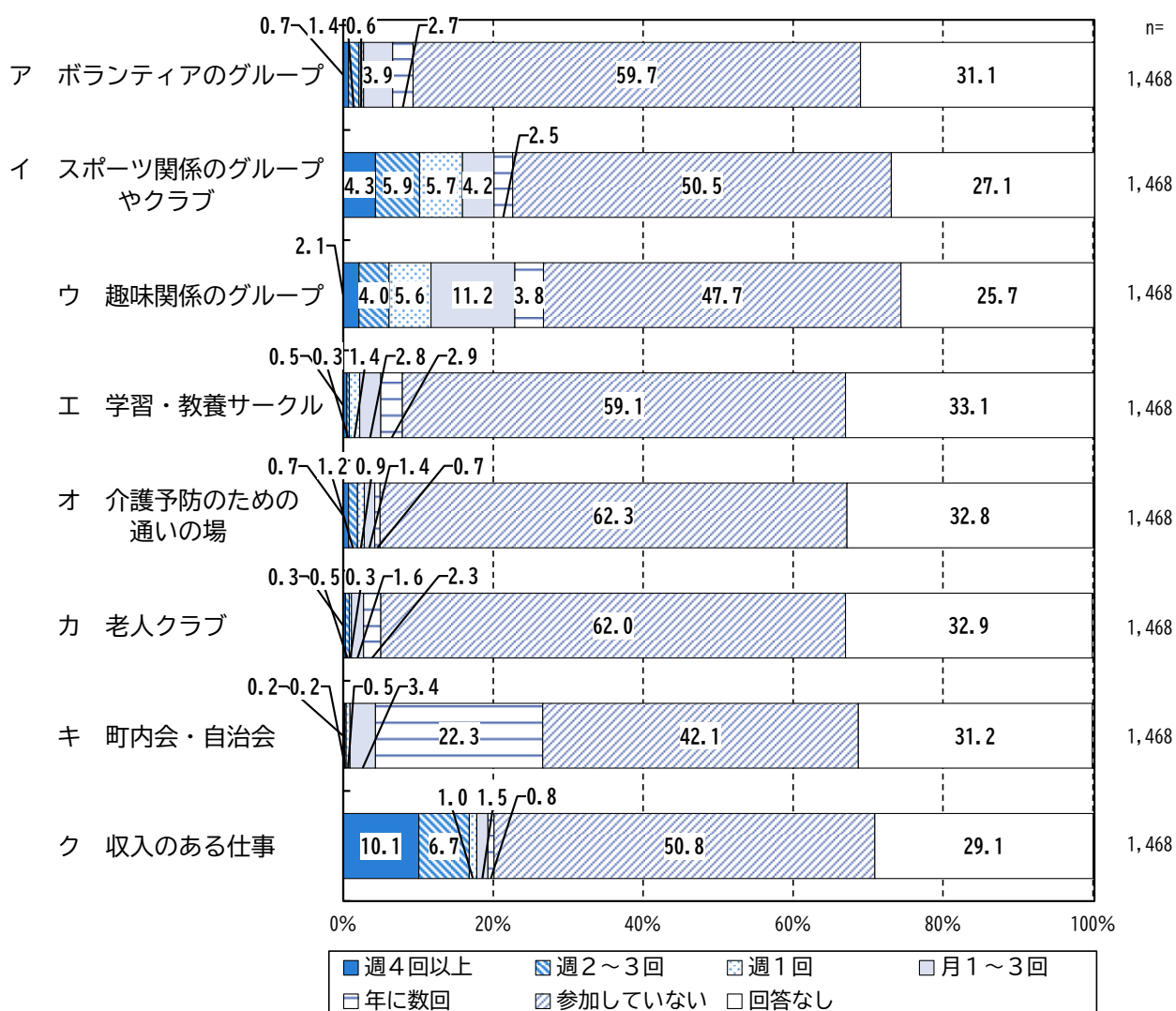
8 地域での活動について

8-1 参加している活動の頻度

活動は、ほぼ毎日の仕事、月数回の趣味の活動、年に数回の町内会活動

参加している活動は、「参加していない」「回答なし」を除くと、『ウ 趣味関係のグループ』が26.7%と最も高く、『キ 町内会・自治会』が26.6%、『イ スポーツ関係のグループやクラブ』が22.6%、『ク 収入のある仕事』が20.1%と続いています。

活動と頻度をみると、『ウ 趣味関係のグループ』の「月1～3回」が11.2%、『キ 町内会・自治会』の「年に数回」が22.3%、『ク 収入のある仕事』の「週4回以上」が10.1%となっています。

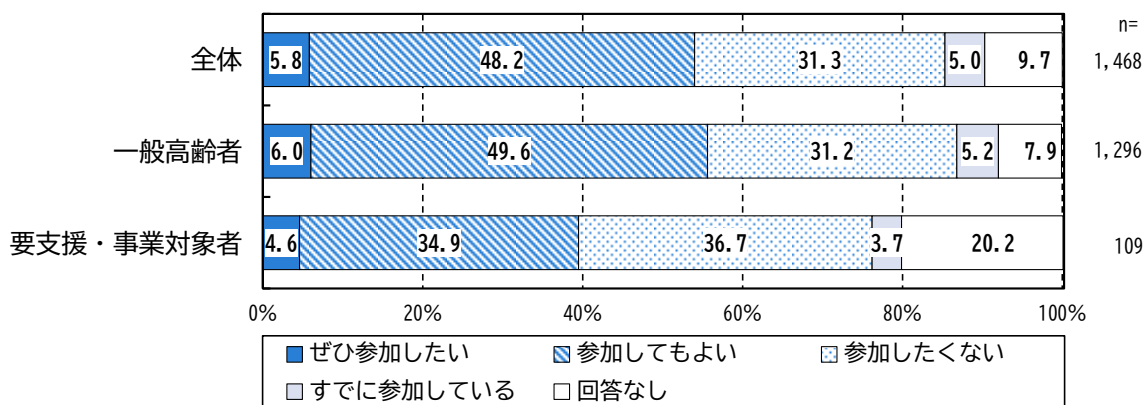


8-2 活動に参加者として参加したいか

参加者として活動への参加に前向きな人は 59.0%

活動に参加者として、「すでに参加している」が 5.0%、「ぜひ参加したい」が 5.8%、「参加してもよい」が 48.2%であり、合わせると 59.0%は“参加”に前向きな回答をしています。一方「参加したくない」は 31.3%です。

要介護の状況別では、“参加”に前向きな回答は、一般高齢者は 60.8%、要支援・事業対象者は 43.2%とかなり差があります。一方「参加したくない」は要支援・事業対象者が 36.7%とやや高くなっています。

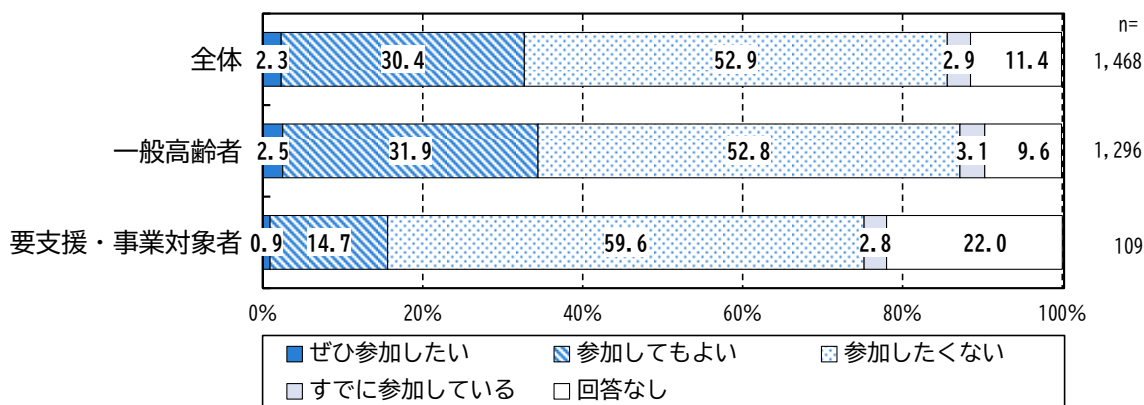


8-3 活動に運営者として参加したいか

運営者として活動への参加に前向きな人は 35.6%

活動に運営者として、「すでに参加している」が 2.9%、「ぜひ参加したい」が 2.3%、「参加してもよい」が 30.4%であり、合わせると 35.6%は“運営者として参加”に前向きな回答をしています。一方「参加したくない」は 52.9%と半数を超えています。

要介護の状況別では、“運営者として参加”に前向きな回答は、一般高齢者は 37.5%、要支援・事業対象者は 18.4%とかなり差があります。一方「参加したくない」は要支援・事業対象者が 59.6%と高くなっています。



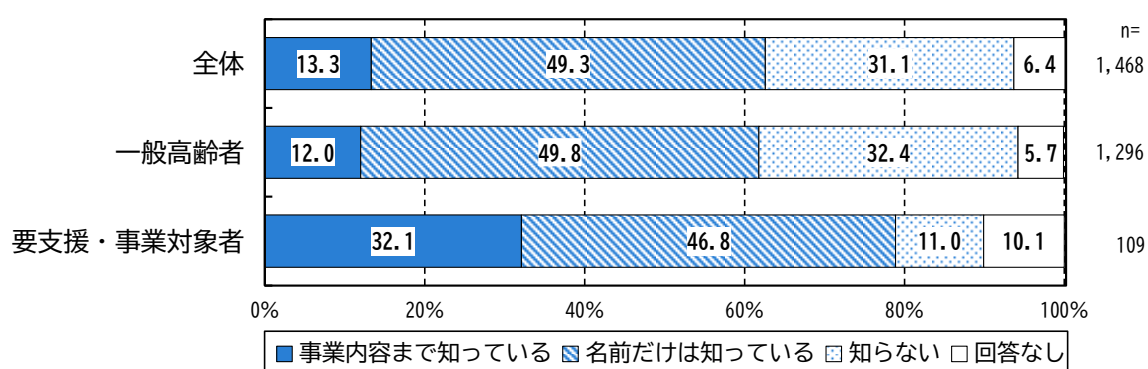
9 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）等について

9-1 高齢者あんしん相談センターの認知度

高齢者あんしん相談センターの名前の認知度は 62.6%

高齢者あんしん相談センターについて「事業の内容まで知っている」が 13.3%、「名前だけ知っている」が 49.3%で合わせると 62.6%の認知度があります。

要介護の状況別では、一般高齢者は 66.8%、要支援・事業対象者は 78.9%の認知度があります。特に要支援・事業対象者は「事業の内容まで知っている」が 32.1%とかなり高くなっています。

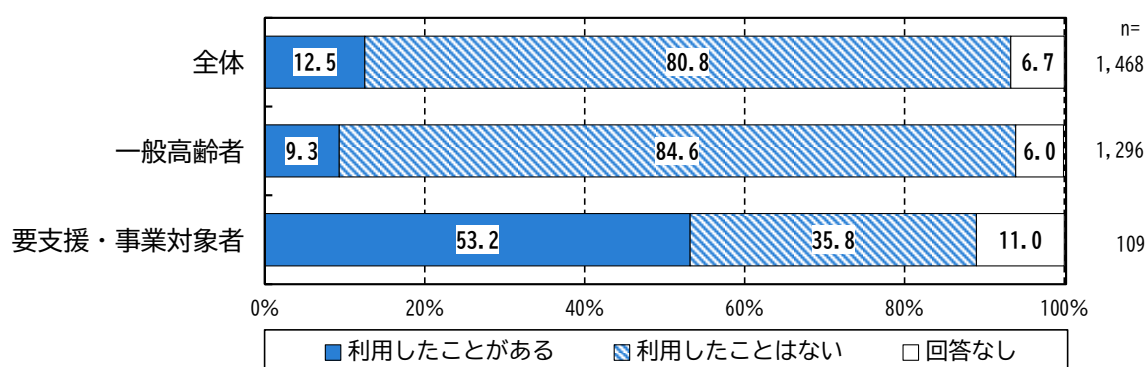


9-2 高齢者あんしん相談センターの利用経験

高齢者あんしん相談センターを 12.5%が利用経験あり

高齢者あんしん相談センターを「利用したことがある」は 12.5%となっています。

要介護の状況別では、「利用したことがある」は一般高齢者が 9.3%に対して、要支援・事業対象者は 53.2%と半数以上となって、かなり高い状況です。

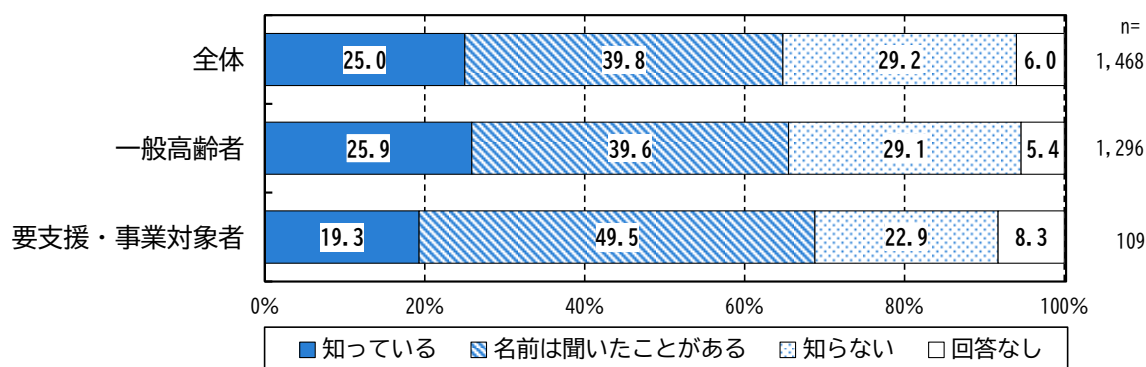


9-3 成年後見制度の認知度

成年後見制度の名称の認知度は 64.8%

成年後見制度について「知っている」が 25.0%、「名前は聞いたことがある」が 39.8%で合わせると 64.8%の認知度があります。

要介護の状況別では、一般高齢者は 65.5%、要支援・事業対象者は 68.8%の認知度があります。

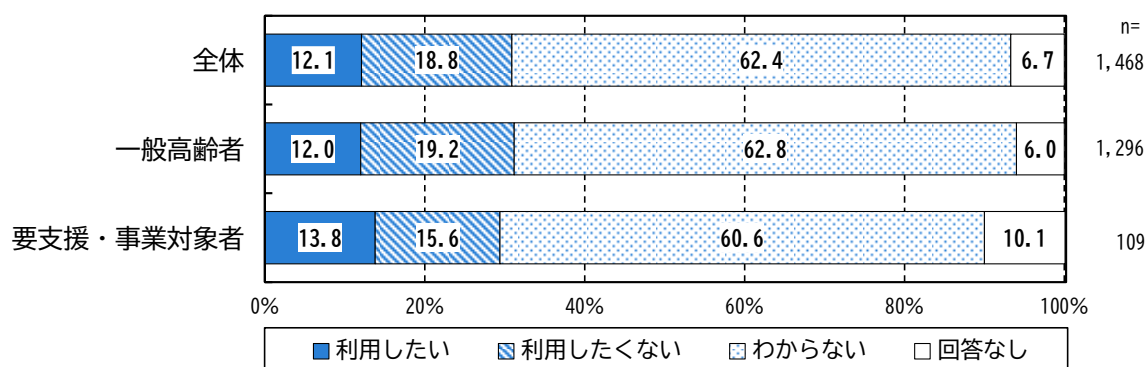


9-4 成年後見制度の利用意向

成年後見制度を 12.1%が利用意向あり

成年後見制度を「利用したい」が 12.1%、「利用したくない」が 18.8%となっており、「わからない」が 62.4%と最も高くなっています。

要介護の状況別でも傾向に大きな違いはありません。



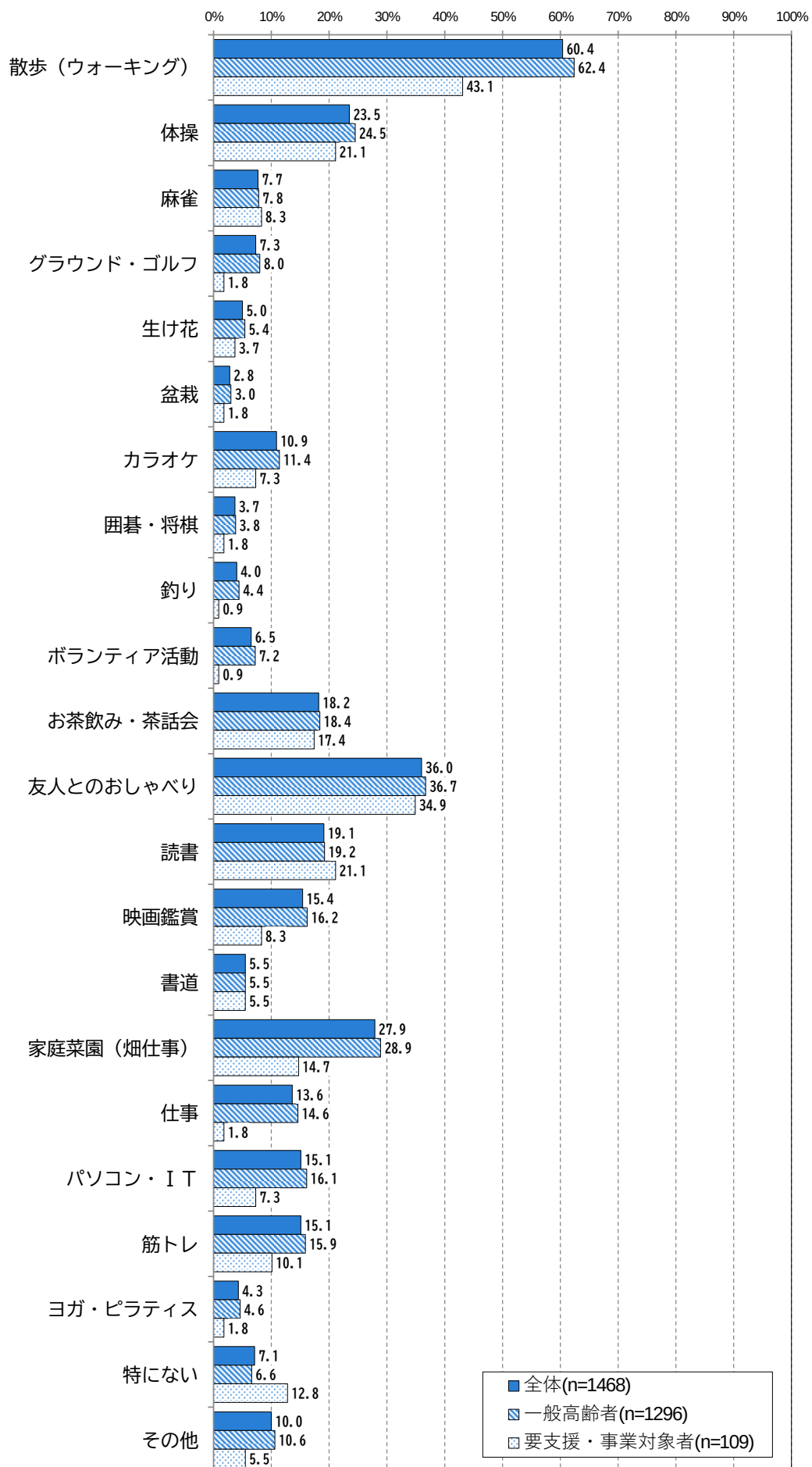
10 高齢者施策について

10-1 元気で生活するために行っていること

元気で生活するために行っていることは、散歩、友人とのおしゃべり、家庭菜園

元気で生活するために行っていることは、「散歩（ウォーキング）」が 60.4%と最も高くなっています。「友人とのおしゃべり」が 36.0%、「家庭菜園（畑仕事）」が 27.9%と続いています。「特にない」7.1%と「回答なし」6.0%を除くと、86.9%が何らかの活動をしていることがわかります。

要介護の状況別では、“何らかの活動をしている”は、一般高齢者は 88.2%に対して、要支援・事業対象者は 77.1%とかなり低い状況です。行っている活動は、「散歩（ウォーキング）」が最も高くなっていますが、一般高齢者は 62.4%に対して、要支援・事業対象者は 43.1%とかなり差があります。一般高齢者が特に高くなっている項目は、「家庭菜園（畑仕事）」「グラウンド・ゴルフ」「ボランティア活動」「映画鑑賞」「仕事」「パソコン・IT」「筋トレ」です。要支援・事業対象者が特に高くなっている項目は「特にない」のみです。



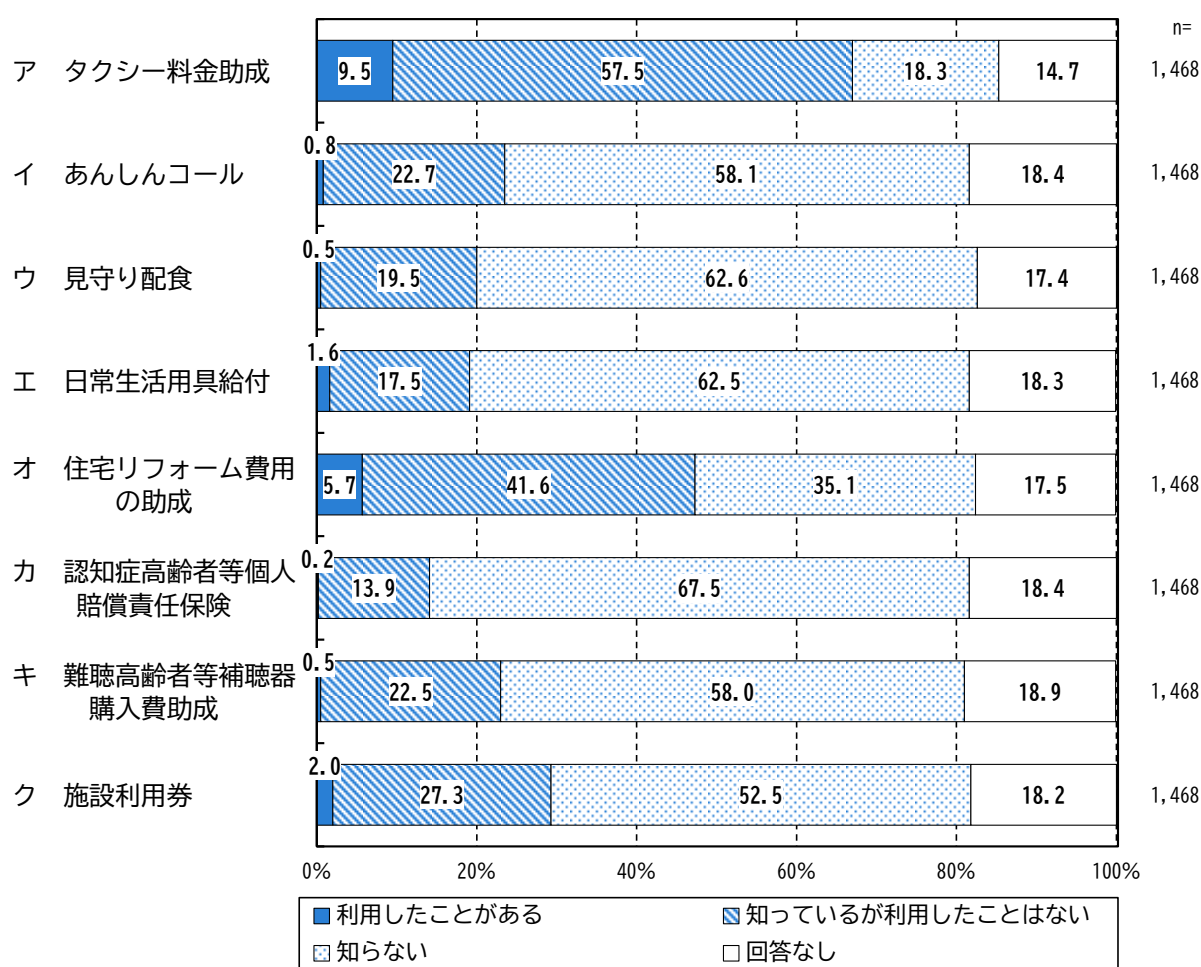
10-2 高齢者支援事業の認知度・利用度と利用意向

認知度・利用度、今後の利用意向ともに『タクシー料金助成』が最も高い

「利用したことがある」と回答した事業は、『ア タクシー助成』が9.5%と最も高く、『オ 住宅リフォーム費用の助成』5.7%が続いています。

「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせた認知度は、利用度と同じく、『ア タクシー助成』67.0%で最も高く、『オ 住宅リフォーム費用の助成』47.3%が続いています。そのほかの項目でも 20%以上の認知度がある事業が多くなっています。

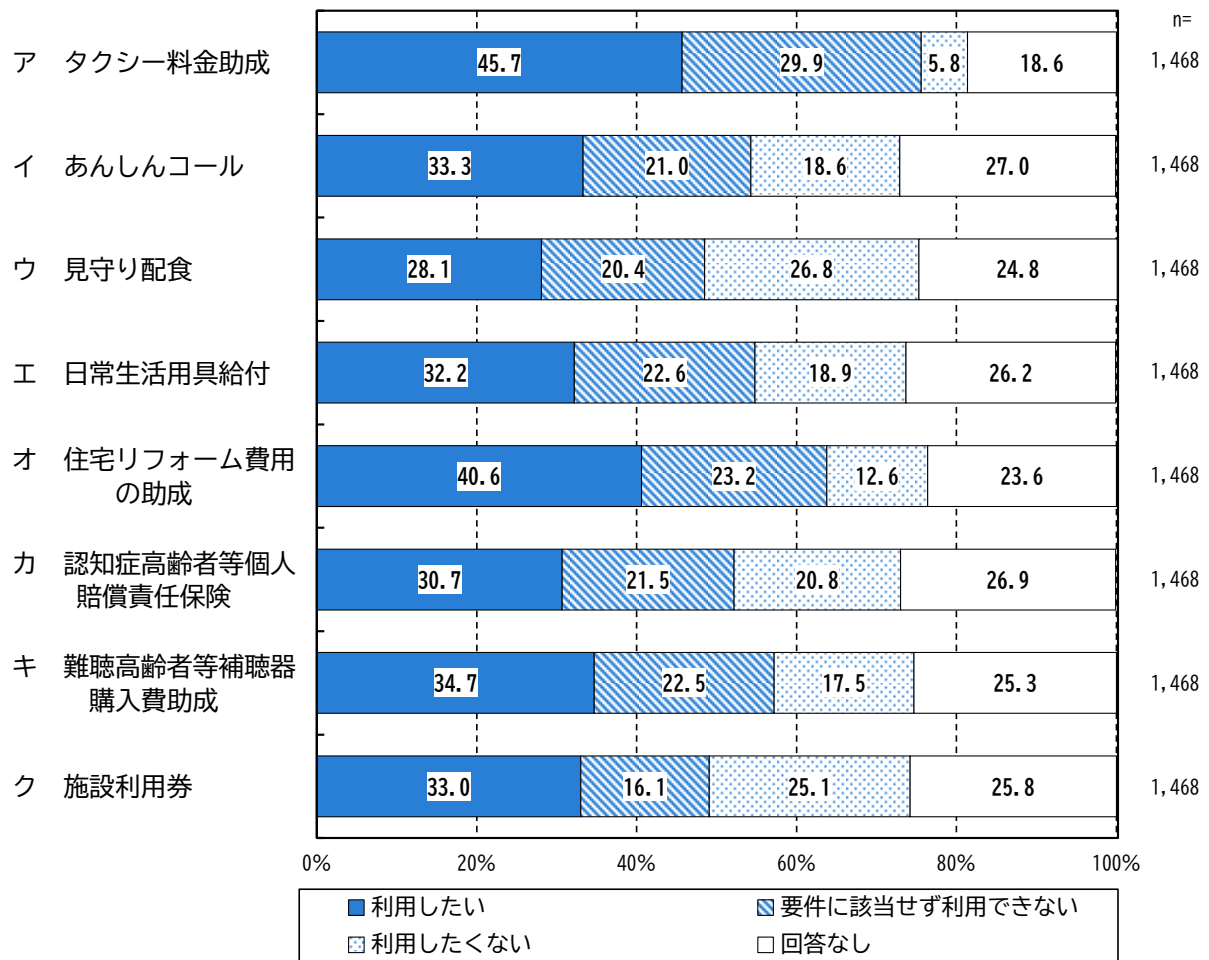
【認知度・利用度】



「利用したい」と回答した事業は、『ア タクシー助成』が45.7%と最も高く、『オ 住宅リフォーム費用の助成』40.6%が続いています。そのほかの項目も30%前後の利用意向があります。

また、「要件に該当せず利用できない」が各項目20%程度あります。

【今後の利用意向】

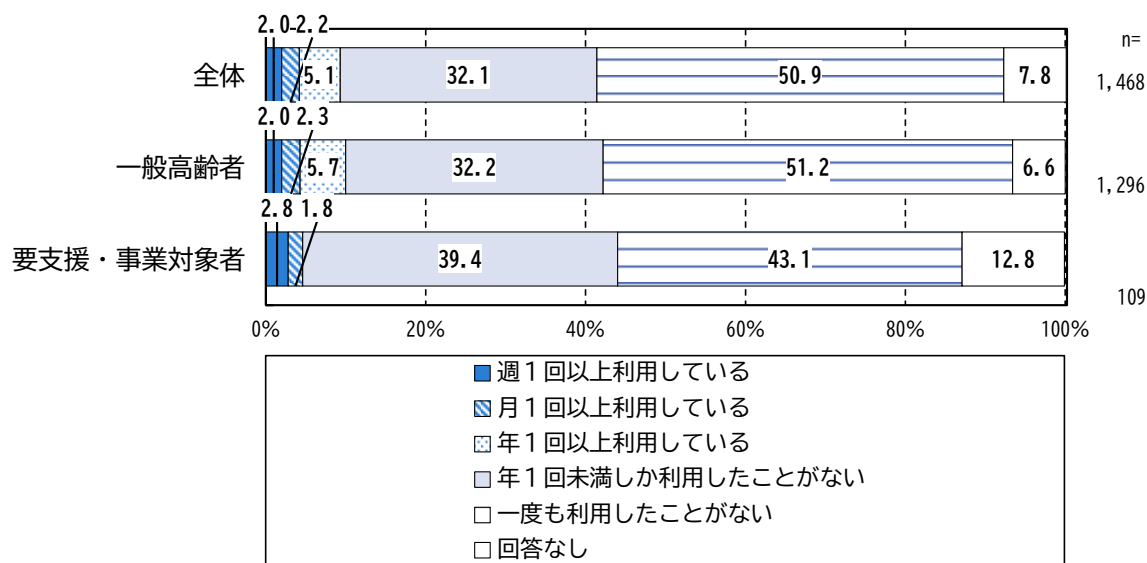


10-3 市民健康館さらさくらの利用頻度

市民健康館さらさくらを月1回以上利用する人は4.2%

市民健康館さらさくらの利用頻度を尋ねたところ、「年1回未満」が32.1%と高く、「週1回以上」が2.0%、「月1回以上」が2.2%で、合わせると“月1回以上”は4.2%です。一方「一度も利用したことがない」が50.9%と半数以上を占めて、最も高くなっています。

要介護の状況別では、“月1回以上”の利用は、一般高齢者では4.3%、要支援・事業対象者では4.6%です。一方「一度も利用したことがない」は、一般高齢者では51.2%と半数を超えているのに対して、要支援・事業対象者は43.1%とやや低くなっています。

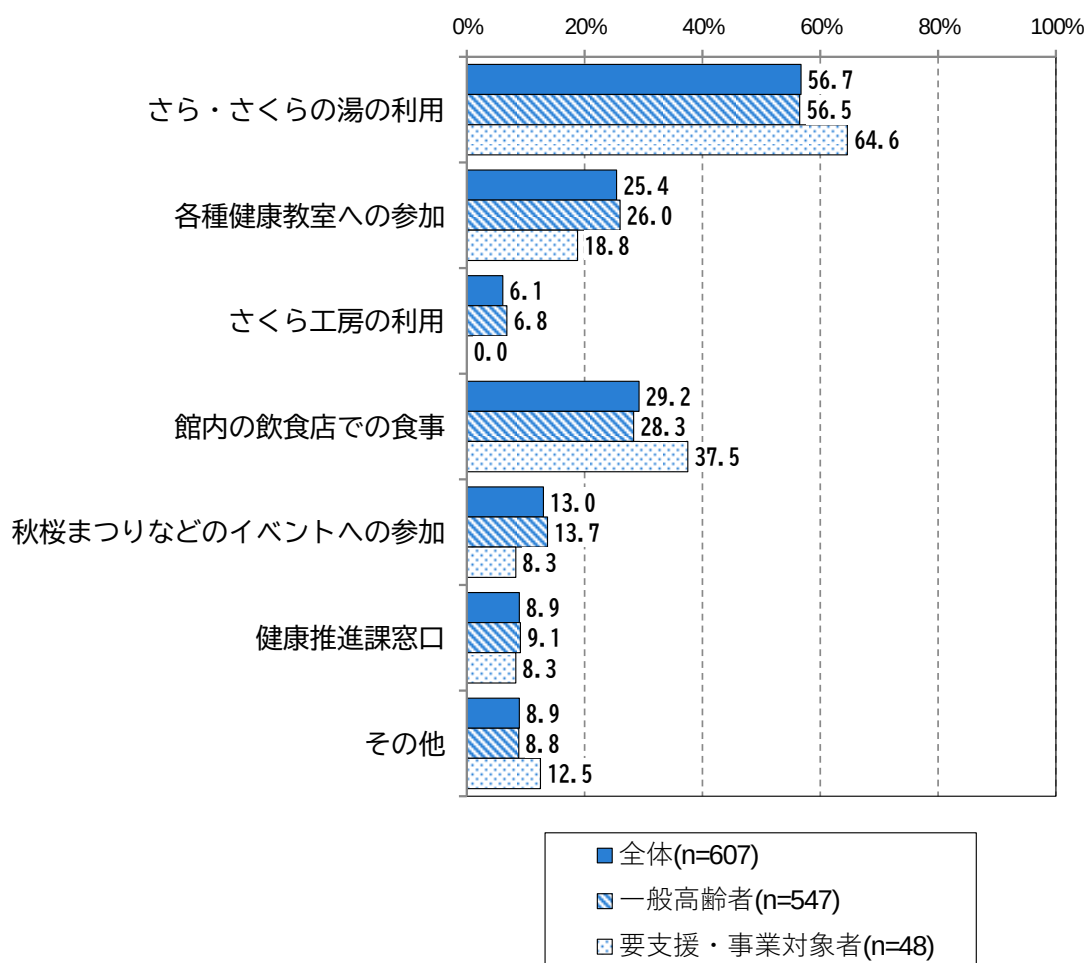


10-3① 市民健康館さらさくらの利用目的

市民健康館さらさくらの利用目的は、さら・さくらの湯が 56.7%

市民健康館さらさくらを利用したことがある 607 人を対象にその利用目的を尋ねたところ、「さら・さくらの湯の利用」が 56.7%と半数を超えて最も高くなっています。次いで「館内の飲食店での食事」が 29.2%、「各種健康教室への参加」が 25.4%と続いています。

要介護の状況別では、「さら・さくらの湯の利用」は一般高齢者が 56.5%に対して、要支援・事業対象者が 64.6%とかなり高くなっています。「館内の飲食店での食事」も要支援・事業対象者が一般高齢者よりも高くなっています。

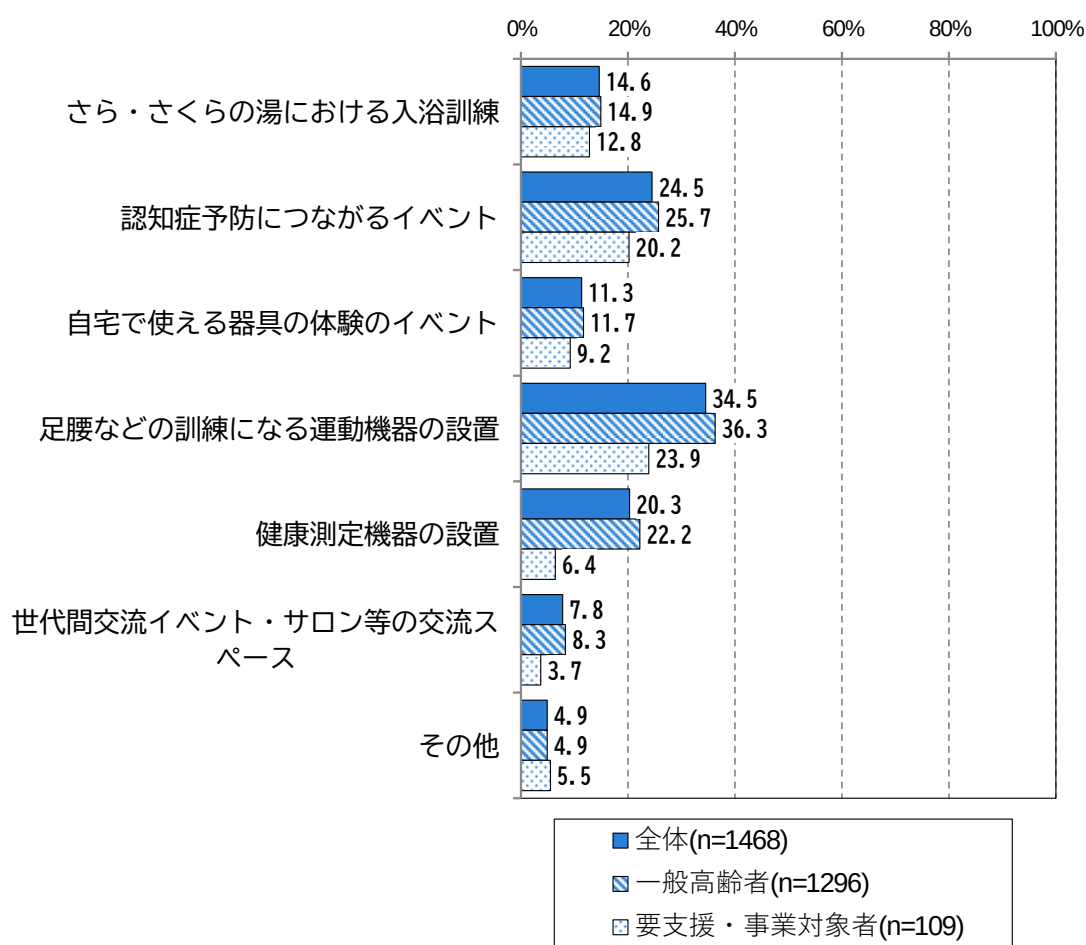


10-4 期待する市民健康館の新たな機能

市民健康館に期待する新たな機能は運動機器の設置が 34.5%

市民健康館に期待する新たな機能は、「足腰などの訓練になる運動機器の設置」が 34.5%と最も高く、「認知症予防につながるイベント」が 24.5%、「健康測定機器の設置」が 20.3%と続いています。

要介護の状況別では、「足腰などの訓練になる運動機器の設置」が最も高いものの、一般高齢者は 36.3%に対して、要支援・事業対象者は 23.9%とかなり低くなっています。また、「健康測定機器の設置」も一般高齢者が 22.2%に対して、要支援・事業対象者は 6.4%とかなり低い状況です。



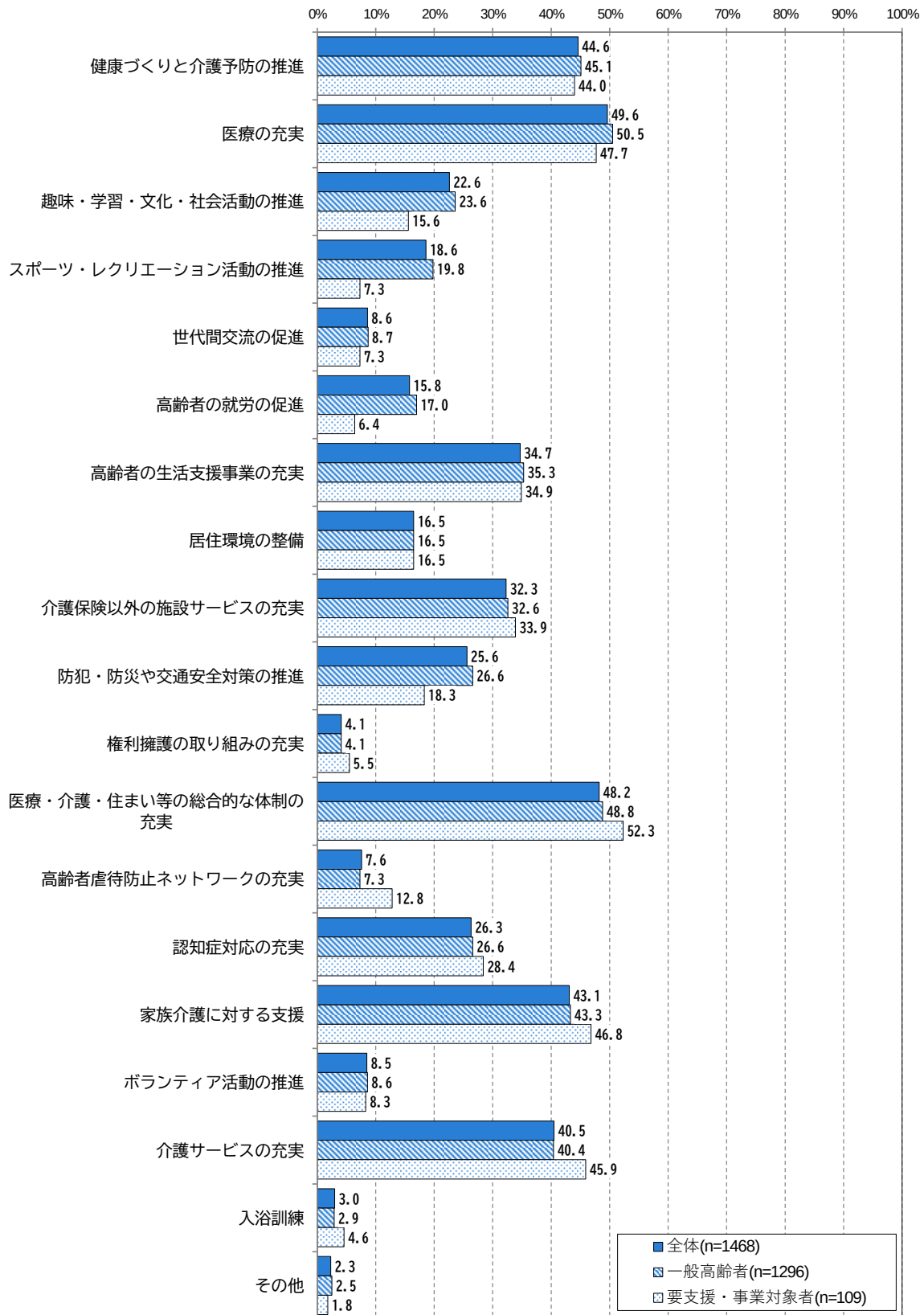
10－5 高齢者施策

期待される高齢者施策は、医療の充実、総合的な体制の充実、健康づくりと介護予防、家族介護支援、介護サービスの充実

期待される高齢者施策は、「医療の充実」が49.6%と最も高く、「医療・介護・住まい等の総合的な体制の充実」が48.2%、「健康づくりと介護予防の推進」が44.6%、「家族介護に対する支援」が43.1%、「介護サービスの充実」が40.5%と続いています。

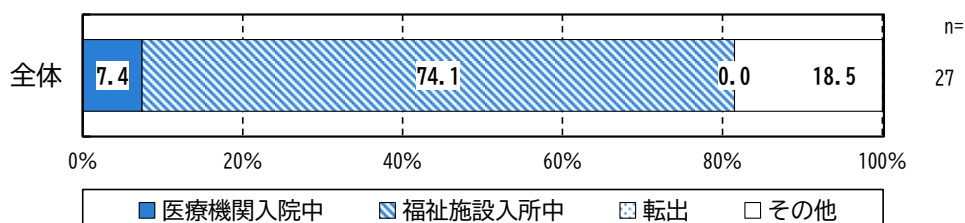
要介護の状況別では、上位の項目ではほとんど差はないものの、一般高齢者は「医療の充実」、要支援・事業対象者は「医療・介護・住まい等の総合的な体制の充実」が最も高くなっています。

一般高齢者が要支援・事業対象者よりも高い項目は「趣味・学習・文化・社会活動の推進」「スポーツ・レクリエーション活動の推進」「高齢者の就労の促進」「防犯・防災や交通安全対策の推進」です。一方、要支援・事業対象者が高い項目は「介護サービスの充実」「高齢者虐待防止ネットワークの充実」です。



Ⅲ 居宅サービス利用者調査結果

調査回答者 294 人のうち、27 人については、「福祉施設入所中」が 74.1%、「医療機関入院中」が 7.4%での回答不可ということです。



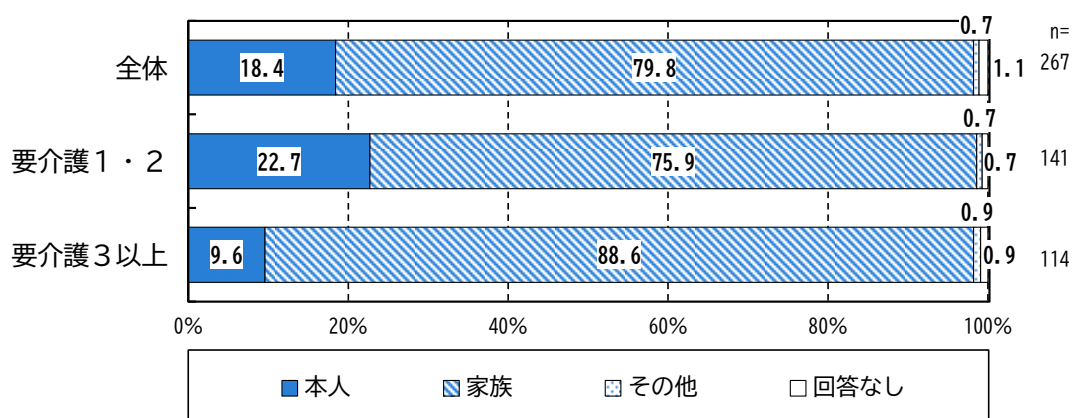
1 調査票記入者及び介護者

1-1 記入者

調査票の記入者は、本人 18.4%、家族が 79.8%

調査票の記入者は、本人が 18.4%、家族が 79.8%で最も高くなっています。

要介護度別にみると、要介護 1・2 は、本人が 22.7%ですが、要介護 3 以上になると 9.6%とかなり低くなっています。

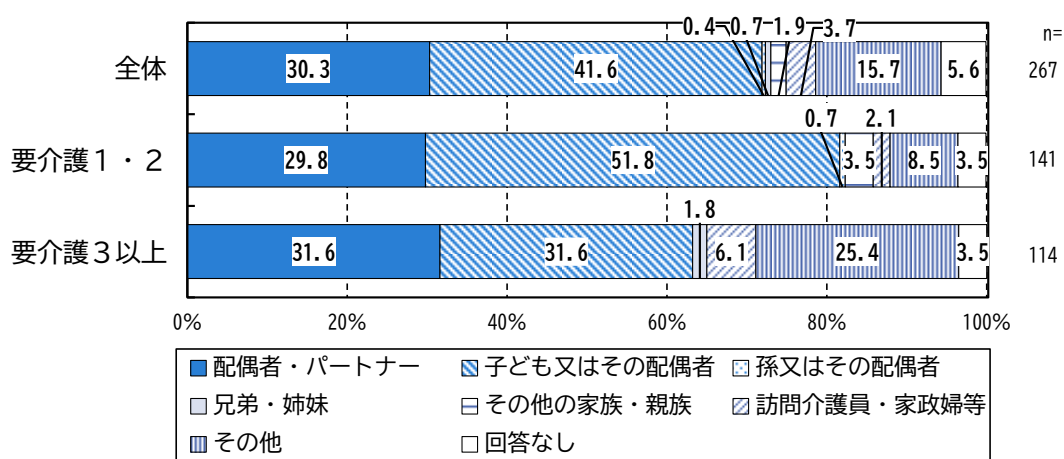


1-2 主な介護者

主な介護者は子ども又はその配偶者が 41.6%、配偶者・パートナーが 30.3%

主な介護者は、「子ども又はその配偶者」が 41.6%で最も高く、「配偶者・パートナー」が 30.3%、「その他」が 15.7%と続いています。

要介護度別にみると、要介護1・2は「子ども又はその配偶者」が 51.8%と半数を超えて最も高くなっています。要介護3以上になると「配偶者・パートナー」「子ども又はその配偶者」が共に 31.6%で、「その他」が 25.4%とかなり高くなっています。

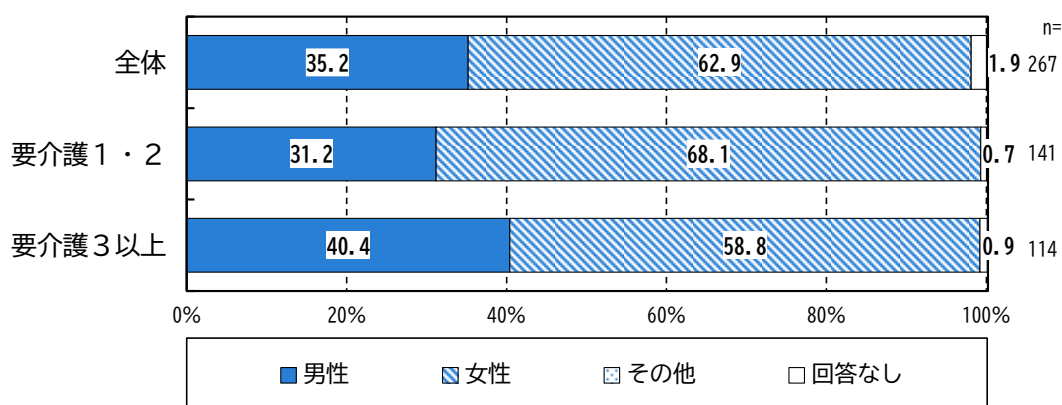


2 調査対象者

2-1 性別

調査対象者の性別は、男性 35.2%、女性 62.9%

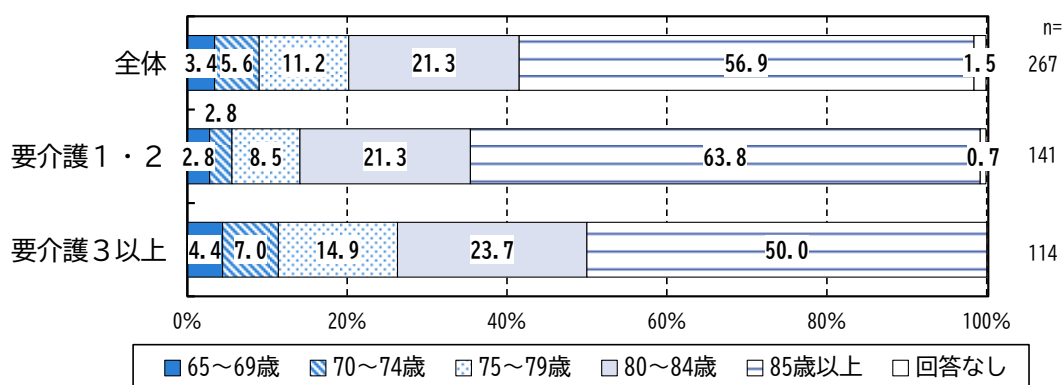
調査対象者の性別は、男性 35.2%、女性 62.9%と、女性の比率が高くなっています。要介護度別にみると、要介護3以上になると、男性が 40.4%とかなり高くなっています。



2-2 年齢

調査対象者の年齢は、85歳以上が 56.9%と半数以上

調査対象者の年齢は、「85歳以上」が 56.9%と半数を超えて最も高く、「65～74歳」の前期高齢者は 9.0%とかなり低く、「75歳以上」の後期高齢者が 89.4%を占めています。要介護度別では、「75歳以上」は要支援1・2が 93.6%を占めて高く、要介護3以上は 88.6%とやや低くなっています。

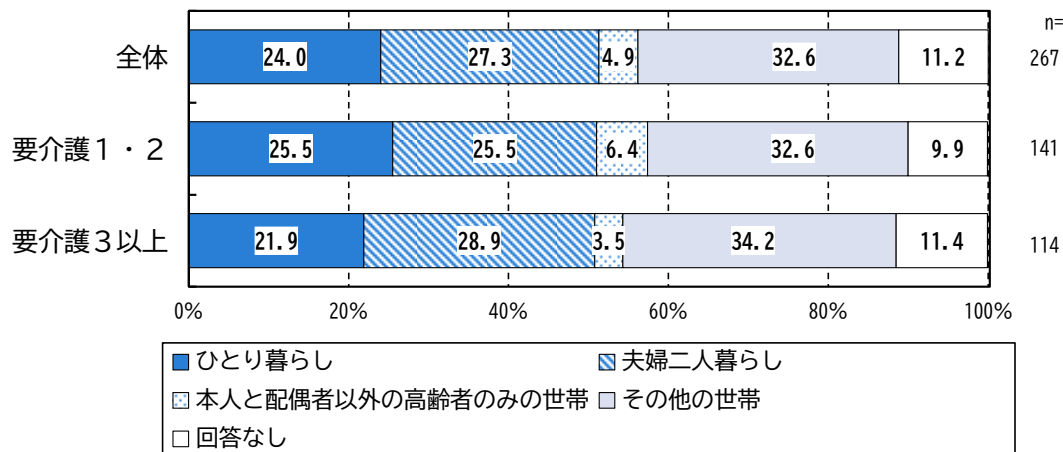


2-3 家族構成

家族構成は「ひとり暮らし」が 24.0%、「夫婦二人暮らし」が 27.3%

調査対象者の家族構成は、「その他の世帯」が 32.6%と最も高く、「夫婦二人暮らし」が 27.3%、「ひとり暮らし」24.0%が続いています。

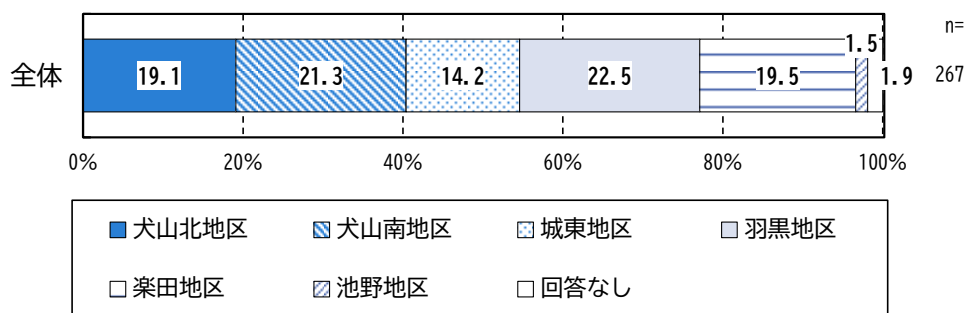
要介護度別にみても大きな傾向の差はありません。



2-4 居住地区

居住地区は、羽黒地区 22.5%、犬山南地区 21.3%、楽田地区 19.5%、犬山北地区 19.1%

居住地区は、羽黒地区 22.5%、犬山南地区 21.3%、楽田地区 19.5%、犬山北地区 19.1%の順に高くなっています。

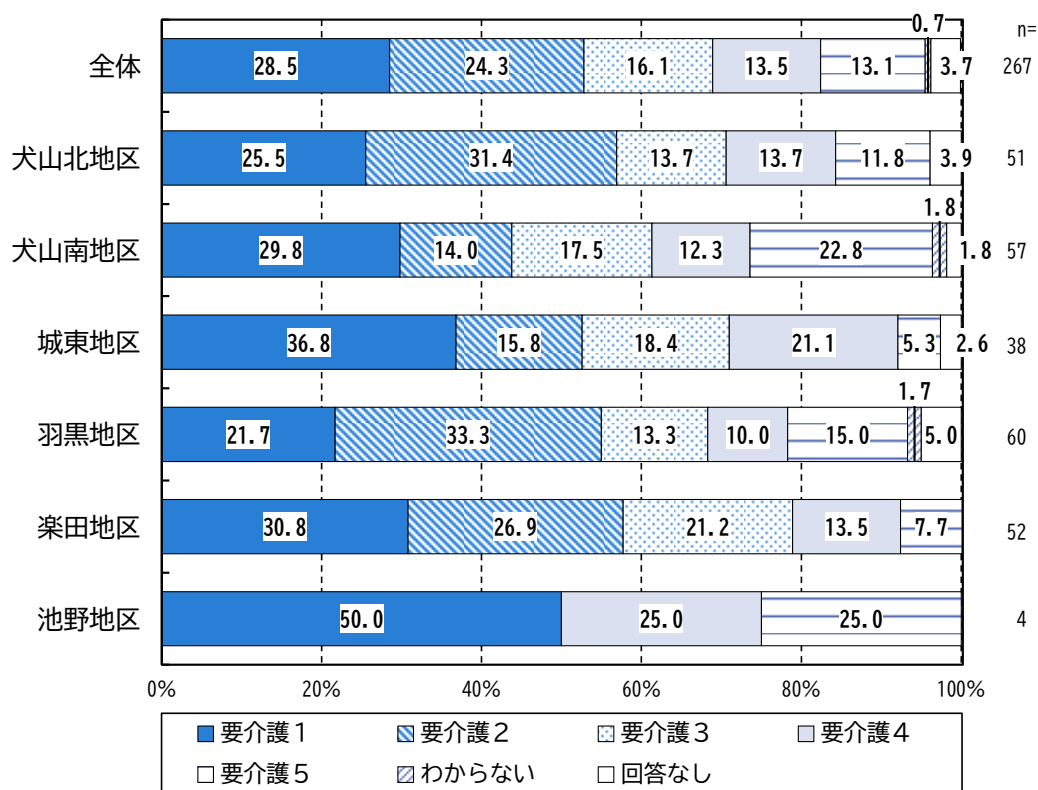


2-5 要介護度

要介護度は軽度ほど割合が高い

調査対象者の要介護度は、要介護1が28.5%と最も高く、重度になるほど割合が低くなっています。要介護1・2が52.8%、要介護3以上が42.7%となっています。

居住地区別にみると、犬山南地区は要介護5の比率が他の地区に比べて高くなっています。

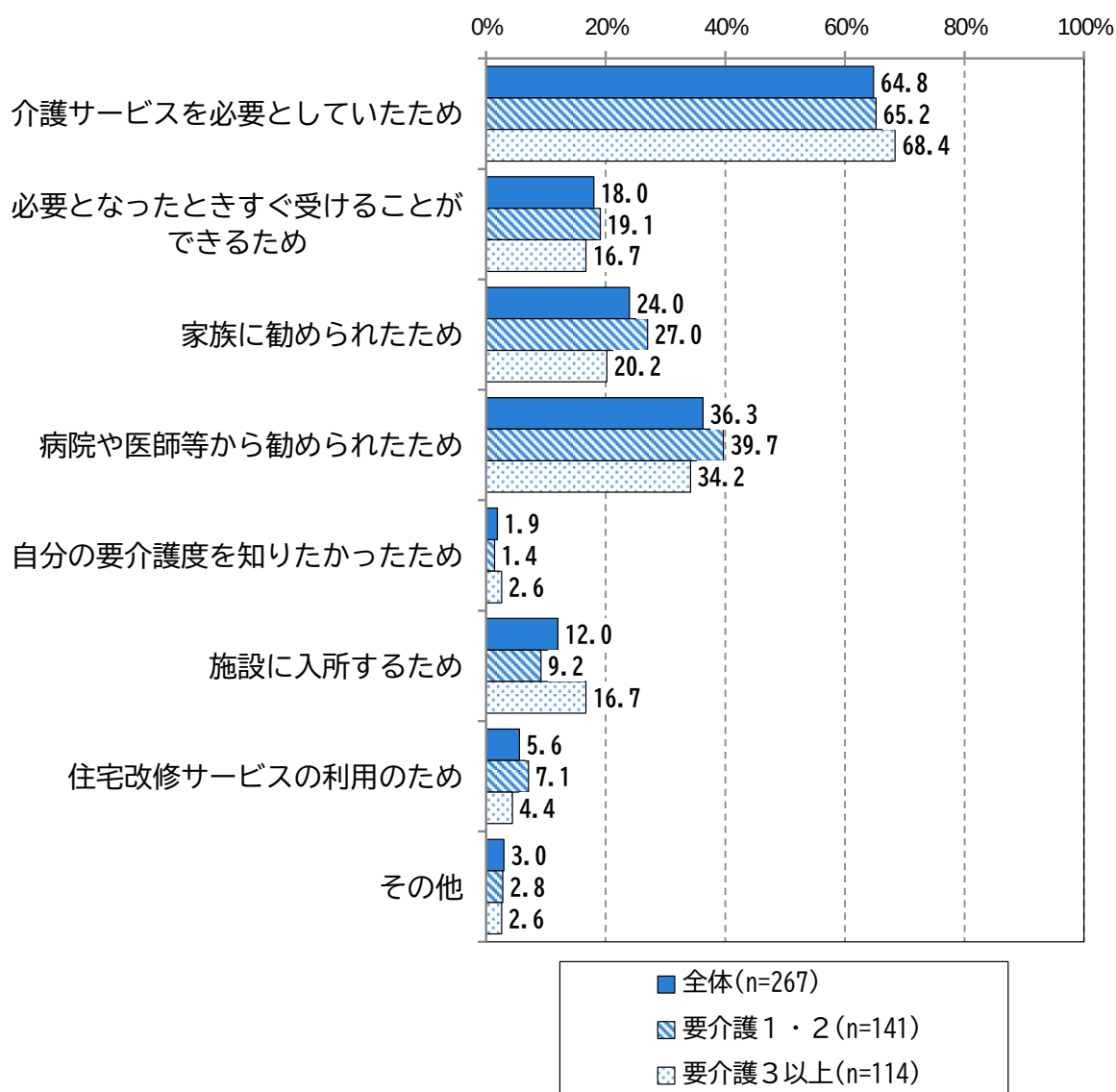


2-6 要介護認定を受けた理由

要介護認定を受けたのは、介護サービスを必要としていたからが 64.8%

要介護認定を受けた理由は、「介護サービスを必要としていたため」が 64.8%と最も高く、「病院や医師等から勧められたため」が 36.3%、「家族に勧められたため」が 24.0%と続いており、必要に迫られて認定を受けている人が多い状況です。

要介護度別にみると、「介護サービスを必要としていたため」が要介護度に関わらず最も高くなっていますが、「病院や医師等から勧められたため」「家族に勧められたため」は要介護1・2で、「施設に入所するため」は要介護3以上で高い傾向があります。

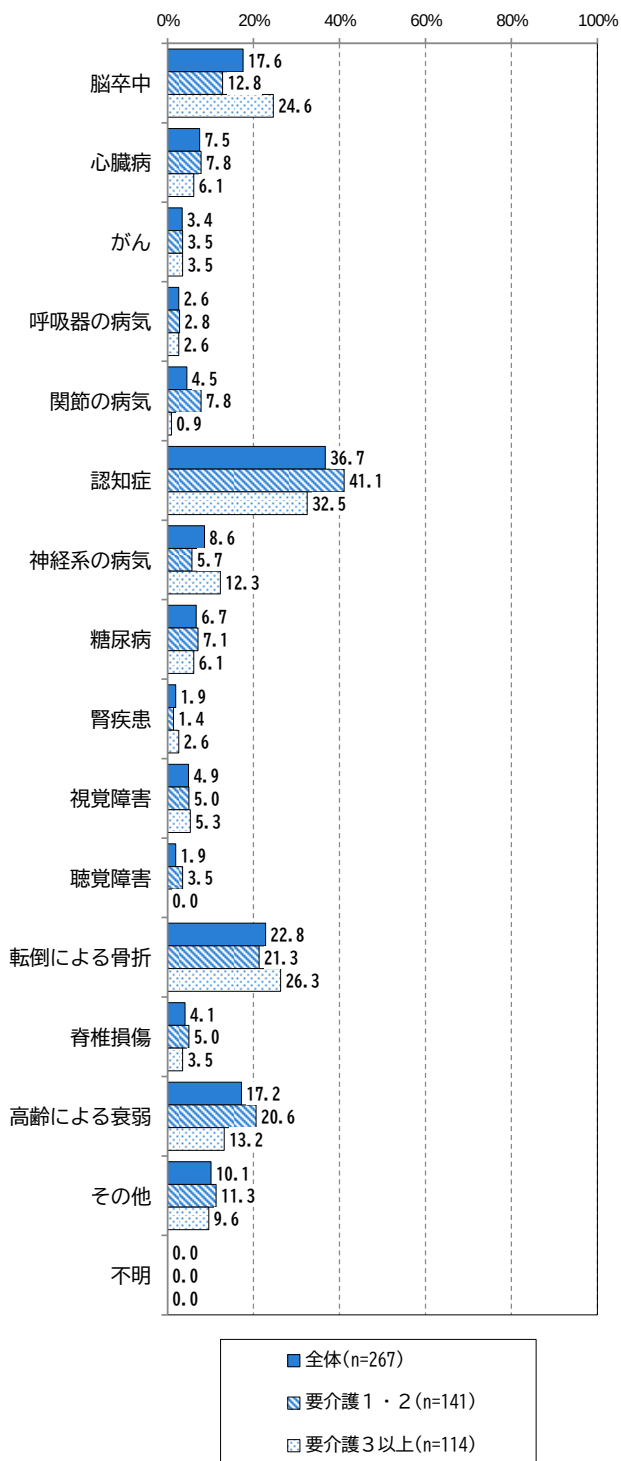


2-7 要介護状態になった主なきっかけ

要介護状態になったきっかけは、認知症、骨折、脳卒中、衰弱

要介護状態になった主なきっかけは、「認知症」が36.7%と最も高く、「転倒による骨折」が22.8%、「脳卒中」が17.6%、「高齢による衰弱」が17.2%と続いています。

要介護度別で差が大きいのは、「認知症」「高齢による衰弱」「関節の病気」は要介護1・2が高く、「脳卒中」「転倒による骨折」「神経系の病気」は要介護3以上の比率が高くなっています。

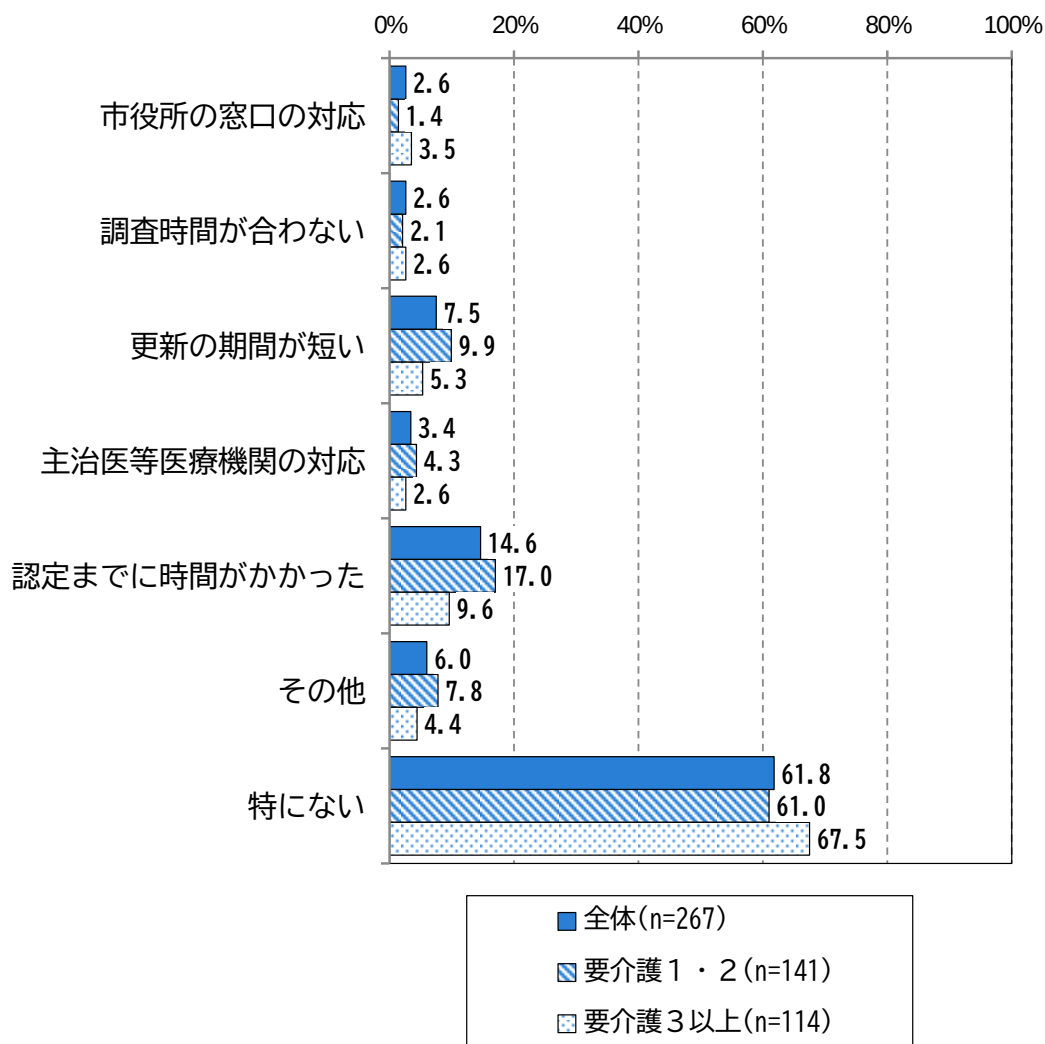


2-8 要介護認定手続きで困ったこと

要介護認定手続きで困ったことは、認定までに時間がかかったこと

要介護認定手続きで困ったことは、「認定までに時間がかかった」が14.6%、「更新の期間が短い」が7.5%となっています。一方、「特にない」が61.8%で最も高くなっています。

要介護度別にみると、「認定までに時間がかかった」「更新の期間が短い」は要介護1・2で比率が高くなっており、要介護3以上では「特にない」が高い状況です。

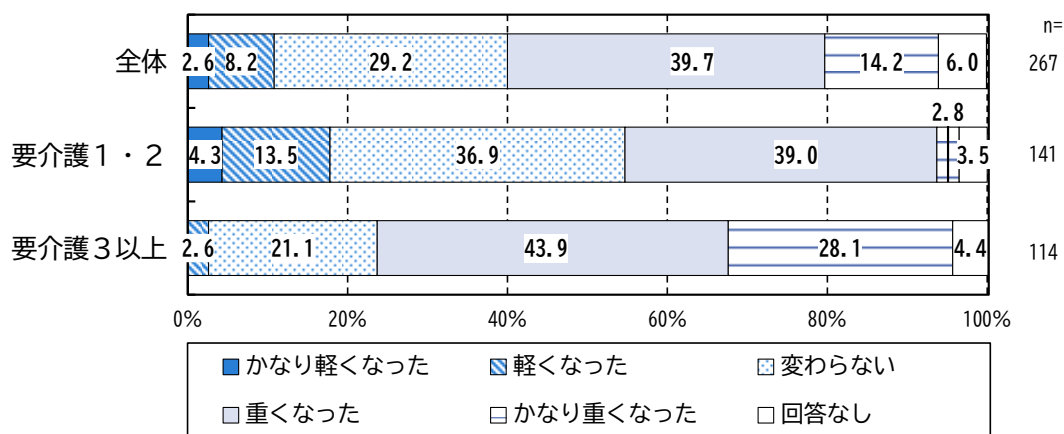


2-9 要介護度の変化

要介護度が“軽くなった”が10.8%、“重くなった”が53.9%

要介護度が「かなり軽くなった」2.6%と「軽くなった」8.2%で合わせると“軽くなった”は10.8%です。一方「かなり重くなった」14.2%と「重くなった」39.7%を合わせると“重くなった”は53.9%で、半数以上が重度化したと回答しています。

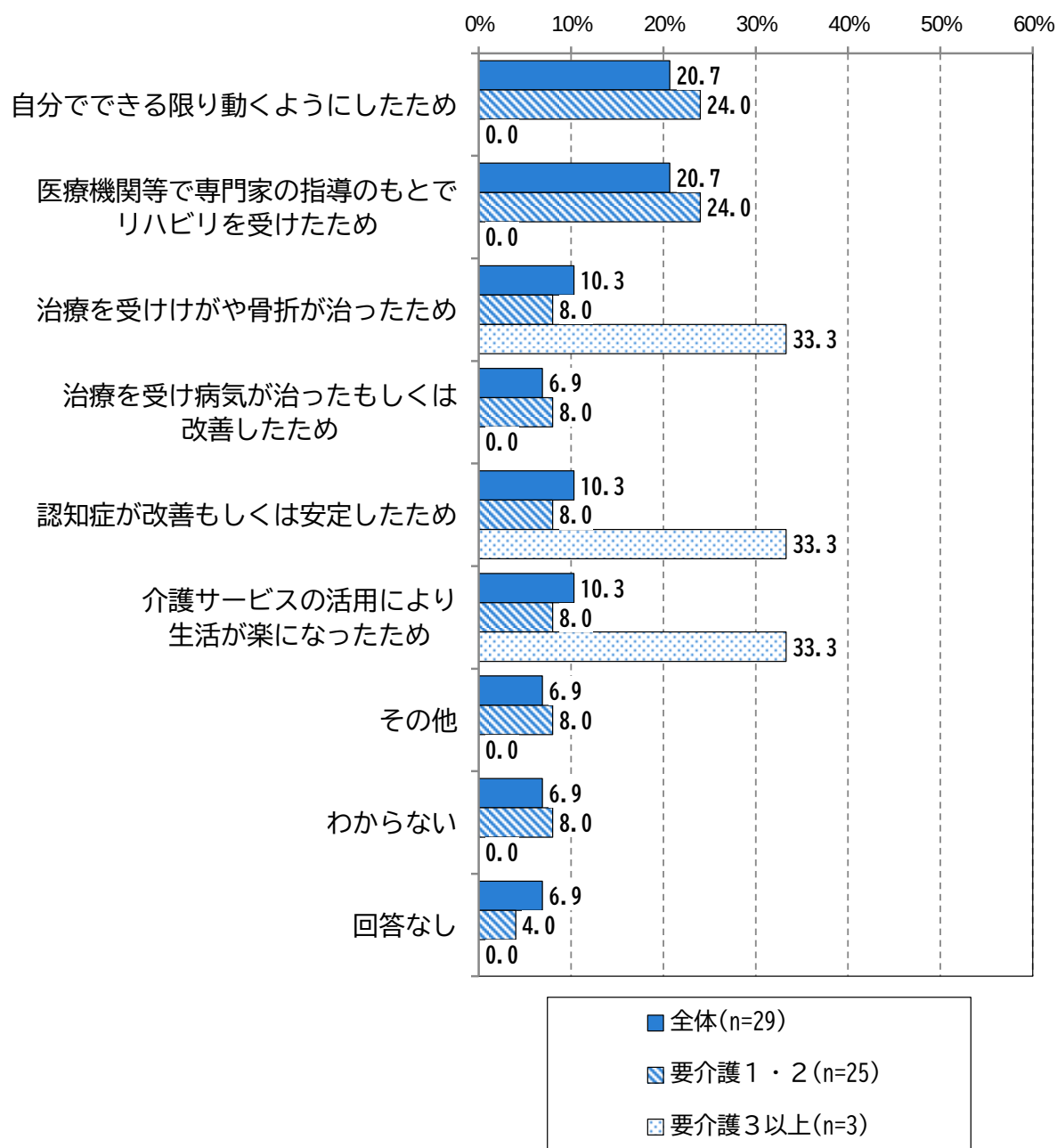
要介護度別にみると、“軽くなった”は要介護1・2では17.8%に比べて、要介護3以上は2.6%に留まっており、「かなり軽くなった」はいない状況です。一方“重くなった”は、要介護1・2では41.8%に比べて要介護3以上は72.0%とかなり高く、特に「かなり重くなった」が28.1%を占め、重度化していることがわかります。



2-9① 要介護認定軽度化の理由

要介護度が軽度化した理由は、自発的な運動とリハビリ

要介護度が“軽くなった”と回答した29人に、その理由を尋ねたところ、「自分でできる限り動くようにしたため」「医療機関等で専門家の指導のもとでリハビリを受けたため」がそれぞれ20.7%と最も高くなっています。

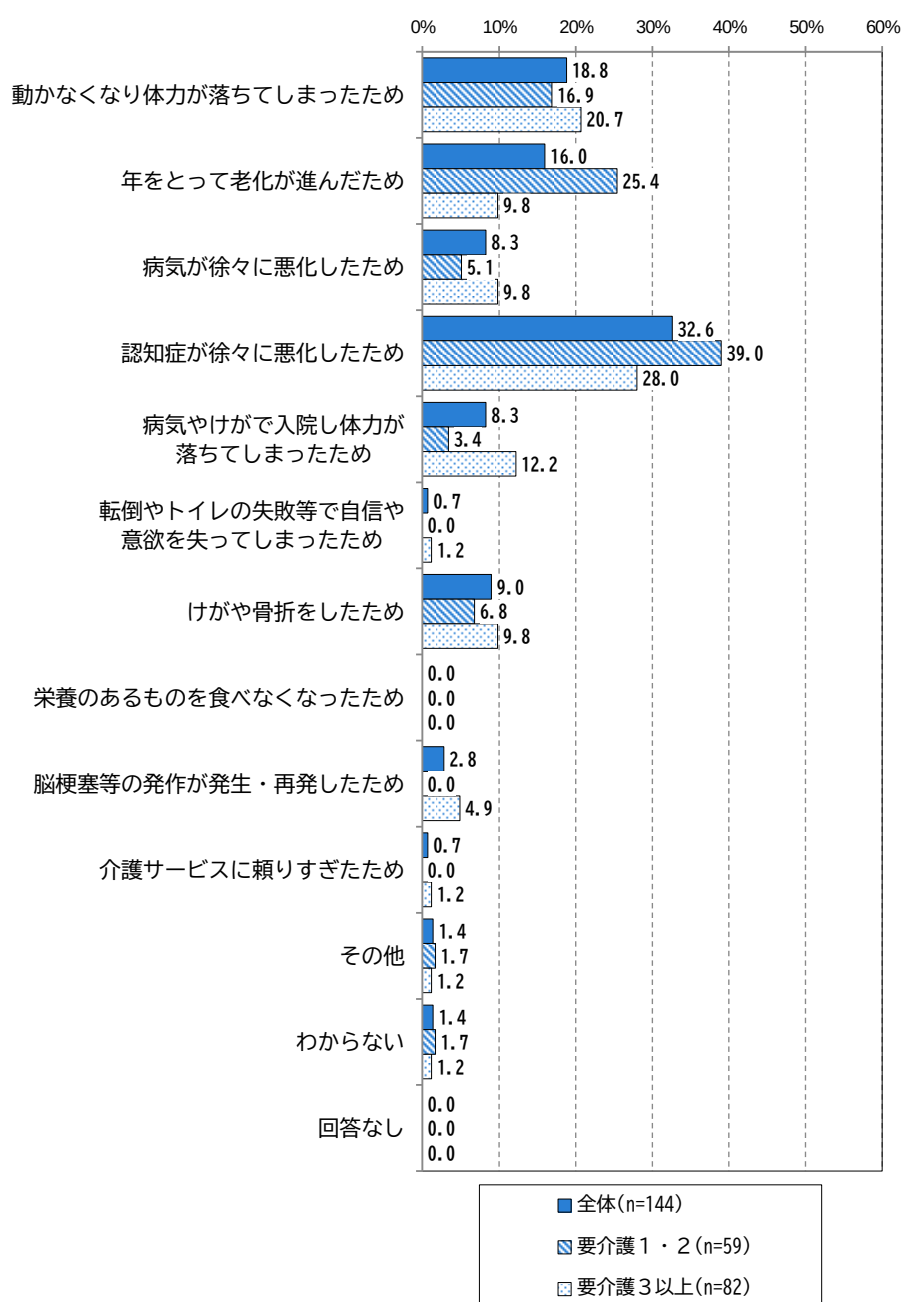


2-9② 要介護認定重度化の理由

要介護度が重度化した理由は、認知症の悪化、体力の低下、老化の進行

要介護度が“重くなった”と回答した 144 人に、その理由を尋ねたところ、「認知症が徐々に悪化したため」が 32.6%と最も高く、「動かなくなり体力が落ちてしまったため」が 18.8%、「年をとって老化が進んだため」が 16.0%と続いています。

要介護度別にみると、要介護度に関わらず「認知症が徐々に悪化したため」が最も高くなっています。要介護1・2では「年をとって老化が進んだため」「動かなくなり体力が落ちてしまったため」の順で、要介護3以上では、「動かなくなり体力が落ちてしまったため」「病气やけがで入院し体力が落ちてしまったため」の順で続いています。要介護1・2では老化が、要介護3以上では体力の低下が重度化の理由となっています。

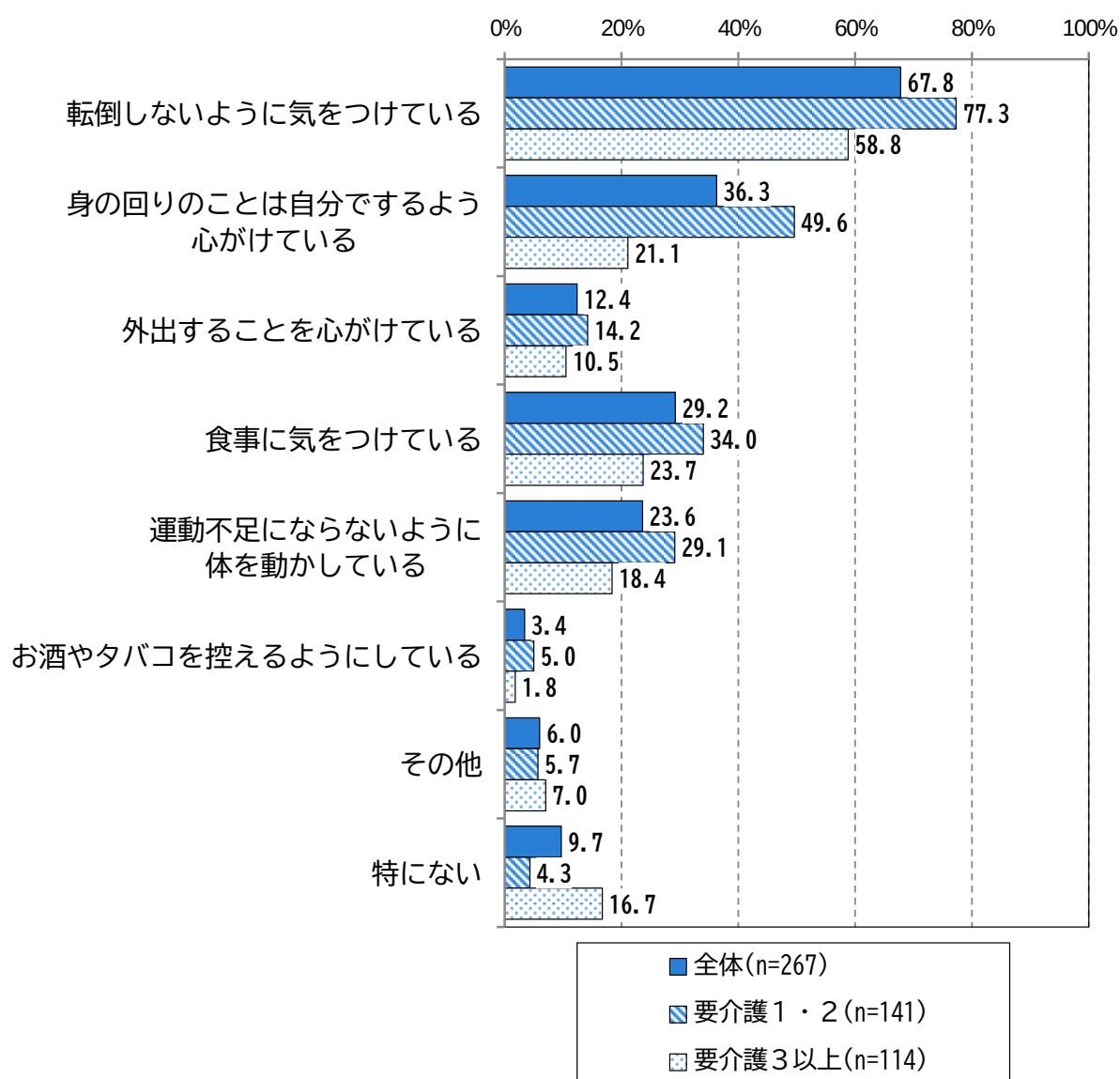


2-10 要介護認定が重度化しないためにしていること

重度化しないためには、転倒に気をつけているが 67.8%

要介護認定が重度化しないためにしていることは、「転倒しないように気をつけている」が 67.8%と最も高く、「身の回りのことは自分でするよう心がけている」36.3%、「食事に気をつけている」29.2%、「運動不足にならないように体を動かしている」23.6%と続いています。

要介護度別にみると、ほとんどの項目で要介護1・2の比率が高くなっています。また、要介護3以上は「特にない」が要介護1・2に比べてかなり高くなっています。

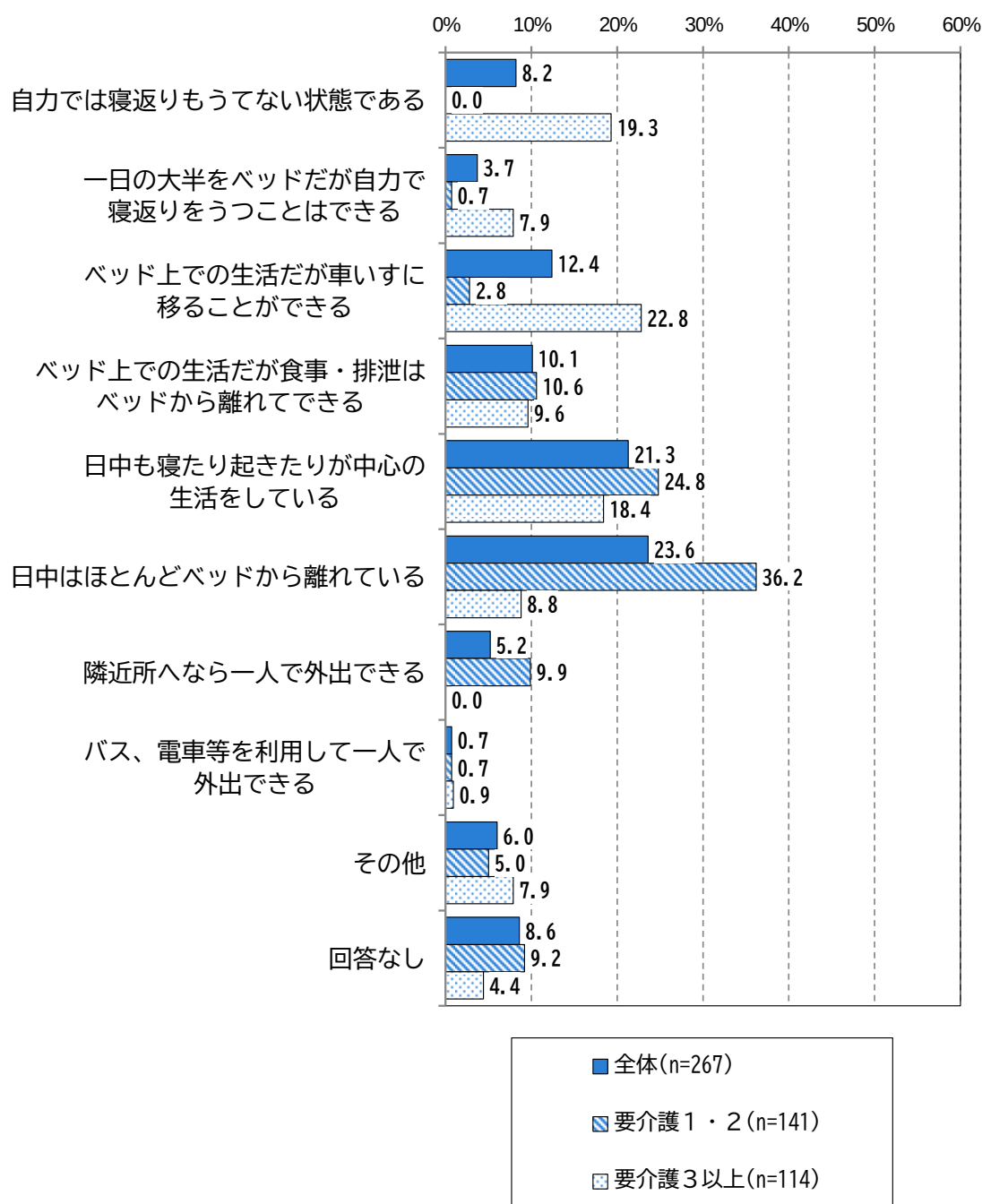


2-11 現在の生活

現在の生活が、34.4%は“ベッド上での生活”、29.5%は“ベッドから離れている”

現在の生活が、「自力では寝返りもうてない状態である」から「ベッド上での生活だが食事・排泄はベッドから離れてできる」までを合わせた“ベッド上での生活”は34.4%を占めています。一方、「日中はほとんどベッドから離れている」から「バス、電車等を利用して一人で外出できる」を合わせた“ベッドから離れている”は29.5%となっています。

要介護度別にみると、要支援1・2は“ベッドから離れている”が46.8%に対して、要介護3以上は“ベッド上での生活”が59.6%を占めています。

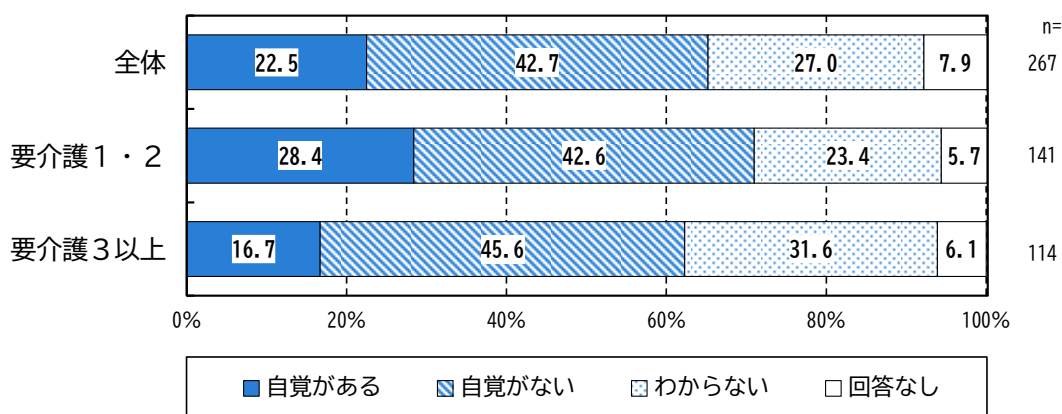


2-12 認知症状について

認知症状の自覚があるのは 22.5%

認知症状の「自覚がある」が 22.5%に対して、「自覚がない」は 42.7%と最も高くなっています。また、「わからない」も 27.0%あります。

要介護度別にみると、要介護1・2、要介護3以上ともに「自覚がない」が最も高くなっており、要介護1・2は「自覚がある」が 28.4%と要介護3以上の 16.7%に比べてかなり高くなっています。一方、要介護3以上は「わからない」が 31.6%で比較的高い状況です。

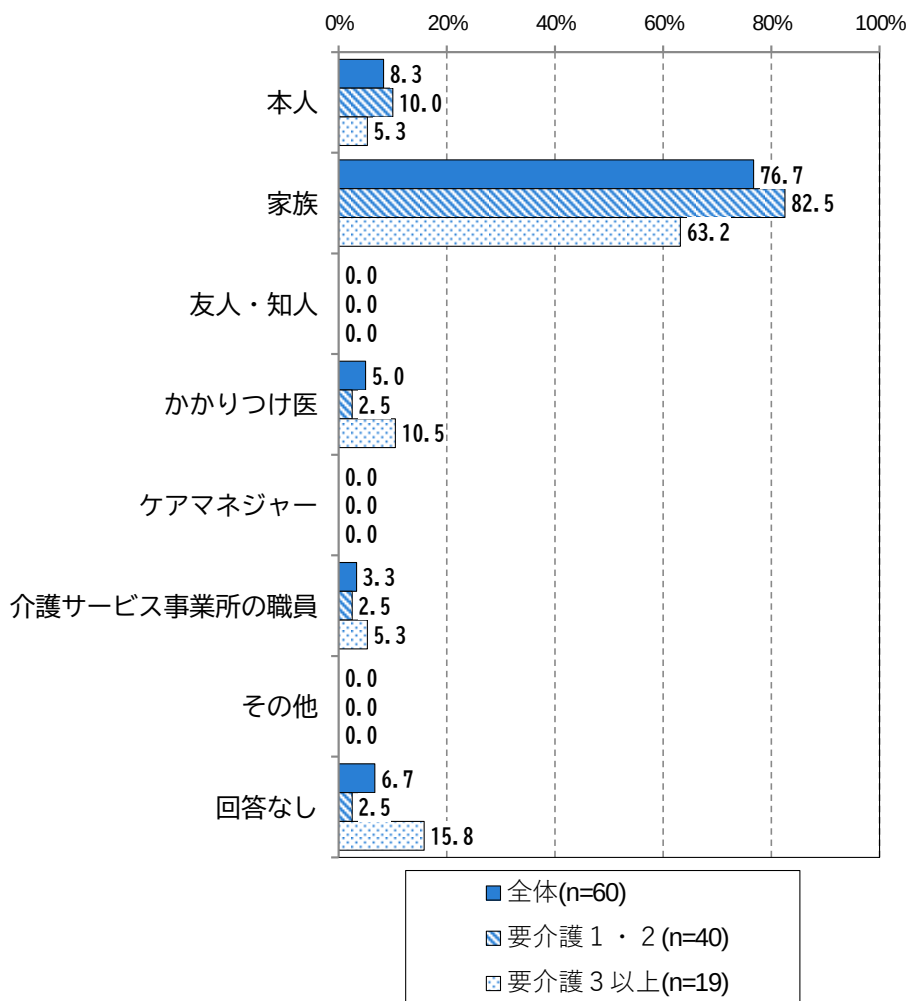


2-13 認知症に気づいた周囲の人

認知症に気づいたのは家族が 76.7%、本人が 8.3%

認知症に気づいた周囲の人は、「家族」が 76.7%と最も高くなっています。次いで、「本人」8.3%、「かかりつけ医」5.0%、「介護サービス事業所の職員」3.3%です。「友人・知人」「ケアマネジャー」は回答がなく、日常的にふれあう人か専門家となっています。

要介護度別にみると、「家族」は要介護度に関わらず最も高くなっていますが、要介護1・2は82.5%に対して、要介護3以上は63.2%とかなり差があります。

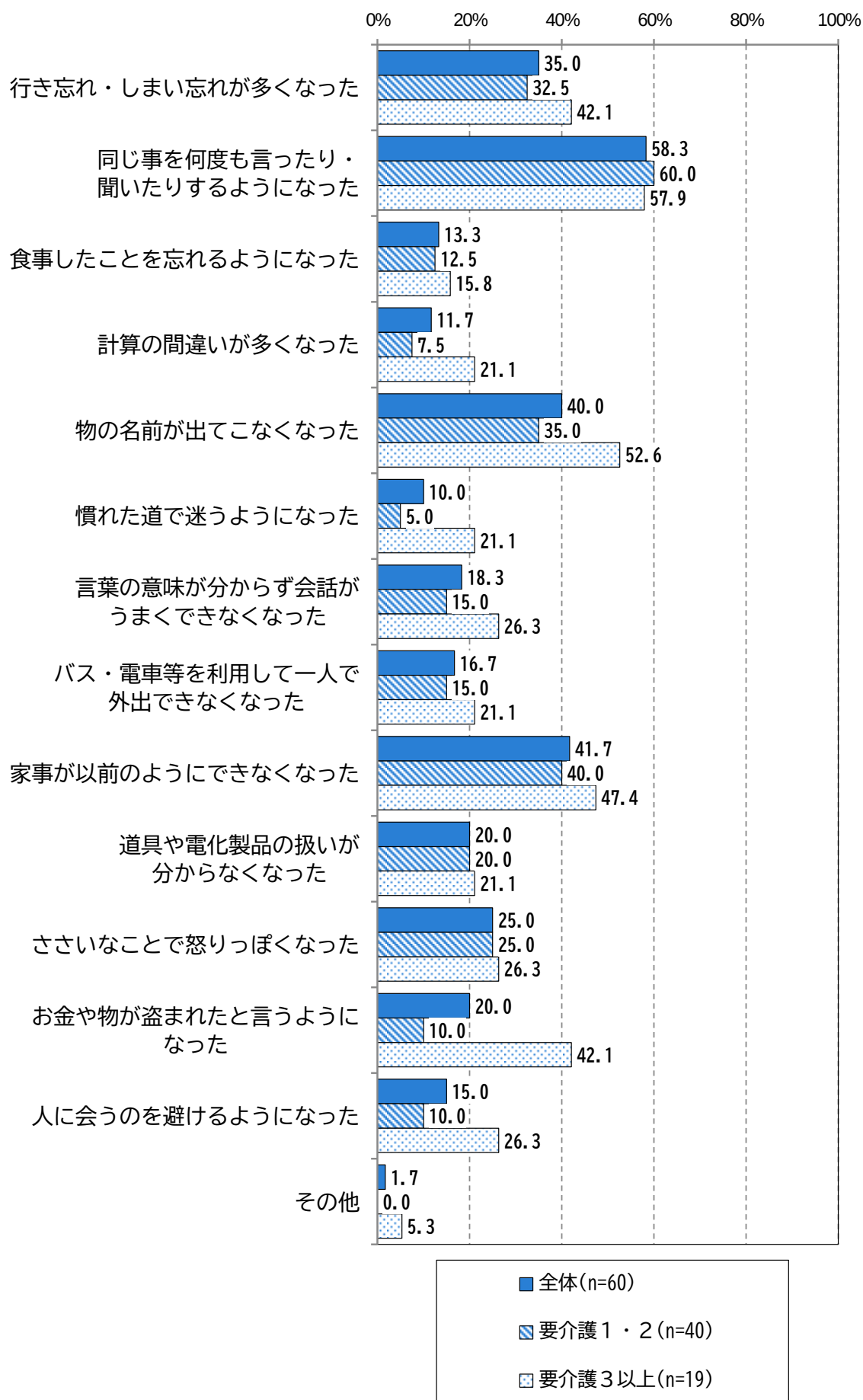


2-14 認知症に気づいた理由

認知症に気づいた理由は、同じことを何度も言う、家事ができなくなった、物の名前が出てこない

認知症に気づいた理由は、「同じ事を何度も言ったり・聞いたりするようになった」が 58.3%と最も高く、「家事が以前のようにできなくなった」が 41.7%、「物の名前が出てこなくなった」が 40.0%と続いています。すべての項目で 10%以上の回答があります。

要介護度別にみると、要介護 1・2、要介護 3 以上はともに「同じ事を何度も言ったり・聞いたりするようになった」が最も高くなっています。要介護 3 以上では「物の名前が出てこなくなった」52.6%、「家事が以前のようにできなくなった」47.4%「行き忘れ・しまい忘れが多くなった」と「お金や物が盗まれたと言うようになった」42.1%が特に高くなっており「言葉の意味が分からず会話がうまくできなくなった」「人に会うのを避けるようになった」、「計算の間違いが多くなった」「慣れた道で迷うようになった」「バス・電車等を利用して一人で外出できなくなった」は要介護 1・2 に比べて高くなっています。

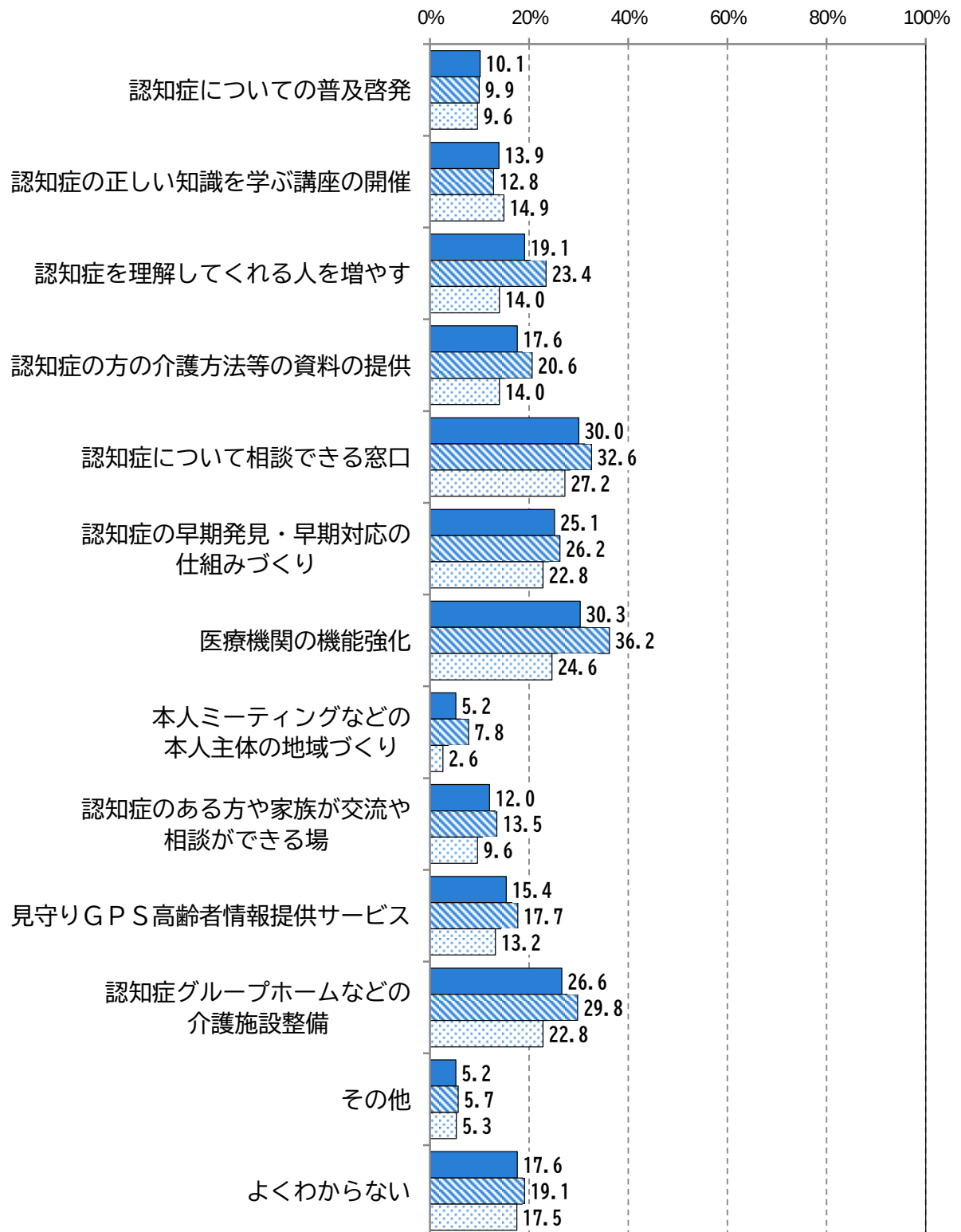


2-15 充実してほしい認知症施策

認知症施策として充実してほしいのは、医療機関の機能強化、相談窓口、介護施設整備、早期発見・早期対応の仕組みづくり

充実してほしい認知症施策は「医療機関の機能強化」が 30.3%と最も高く、「認知症について相談できる窓口」が 30.0%、「認知症グループホームなどの介護施設整備」が 26.6%、「認知症の早期発見・早期対応の仕組みづくり」が 25.1%と続いています。

要介護度別にみると、要支援1・2は「医療機関の機能強化」、要介護3以上では「認知症について相談できる窓口」が最も高くなっています。多くの項目で要介護3以上に比べて要支援1・2が高く、特に「医療機関の機能強化」「認知症について相談できる窓口」「認知症を理解してくれる人を増やす」「認知症の方の介護方法等の資料の提供」「認知症グループホームなどの介護施設整備」は差があります。



■ 全体 (n=267)

▨ 要介護1・2 (n=141)

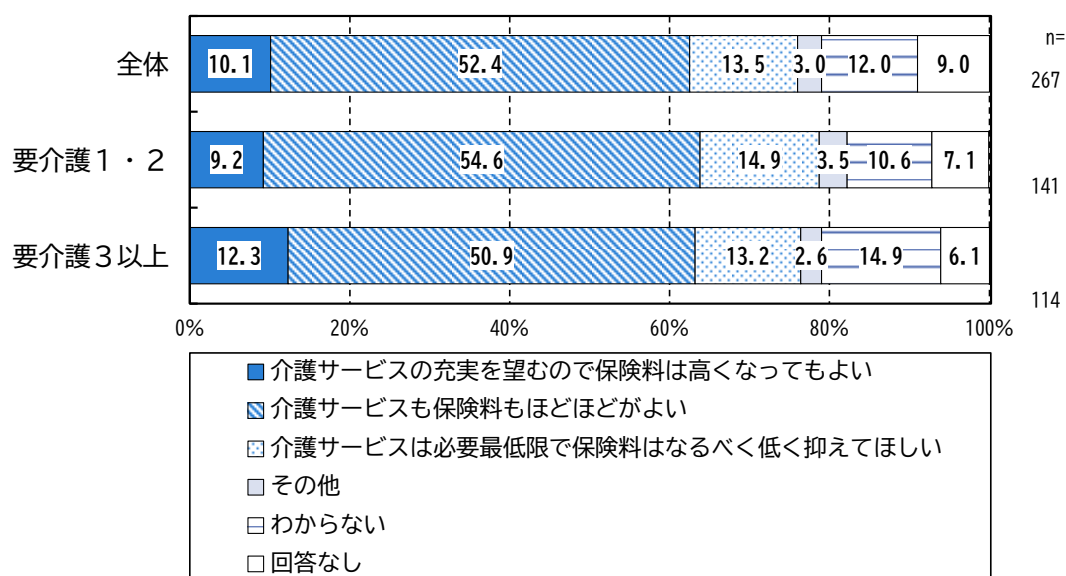
▤ 要介護3以上 (n=114)

3 介護保険料や介護サービスの利用料について

介護サービスも保険料もほどほどがよいが最も高い

介護保険料や介護サービスの利用料については、「介護サービスも保険料もほどほどがよい」が 52.4%と半数を超えて最も高く、「介護サービスは必要最低限で保険料はなるべく低く抑えてほしい」が 13.5%、「介護サービスの充実を望むので保険料は高くなってもよい」が 10.1%と続いています。

要介護度別にみても、傾向に大きな差はありません。



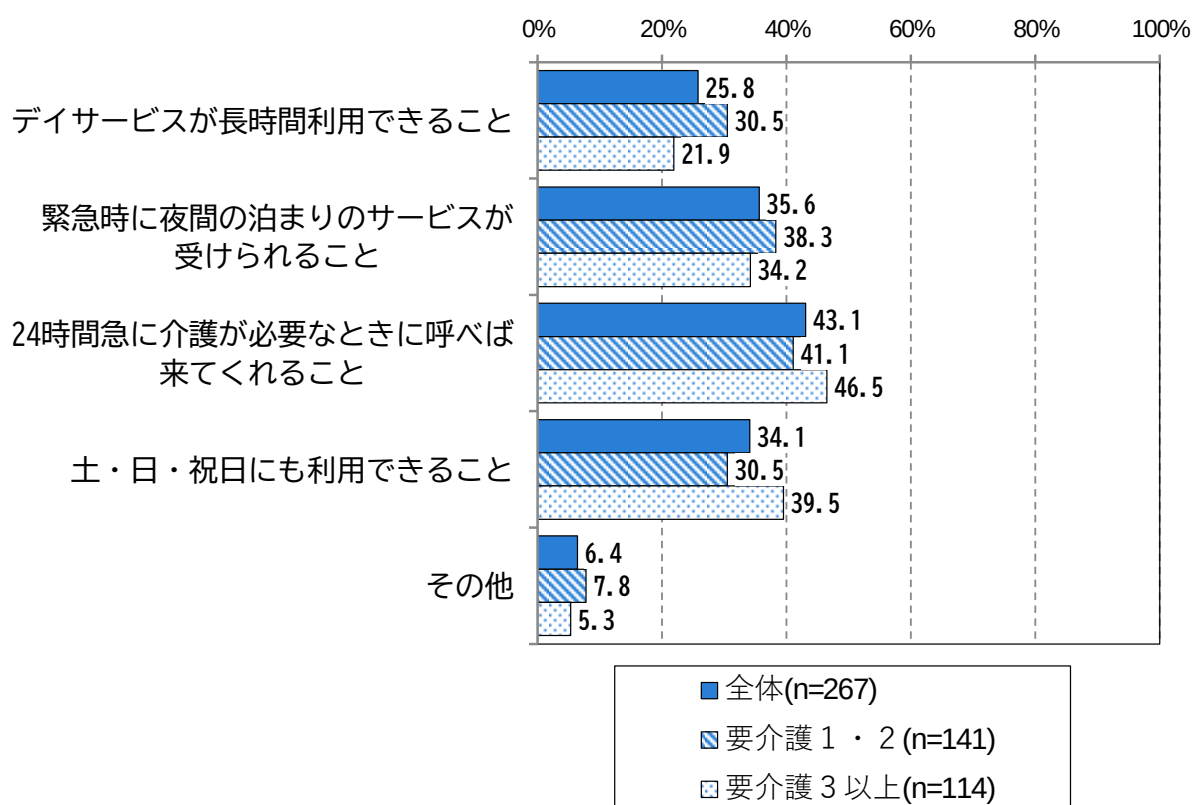
4 介護保険サービスの今後の利用意向

4-1 在宅生活に必要なサービス

在宅生活をするために必要なサービスは 24 時間対応してくれること

在宅生活をするために必要なサービスは「24 時間急に介護が必要なときに呼べば来てくれること」が 43.1%で最も高く、全ての項目で 25%以上の回答があり、様々な対応を求められています。

要介護度別にみると、要介護 3 以上では「24 時間急に介護が必要なときに呼べば来てくれること」「土・日・祝日にも利用できること」がより高くなっています。要介護 1・2 では「デイサービスが長時間利用できること」が高くなっています。

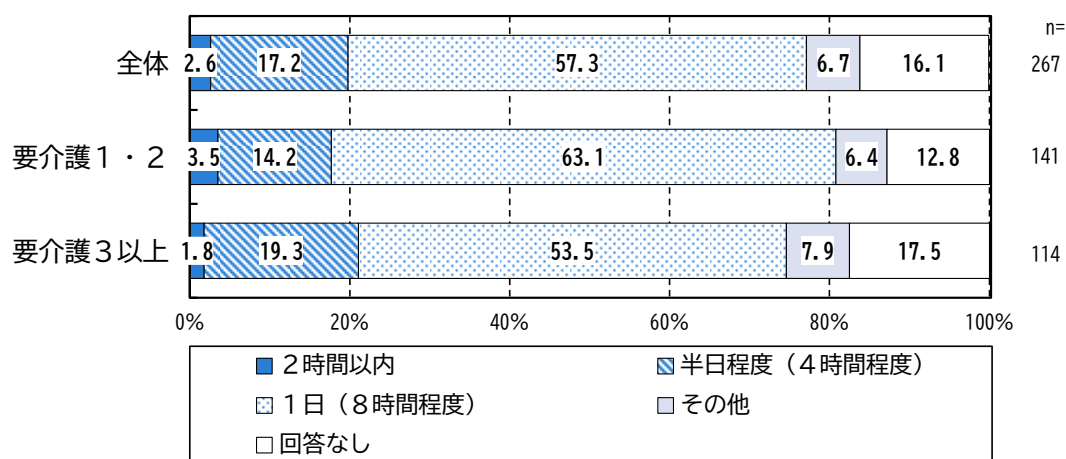


4-2 デイサービスの利用希望時間

デイサービスの利用希望時間は「1日（8時間程度）」が57.3%

デイサービスの利用希望時間は「1日（8時間程度）」が57.3%と最も高く、「半日程度（4時間程度）」が17.2%、「2時間以内」が2.6%と長い利用時間が求められています。

要介護度別にみると、「1日（8時間程度）」は要介護度に関わらず最も高くなっていますが、特に要介護1・2は63.1%とかなり高い状況です。

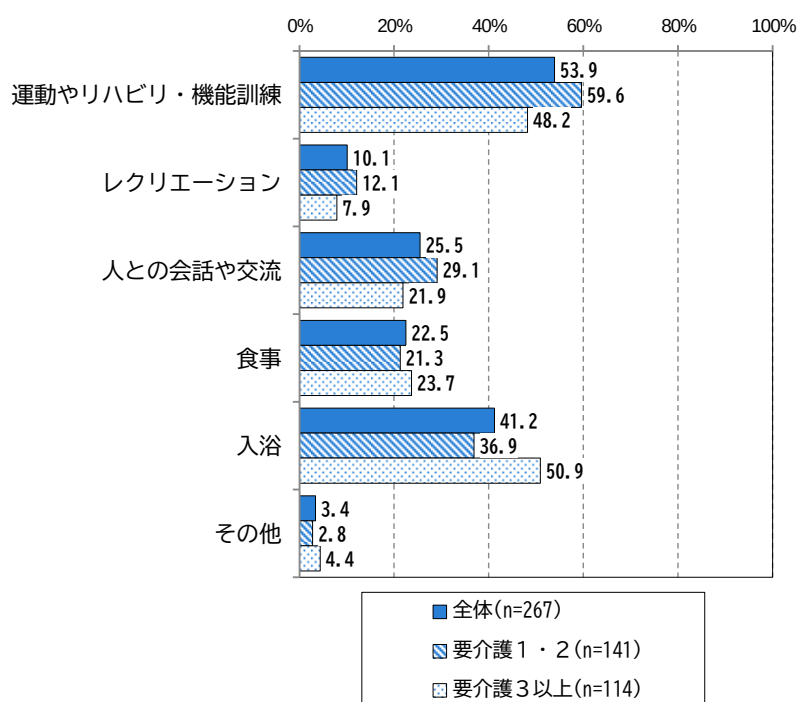


4-3 充実してほしいデイサービス内容

充実してほしいデイサービスの内容は、運動・リハビリ・機能訓練と入浴

充実してほしいデイサービスの内容は、「運動やリハビリ・機能訓練」が53.9%で最も高く、「入浴」41.2%が続いています。

要介護度別にみると、要介護1・2は「運動やリハビリ・機能訓練」、要介護3以上は「入浴」が最も高くなっています。



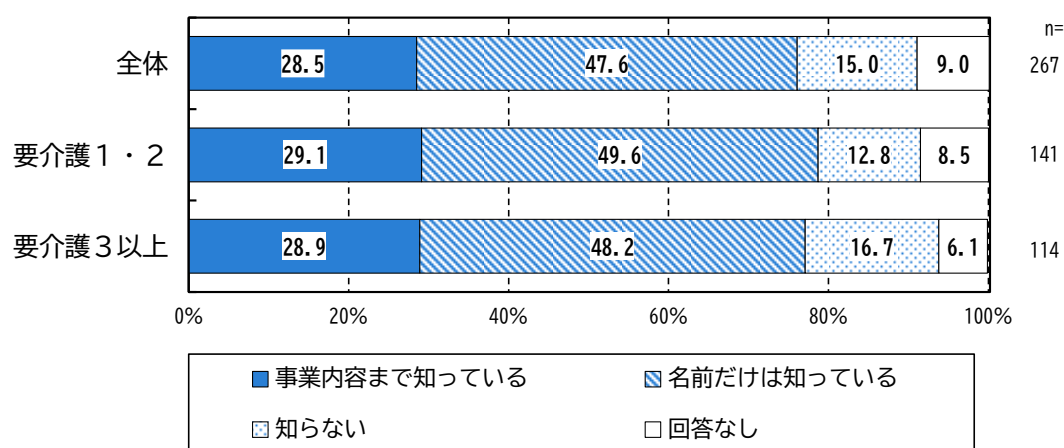
5 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）等について

5-1 高齢者あんしん相談センターの認知度

高齢者あんしん相談センターの認知度は 76.1%

高齢者あんしん相談センターを「事業内容まで知っている」が 28.5%と「名前だけは知っている」47.6%を合わせると 76.1%が“知っている”と回答しています。

要介護度別では大きな傾向の違いはありません。

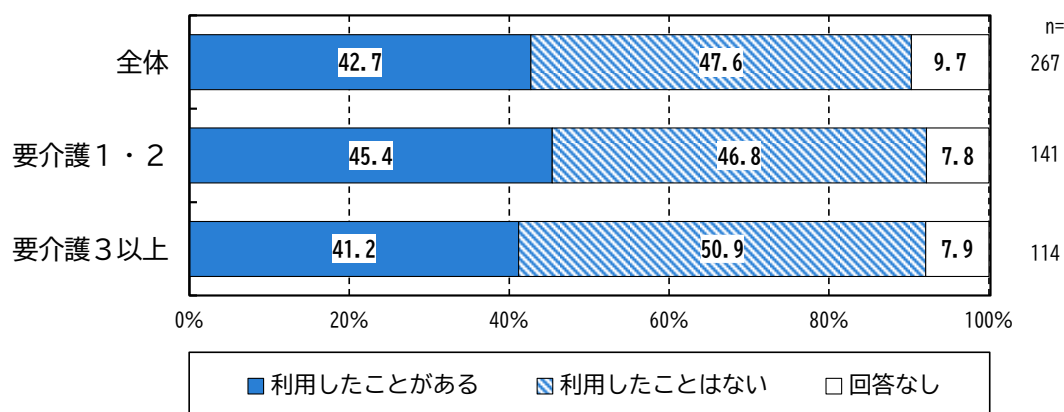


5-2 高齢者あんしん相談センターの利用経験

42.7%が高齢者あんしん相談センターの利用経験あり

高齢者あんしん相談センターを「利用したことがある」は 42.7%です。

要介護度別では大きな傾向の違いはありません。

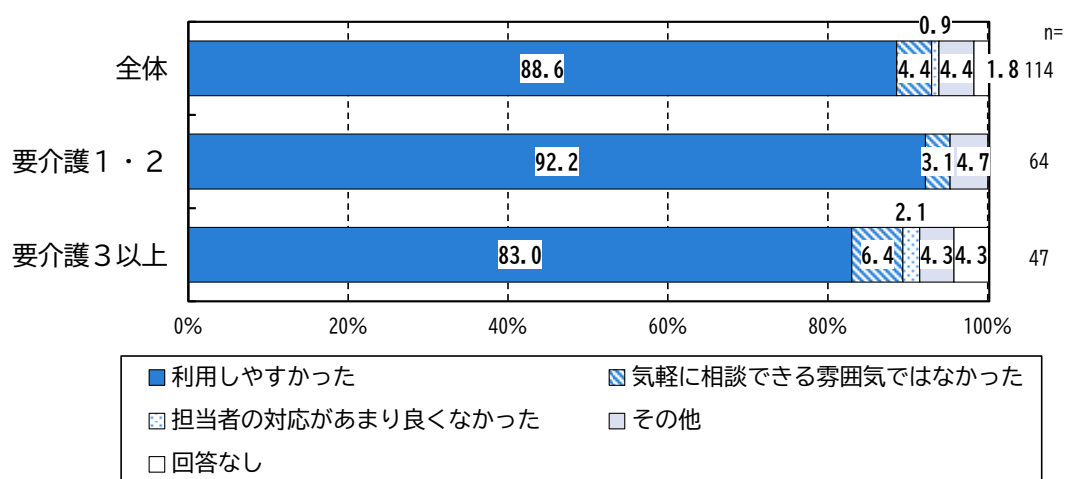


5-2① 高齢者あんしん相談センターの印象

高齢者あんしん相談センターは 88.6%が利用しやすかったという印象

高齢者あんしん相談センターを利用したことがあると回答した 114 人を対象に、センターの印象を尋ねたところ、「利用しやすかった」が 88.6%で最も高くなっています。一方、「気軽に相談できる雰囲気ではなかった」が 4.4%、「担当者の対応があまり良くなかった」が 0.9%と合わせると 5.3%は悪い印象を持っています。

要介護度別にみると、「利用しやすかった」が要介護1・2では 92.2%とかなり高く、要介護3以上の 83.0%とともに最も高くなっています。

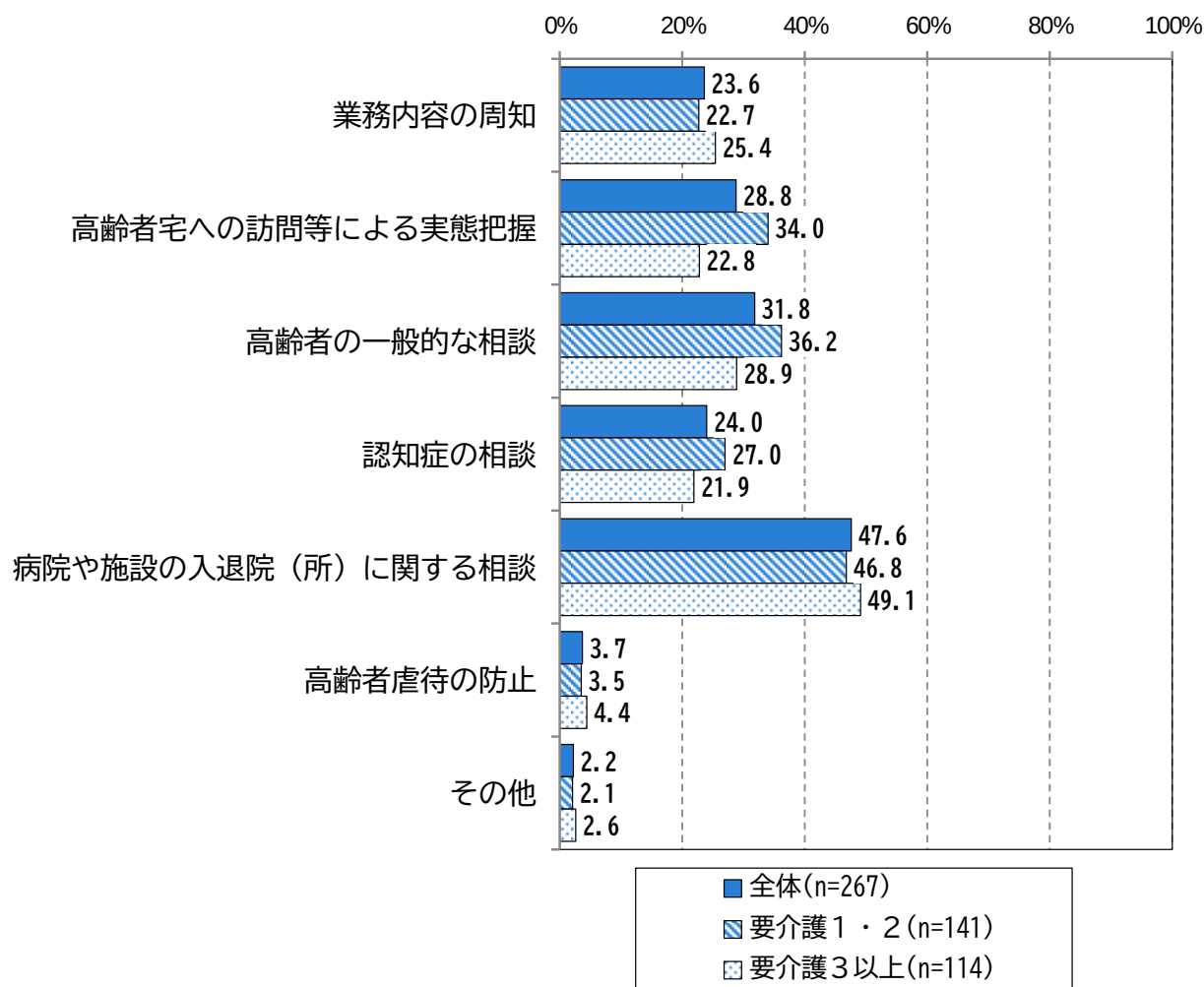


5-3 力を入れてほしい高齢者あんしん相談センターの事業内容

力を入れてほしい高齢者あんしん相談センターの事業内容として、「病院や施設の入退院（所）に関する相談」が最も高い

力を入れてほしい高齢者あんしん相談センターの事業内容として、「病院や施設の入退院（所）に関する相談」が47.6%と最も高くなっています。そのほかの項目にも20%を超える回答が多く、様々な事業への期待が高い状況です。

要介護度別にみると、「病院や施設の入退院（所）に関する相談」は要介護度に関わらず最も高くなっており、「高齢者宅への訪問等による実態把握」「高齢者の一般的な相談」「認知症の相談」は要介護1・2が特に高くなっています。

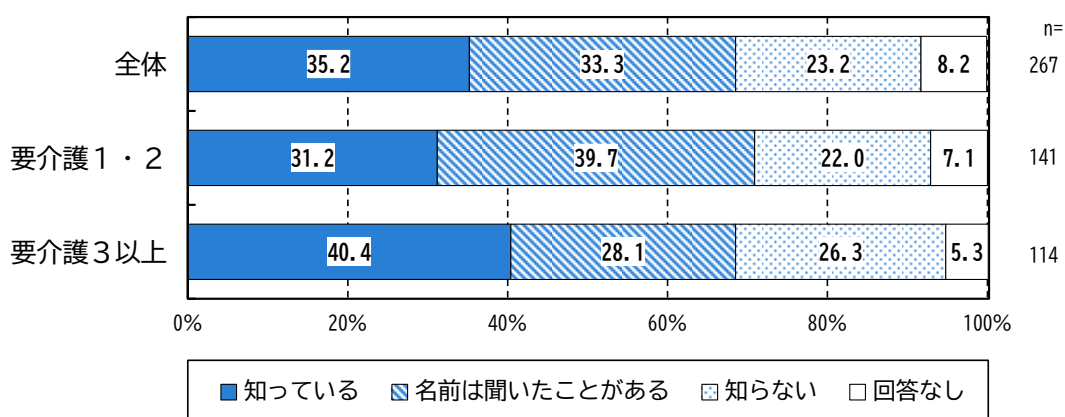


5-4 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度は 68.5%

成年後見制度を「知っている」が 35.2%と最も多く、「名前は聞いたことがある」33.3%を合わせると、68.5%の認知度があります。

要介護度別にみると、要介護1・2は70.9%、要介護3以上は68.5%の認知度があり、要介護3以上は「知っている」が40.4%とかなり高くなっています。

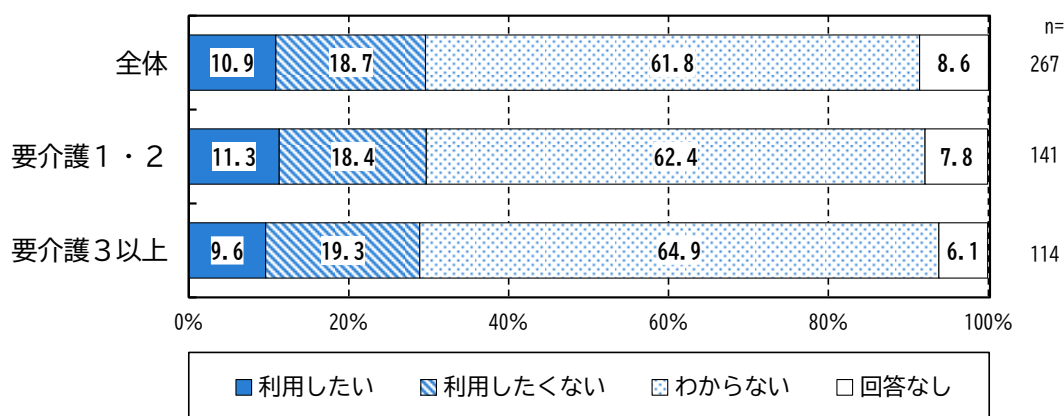


5-5 成年後見制度の利用意向

成年後見制度の利用意向は 11.3%

成年後見制度を「利用したい」は10.9%に留まっており、「わからない」が61.8%と最も高い状況です。

要介護度別では大きな傾向の違いはありません。



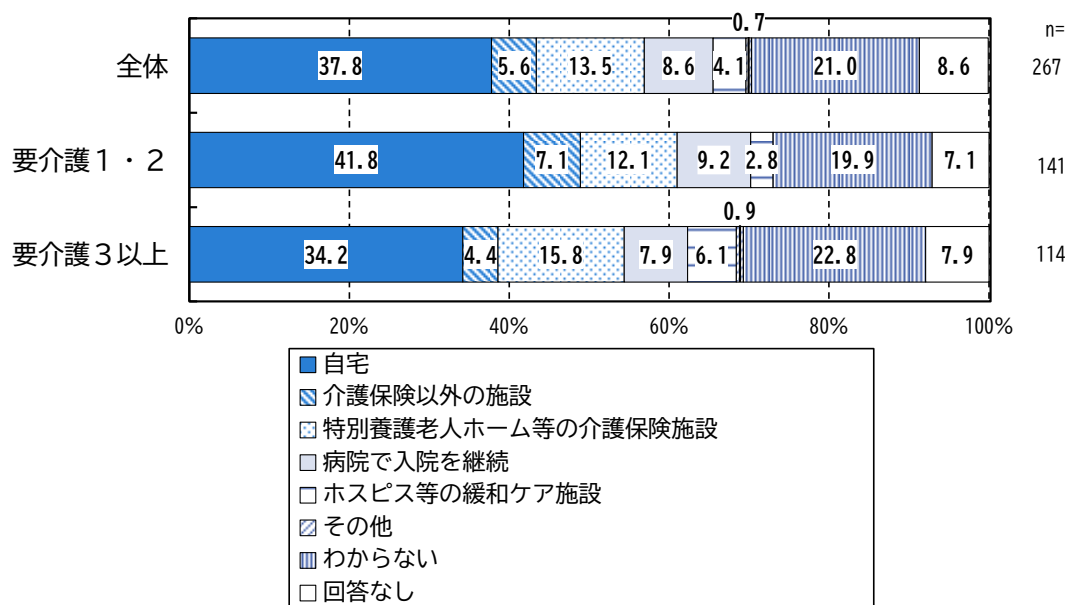
6 希望する将来の過ごし方

6-1 希望する終末期の過ごし方

希望する終末期の過ごし方は自宅が 37.8%、病院や施設が 31.8%

希望する終末期の過ごし方は「自宅」が 37.8%と最も高く、「特別養護老人ホーム等の介護保険施設」が 13.5%「病院で入院を継続」が 8.6%と続いています。一方「わからない」が 21.0%います。

要介護度別にみると、「自宅」は要介護1・2が 41.8%と要介護3以上の 34.2%に比べてかなり高くなっています。

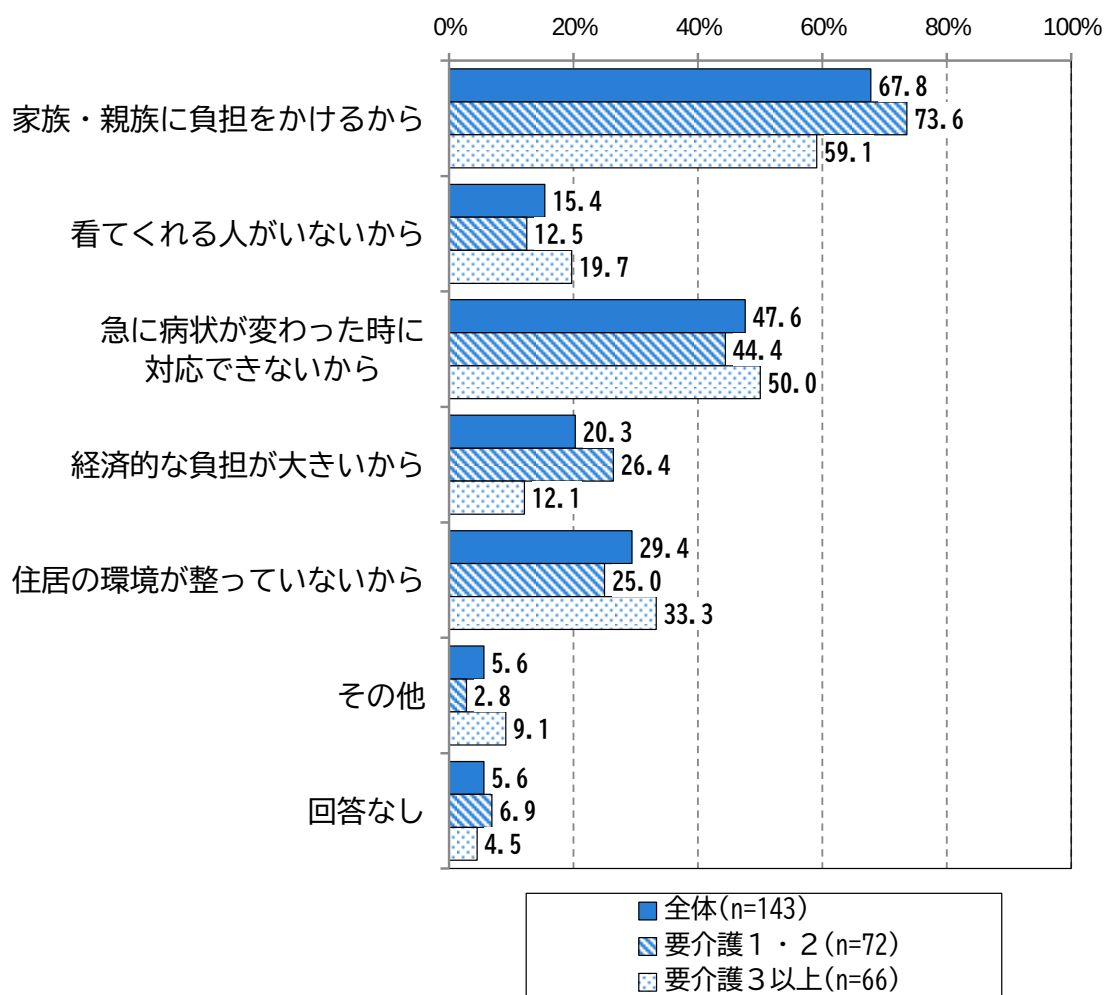


6-1① 終末期を自宅で過ごすことが困難な理由

終末期を自宅で過ごすことが困難な理由は、家族に負担をかけるが 67.8%

終末期に過ごす場所を「自宅」以外と回答した 143 人を対象に、自宅で過ごすことが困難な理由を尋ねたところ、「家族・親族に負担をかけるから」が 67.8%と最も高く、次いで「急に病状が変わった時に対応できないから」が 47.6%、「住宅の環境が整っていないから」が 29.4%、「経済的な負担が大きいから」が 20.3%と続いています。

要介護度別にみると、「家族・親族に負担をかけるから」は要介護1・2が 73.6%とかなり高いのに対して、要介護3以上は 59.1%とやや低くなっています。要介護1・2では「経済的な負担が大きいから」、要介護3以上では「急に病状が変わった時に対応できないから」「住宅の環境が整っていないから」が高く、要介護度別の差が大きくなっています。



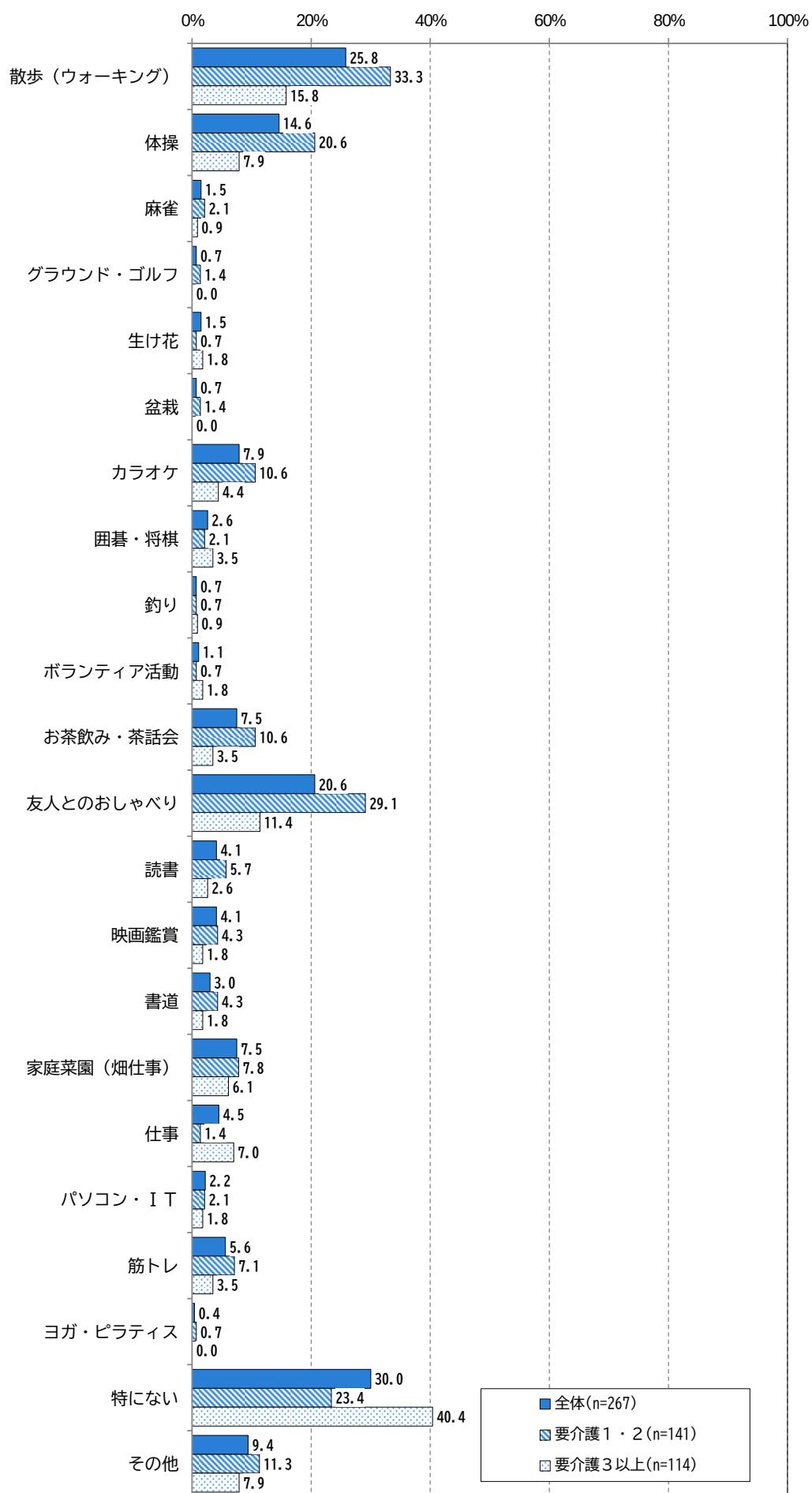
7 高齢者施策について

7-1 元気で過ごすために取り組んでいること

元気で過ごすために取り組んでいることは散歩と友人とのおしゃべり

元気で過ごすために取り組んでいることは「散歩（ウォーキング）」が 25.0%、「友人とのおしゃべり」が 20.6%、「体操」14.6%が高くなっています。一方で「特にない」30.0%が最も高い状況です。

要介護度別にみると、要介護1・2は「散歩（ウォーキング）」「友人とのおしゃべり」「体操」「カラオケ」「お茶飲み・茶話会」が要介護3以上に比べて高くなっています。要介護3以上は「特にない」が 40.4%とかなり高くなっています。



7-2 期待する高齢者施策

期待される高齢者施策は、家族介護支援、介護サービスの充実、医療・介護・住宅の総合的な体制の充実、生活支援事業の充実が高い

期待する高齢者施策は「家族介護に対する支援」が 51.7%と最も高く、「介護サービスの充実」が 43.1%、「医療・介護・住まい等の総合的な体制の充実」が 42.7%、「高齢者の生活支援事業の充実」が 40.4%、「医療の充実」が 39.0%と様々な施策の充実が求められています。

要介護度別にみると、「家族介護に対する支援」は要介護度に関わりなく最も高くなっています。要介護1・2が特に高い項目は「高齢者の生活支援事業の充実」「健康づくりと介護予防の推進」「認知症対応の充実」「世代間交流の促進」「防犯・防災・交通安全対策の推進」です。要介護3以上が特に高い項目は「介護サービスの充実」「高齢者の就労の促進」です。

